

門前地区体育施設災害復旧工事

設 計 図

図面リスト 建築主体工事				図面リスト 電気設備工事		図面リスト 機械設備工事	
図面番号	図 面 名 称	図面番号	図 面 名 称	図面番号	図 面 名 称	図面番号	図 面 名 称
A - 0 1	建築改修工事仕様書 その1	A - 3 9	門前武道館 平面図（改修前）	E - 0 1	工事仕様書（電気1）R7. 4	M - 0 1	工事仕様書（機械1）R7. 4. 1
A - 0 2	建築改修工事仕様書 その2	A - 4 2	門前武道館 立面図 1（改修前）	E - 0 2	工事仕様書（電気2）R7. 4	M - 0 2	工事仕様書（機械2）R5. 4. 1
A - 0 3	建築改修工事仕様書 その3	A - 4 3	門前武道館 立面図 2（改修前）	E - 0 3	工事仕様書（電気3）R7. 4	M - 0 3	工事仕様書（機械3）R7. 4. 1
A - 0 4	建築改修工事仕様書 その4	A - 4 4	門前武道館 平面図（解体図）	E - 0 4	電灯設備（照明）多目的体育館 1階平面図（改修後）	M - 0 4	配置図_既存図
A - 0 7	配置図（改修前/現況図）、付近見取り図	A - 4 5	門前武道館 立面図 1（解体図）	E - 0 5	電灯設備（照明）多目的体育館 1階平面図（改修前）	M - 0 6	衛生器具表
A - 0 8	配置図（撤去キープラン）	A - 4 6	門前武道館 立面図 2（解体図）	E - 0 6	電灯設備（照明）門前町立武道館 平面図（改修後）	M - 1 6	門前町立武道館_給排水衛生設備既存図
A - 0 9	配置図（改修キープラン）	A - 4 7	門前武道館 平面図（改修図）	E - 0 7	電灯設備（照明）門前町立武道館 平面図（改修前）	M - 1 7	門前町立武道館_給排水衛生詳細図
A - 1 5	仮設参考図	A - 4 8	門前武道館 立面図 1（改修図）			M - 1 8	門前町立武道館_換気設備詳細図
A - 1 6	多目的体育館 1階平面図（改修前）	A - 4 9	門前武道館 立面図 2（改修図）			M - 1 9	門前町立武道館_給排水衛生設備改修図
A - 1 7	多目的体育館 高窓部分平面図（改修前）	A - 5 0	門前武道館 部分詳細図（1）			M - 2 0	門前町立武道館_給排水衛生改修詳細図
A - 1 8	多目的体育館 基礎伏図（改修前）					M - 2 1	多目的体育館_給排水衛生設備既存図
A - 1 9	多目的体育館 立面図 1（改修前）						
A - 2 0	多目的体育館 立面図 2（改修前）						
A - 2 1	多目的体育館 断面図・展開図 1（改修前）						
A - 2 2	多目的体育館 断面図・展開図 2（改修前）						
A - 2 3	多目的体育館 1階平面図（解体図）						
A - 2 4	多目的体育館 高窓部分平面図（解体図）						
A - 2 5	多目的体育館 立面図 1（解体図）						
A - 2 6	多目的体育館 立面図 2（解体図）						
A - 2 7	多目的体育館 断面図・展開図 1（解体図）						
A - 2 8	多目的体育館 断面図・展開図 2（解体図）						
A - 2 9	多目的体育館 1階平面図（改修図）						
A - 3 0	多目的体育館 高窓部分平面図（改修図）						
A - 3 1	多目的体育館 立面図 1（改修図）						
A - 3 2	多目的体育館 立面図 2（改修図）						
A - 3 3	多目的体育館 断面図・展開図 1（改修図）						
A - 3 4	多目的体育館 断面図・展開図 2（改修図）						
A - 3 5	多目的体育館 建具表 1（解体図）						
A - 3 6	多目的体育館 建具表 2（改修図）						
A - 3 7	多目的体育館 部分詳細図（1）						
A - 3 8	多目的体育館 部分詳細図（2）						
							※健民体育館関連図面は改修・撤去未定のため参考図とする
株式会社 MAC建築研究所 管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健		■製作年月日/DATE 2025. 09	■担当/CHECK D. SATO	■製図/DRAWER D. SATO	■特記事項	■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE 門前地区体育施設災害復旧工事	■図面名称/DRAWING-TITLE 表紙・図面リスト
						■縮尺/SCALE N. S. (A1) N. S. (A3)	■図番/No. A-00

建築改修工事仕様書

最終改訂 令和7年4月1日

I 工 事 概 要

1 工 事 名

門前地区体育施設災害復旧工事

2 工事場所

輪島市門前町清水地内

3 工事種目

1. 外構復旧工事・・・・・・・・・・舗装工事は本工事対象外

2. 屋外テニスコート復旧工事・・・テニスコート床他（本工事対象外）

3. 門前野球場復旧工事・・・・・・擁壁、フェンス他（本工事対象外）

4. 多目的体育館復旧工事・・・・・・建具、床他

5. 門前武道館復旧工事・・・・・・外壁、外構階段、電気設備、機械設備他

4 完成期日

令和 年 月 日（概成工期 令和 年 月 日）
（余裕期間制度試行工事適用の場合は、上記を完成日の期限とする。）

5 別契約
関連工事

・ 屋外付帯工事

・ 植栽工事

・ 電気設備工事

・ 給排水衛生設備工事

・ 暖房設備工事

・ 冷房設備工事

・ 換気設備工事

・ 空調設備工事

・ 昇降機設備工事

・ 電話設備工事

・ 浄化槽設備工事

・

II 建築工事仕様

1 共 通 仕 様

1) 図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官庁官庁営繕部監修「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）令和４年版」（以下「改修仕様」という。）、国土交通省大臣官庁官庁営繕部監修建築物解体工事共通仕様書（令和４年版）」（以下「解体共仕」という。）及び国土交通省大臣官庁官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）令和４年版」（以下「仕様」という。）による。

2) 電気設備工事及び機械設備工事を本工事に含む場合は、電気設備工事及び機械設備工事はそれぞれの工事仕様書を適用する。なお、電気設備工事の工事仕様書は（／）図、機械設備工事の工事仕様書は（／）図による。

2 特 記 仕 様

1) 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。
2) 特記事項は、◎印の付いたものを適用する。
○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
◎印と◎印の付いた場合は、共に適用する。

3) 特記事項に記載の（ ）内表示番号は、「横仕」の該当項目、当該図又は当該表を示す。
4) （別図－ ）は、「横仕」の別図「各部配筋」の当該番号を示す。
5) 特記事項に記載の[]内表示番号は「改修仕様」の当該項目、当該図又は当該表を示す。
6) [□]印は、「国等による環境物品等の調達推進に関する法律」（グリーン購入法）の特定調達品目を示す。該当する項目については、環境負荷を低減できる材料を選定するように努める。
7) 製造所名は、五十音順とし「株式会社」等の記載は省略する。また、（ ）内は製品名を示す。
8) 斜線で消去した章は適用しない。

項 目

1章 一 般 共 通 事 項

① 適用基準等

設計図書その他、下記の図書の該当事項を適用する。
○建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官庁官庁営繕部監修 令和４年版）
○建築構造設計基準の資料（国土交通省大臣官庁官庁営繕部 令和３年通知）のうち第３章
○施組工事写真撮影要領（令和３年版）（国土交通省大臣官庁官庁営繕部）
○施組工事電子納品要領（国土交通省大臣官庁官庁官庁営繕部令和３年度版）
・ 公共建築木造工事標準仕様書（国土交通省大臣官庁官庁官庁営繕部監修 令和４年版）
・ 屋根瓦工事共通仕様書（石川県土木部営繕課監修 平成２９年版）
○鉄筋コンクリート構造配筋標準図（石川県土木部営繕課監修）
・ 型式鉄筋コンクリート構造配筋標準図（石川県土木部営繕課監修）
○鉄骨構造標準図（石川県土木部営繕課監修）
・ 石川県バリアフリー社会の推進に関する条例（施設整備の手引き）
・ 石川県公共事業景観形成ガイドライン

② 工事実績情報の登録

※登録する。（但し工事請負代金額500万円以上の工事。）

③ 発生材の処理

① 産業廃棄物は「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づく許可業者により運搬し、同法に基づく許可を得た処分場で処分する。
また、処分の際には産業廃棄物管理票（マニフェスト）により適正に処理されていることを確認するとともに、マニフェスト一覧表を監督員に提出し、確認を受けなければならない。

2) 発生材のうち引渡しを要するものは、指示された場所に整理のうえ調査を添えて監督員に引き渡す。〔１．３．12〕
イ) 引渡しを要するもの及び引渡し場所 ・ 引渡しを要するもの ・ 引渡し場所
ロ) 特別管理産業廃棄物の有無 ・ 有 ・ 無
ハ) 特別管理産業廃棄物の処理方法 ※図面 番 図参照

③ 発生材のうち、現場で再利用を図るものとび再資源化を図るものは下記による。
○現場で再利用を図るもの：砕石
○再資源化を図るもの：コンクリートガラ

4) せっこうボードの処理（有害物質非含有のものに限る）〔１.3.12〕
・ 最終処分 ・ 再資源化

5) ＰＣＢ含有シーリング材分析調査 ・ する ※しない

⑥ 建設リサイクル法第11条に基づく「通知書」及び同法18条に基づく「再資源化等報告書」の提出の有無
・ 有 ・ 無

④ 電気保安技術者

※ 適用する

⑤ 施工条件

・ 仮設住宅への影響を配慮すること
○ 門前野球場は、利用しながらの工事に配慮すること

⑥ 施工調査

施工数量調査
調査範囲 ○ 多目的体育館柱脚クラック
調査方法 ○ 数量調査（長さ）
調査破壊部分の補修方法 ・

⑦ 建築材料等

① 本工事に使用する建築材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するもの、又はこれらと同等のものである。
① 「評価名簿による」と特記されたものについては、国土交通大臣官庁官庁官庁営繕部監修「建築材料等品質性能評価事業建築材料評価名簿（最新版）」（（社）公共建築協会）によるほか、これらと同等のものである。ただし、同等のものとする場合は、次の②に準じ監督員の承諾を受ける。また、同上評価事業の評価を受けたものを使用する場合は、評価書の写しを監督員に提出し、その確認をもって、品質・性能の確認があったものとみなす。
②JIS又はJASマーク表示のない材料及びその製造所等は、次のイ）からハ）の事項を満たすものとする。また、製造所名、製品名等が記載された材料は、当該製品又は同等以上を使用する場合は、監督員の承諾を受ける者とする。
イ) 品質及び性能に関する試験データが整備されていること。
ロ) 生産施設及び品質の管理が適切に行われていること。
ハ) 安定的な供給が可能であること。
二) 法令等で定める許可、認定、又は免許等を取得していること。
ホ) 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。
ヘ) 販売保守等の営業体制が整えられていること。
なお、これらの材料を使用する場合は、設計図書に定める品質及び性能を有することの証明となる資料又は外部機関が発行する資料等の写しを監督員に提出し承諾を受けるものとする。ただし、あらかじめ監督員の承諾を受けた場合にはこの限りではない。

2) 請負契約約款第６条の２第７項に基づき調達する石川県産の工事材料については、「使用材料確認願」により監督員の確認を受け、工事完了後は地元産品について「使用材料報告書」を提出すること。

3) 請負契約約款第13条第２項に定める監督員の検査を受けて使用すべき工事材料は次のものとする。
※杭 ・ 型枠類 ・ 防水材料 ・ 石材 ・ 木材 但し、杭以外のJIS規格品は除く。

4) 請負契約約款第14条第１項に定める監督員等の立会いのうえ調査等をし使用する工事材料は次のものとする。
※高強度コンクリート試し練り

⑤ 請負契約約款第14条第３項に定める見本は次のものとする。
○金属製品 ・ 合成樹脂製品 ・ 木製建具 ○塗装
・ 家具及び家具の金物 ・ 畳 ・ 内外装材料 ・ 屋根材料
なお、監督員が承諾した材料は、証明となる資料と使用箇所を付し、工事完成まで現場事務所に掲示する。ただし、掲示が困難な材料等はカタログ、その他に代えることができる。

⑥ 本工事に使用する建築材料等は、アスベスト含有建材を使用しないこと。（「労働安全衛生法施行令の一部を改正する政令及び石綿被害予防規則等の一部を改正する省令の施行等について」（厚生労働省労働基準局長通達平成18年８月）参照）。安全データシート（SDS）等により確認を行った場合は、その写しを監督員に提出すること。

「横仕」に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法による。

⑧ 特別な材料の工法

⑨ 技能士等

※ 技能士

[1.7.2]

適用工事種別

技能検定作業

仮設工事

○とび作業

鉄防工事

・ 鉄防組立て作業

コンクリート工事

・ 型枠作業 ・ コンクリート圧送工事作業

鉄骨工事

・ 構造物鉄工作業 ・ とび作業

ブロック・ALCパネル工事

・ コンクリートブロック工事作業 ・ エーエルシーパネル工事作業

防水工事

・ アスファルト防水工事作業 ・ 塩化ビニル系シート防水工事作業
・ 改質アスファルトシートトーチ工法防水工事作業
・ セメント系防水工事作業 ・ FRP防水工事作業
・ 合成ゴム系シート防水工事作業 ・ ウレタンゴム塗膜防水工事作業
・ アクリルゴム系塗膜防水工事作業 ・ シーリング防水工事作業

石工事

・ 石材加工作業 ・ 石張り作業 ・ 石積み作業

タイル工事

・ タイル張り作業

木工工事

・ 大工工事作業

屋根及びとい工事

・ 内外装板金作業 ・ かかわぶき作業

金属工事

・ 鋼製地下工事作業 ・ 内外装板金作業

左官工事

・ 左官作業

建具工事

○ビル用サッシ施工作业 ・ 自動ドア施工作业 ・ ガラス工事作業

カーテンウォール工事

・ 金属製カーナル工事作業 ・ ビル用ガラス施工作业 ・ ガラス工事作業

塗装工事

・ 建築塗装作業

内装工事

・ プラスチック系床仕上げ工事作業
・ カーベット系床仕上げ工事作業 ・ 木質系床仕上げ工事作業
・ ボード仕上げ工事作業 ・ 壁装作業

排水工事

・ 建築配管作業

植栽工事

・ 造園工事作業

・ 「石川の伝統的建造技術を伝える会」のうち、金沢公園整備工事事務者の認定を受けた者。

⑩ 完成図等

※作成する。〔1.9.1～3〕表1.9.1〕
工事完成図は、A３版製本（※１部 ・ ２部 ・ 部）を提出する。

屋外付帯工事実測図 ※提出しない ・ 提出する（１部）

保全に関する資料 ※提出しない ・ 提出する（１部）
保全に関する資料のうち「建物等の利用に関する説明書」は、「管理者のための建築物保全の手引き(改訂版)」（（財）建築保全センター）に建物の構造、機器、保安業務等の説明及び清掃の要点、使用材料の製造品名、連絡先等を記載したものに代えることができる。
なお別契約の設備工事等がある場合は、連携の上で作成する。

⑪ 工事写真等の記録

① 工事記録写真等は、営繕工事写真撮影要領（令和３年版）(国土交通省大臣官庁官庁官庁営繕部)により整備し、下記により提出する。また、本社様書の「第１章29電子納品」を行う場合は、更に当該特記事項に基づいて作成し提出する。
各区分の写真は、A4版スクラップブックに順序よく説明事項を記入の上、所定の部数を提出する。

区 分	区 分	大 き さ	撮 影 枚 数	部 数
着 工 前	※カラー	※100×148程度	※ 量以上	※ １部
工 事 中	※カラー	※85×115程度	※「営繕工事写真撮影要領」による	※ １部
完 成 時	※カラー	※100×148程度	※ 量以上	※ １部

② 完成写真の撮影 ○専門業者の撮影（撮影者を明記） ・ 専門業者以外の撮影
③ 原価の使用権を次の者に移譲すること。 ※発注者 ・ 設計者
移譲を受けた者は、写真を撮影者の了解なしに撮影者名を表示しないで自由に使用できる。
撮影者が写真を使用する場合は、発注者・設計者の承諾を必要とする。

4) 中間検査または、監督員の指示により手直しを命ぜられた工事は、手直し前、中、後が判断できる写真を撮影し、報告書に添え提出する。

<

26	排出ガス対策型建設機械	次に掲げる指定建設機械は、排気ガス対策型とする。 1) バックホウ 2) トラクターショベル 3) 発動発電機 4) 空気圧縮機 5) ローラ類 6) ホイールクレーン	27	創意工夫等	工事施工において、自ら立案実施した創意工夫や工事特性に関する項目、または地域社会への貢献として評価できる項目に関する事項について、工事完了時までに所定の様式により提出することができる。	28	保険の付与及び事故の補償	1) 受注者は、雇用保険法、労働者災害補償保険法、健康保険法及び中小企業退職金共済法の規定により、雇用者等の雇用形態に応じ、雇用者等を被保険者とするこれらの保険に加入しなければならない。 2) 受注者は、雇用者等の業務に関して生じた負傷、疾病、死亡及びその他の事故に対して責任をもって適正な補償をしなければならない。（法定外の労災保険を含む） 3) 受注者は、建設業退職金共済制度の対象労働者数及び就労予定日数を的確に把握し、その掛金収納書の写しを工事請負契約締結1ヶ月以内及び工事完成時に、監督員を通じて発注者に提出しなければならない。	29	電子納品	※行う（「電子納品仕様書」による。） ・行わない 電子納品仕様書 1 電子納品とは、出来形管理資料や工事写真等の工事完成図書を電子データで納品するものである。 ここでいう電子データとは、下表に示す各種電子納品要領等で定めるフォーマットに基づいて作成されたものを指す。 <table><tr><th>名</th><th>称</th></tr><tr><td>営繕工事電子納品要領（令和3年版）</td><td>官庁営繕事業に係る電子納品運用ガイドライン【営繕工事編】（令和3年版）</td></tr></table> 基準・要領類のダウンロード http://www.mlit.go.jp/gobuild/gobuild_tk2_000017.html 2 工事関係書類の最終成果品を、従来の紙での納品と別にCD-R、DVD-R又はBR-Dで1部納品する。 3 工事着手時には、事前協議チェックシートを用いて事前協議を行うものとする。 工事関係書類の内、電子データで提出するものは、事前協議にて決定する。 4 発注者が行うCALS/EO電子納品に関する調査について協力を行うものとする。	名	称	営繕工事電子納品要領（令和3年版）	官庁営繕事業に係る電子納品運用ガイドライン【営繕工事編】（令和3年版）	30	騒音振動の防止	低騒音〔G〕、低振動型建設機械を使用する。	31	隣接建物又は工作物の調査	※行う ・行わない	32	敷地の状況確認	着工に先立ち地下に埋設されたガス管、電話ケーブル、給排水管及び架設物がなければ関係機関の協力を得て確認し、報告するとともに事故を未然に防ぐよう留意する。	33	総合評価時における技術提案	「石川県建設工事総合評価方式試行要領」に基づく「技術提案」がある場合は、提案内容を本工事において確実に履行し、受注者は「技術提案履行状況報告書」を監督員に提出のうえ、履行状況の確認を受ける。なお、受注者の責任以外の理由等により、変更等の必要が生じた場合は、事前に監督員に協議する。	34	ダンプトラック等による過積載等の防止	1) 積載重量制限を超えて土砂等を積み込まず、また積み込ませないこと。 2) さし枠装着車、不表示車等に土砂等を積み込まず、また積み込ませないこと。 3) 過積載車両、さし枠装着車、不表示車等から土砂等の引き渡しを受けること等、過積載を助長することのないようにすること。 4) 取引関係のあるダンプカー事業者が過積載を行い、又はさし枠装着車、不表示車等を土砂等運搬に使用している場合は、早急に不正状態を解消する措置を講ずること。 5) 建設発生土の処理及び資材の購入に当たって、下請事業者及び骨材納入業者の利益を不当に害することのないようにすること。 6) 「土砂等を運搬する大型自動車による交通事故の防止等に関する特別措置法」（昭和42年8月2日法律第131号。）の目的に鑑み、法第12条に規定する団体等の設立状況を踏まえ、同団体への加入者の使用を促進すること。 7) 1から6につき、元請建設業者は下請建設業者を十分指導すること。	35	景観への配慮	当該工事は、石川県公共事業景観形成ガイドラインに基づく重点事業であり、景観に配慮した工事施工に努めること。
名	称																																
営繕工事電子納品要領（令和3年版）	官庁営繕事業に係る電子納品運用ガイドライン【営繕工事編】（令和3年版）																																
2章 仮設工事						3章 防水改修工事						4章 防水改修工事																					
項目						特記事項						特記事項																					
①	工事用水	構内既存の施設	○利用できる（※有償・無償）	※利用できない		① 一般事項						① 一般事項																					
②	工事用電力	構内既存の施設	○利用できる（※有償・無償）	※利用できない		2 アスファルト防水						2 アスファルト防水																					
③	工事用道路	工事用道路（敷地内外）は良好なる維持管理を行い、使用後は請負者において速やかに原形に復旧すること。				1) 防水改修工法の種類						1) 防水改修工法の種類																					
④	指定仮設	指定仮設の適用 ・仮囲い ・敷鉄板（※図示） ○図示 仮囲いは、下記により強風に対して倒壊、飛散等しない堅固な構造とし、事前に施工図を提出して監督員の承諾を受けること。 イ) 材料 ・鋼板 ・亜鉛めっき鉄板 ・単管バリケード ロ) 高さ ・1.8m ・2.0m ・3.0m ハ) 塗装 ・する ・しない ・塗装品 ニ) 延長 ・m その他の指定仮設 ・（種別、規格、仕様）				2) アスファルトの種類 ※3種・4種						2) アスファルトの種類 ※3種・4種																					
⑤	足場その他	① 外部足場 (1) 足場の種類 ※枠組足場（手すり先行足場） ・くさび緊結式足場（手すり先行足場） 足場を設ける場合は、「手すり先行工法に関するガイドライン」について（厚生労働省平成21年4月）の「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立、解体又は変更の作業は「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の2の(2)手すり設置又は(3)手すり先行専用足場方式により行うこと。 (2) 建枠・布枠 <table><tr><td>建 枠</td><td>・1,200枠</td><td>・900枠</td><td>・600枠</td></tr><tr><td>布 枠</td><td>・500布枠×2枚</td><td>※500+240布枠 ・500布枠×1枚</td><td>・500布枠×1枚</td></tr></table> (3) 防護シート等による養生 ※設置する ・ネット状養生シート又は養生シート ・防音パネル なお、出入口等の上部は必要に応じて防護柵を設ける。 ・設置しない ② 内部足場 種別 ・ ・ ③ 材料、撤去材の運搬方法 ・A種 ※B種 ・C種 ・D種 ・E種	建 枠	・1,200枠	・900枠	・600枠	布 枠	・500布枠×2枚	※500+240布枠 ・500布枠×1枚	・500布枠×1枚	[2.2.1]	① 一般事項						① 一般事項															
建 枠	・1,200枠	・900枠	・600枠																														
布 枠	・500布枠×2枚	※500+240布枠 ・500布枠×1枚	・500布枠×1枚																														
② 内部足場						② 内部足場						② 内部足場																					
③ 材料、撤去材の運搬方法						③ 材料、撤去材の運搬方法						③ 材料、撤去材の運搬方法																					
・A種 ※B種						・A種 ※B種						・A種 ※B種																					
・C種						・C種						・C種																					
・D種						・D種						・D種																					
・E種						・E種						・E種																					

4	浮き部改修工法	モルタルを撤去しない場合	[4.1.4][4.3.5][4.3.11~16][表4.3.5~6]				
		改修工法の種類	ｱﾝｶｰﾋﾞﾝの本数 (本/㎡)		注入口の箇所数 (箇所/㎡)		充填量 又は注入量 (ml/箇所)
			一般部	指定部	一般部	指定部	
		・アンカーピンニング部分 エポキシ樹脂注入工法	※16 ・	※25 ・			※25 ・
		・アンカーピンニング全面 エポキシ樹脂注入工法	※13 ・	※20 ・	※12 ・	※20 ・	※25 ・
		・アンカーピンニング全面 ｶﾞﾘｰﾒﾝﾄｽﾄﾘｰｰ注入工法	※13 ・	※20 ・	※12 ・	※20 ・	※50 ・
		・注入口付ｱﾝｶｰﾋﾞﾝﾅﾝｸﾞ部分 エポキシ樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・			※25 ・
		・注入口付ｱﾝｶｰﾋﾞﾝﾅﾝｸﾞ全面 エポキシ樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・	※25 ・
		・注入口付ｱﾝｶｰﾋﾞﾝﾅﾝｸﾞ全面 ｶﾞﾘｰﾒﾝﾄｽﾄﾘｰｰ注入工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・	※50 ・
		アンカーピン 材質 ※ステンレスSUS304、呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの	[4.3.5]				
		注入口付アンカーピン 材質 ※ステンレスSUS304、呼び径外径6mm	[4.3.5]				
4章-4 タイル張り仕上げ外壁改修工事							
項 目 特 記 事 項							
1	既存タイル張りの撤去	・外壁タイル張り全面 ・図示の範囲 撤去範囲 ※下地モルタルまで ・張付けモルタルまで					
2	ひび割れ部改修工法	改修箇所 ※既存タイル張り面 ・既存タイル撤去面（・コンクリート面 ・モルタル面） ※樹脂注入工法 [4.1.4][4.2.5][4.4.5~6] 注入工法の種類 ひび割れ幅（mm） 注入口間隔（mm） 注入量（ml/m） ※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 0.2以上～1.0以下 ※200～300 ※ ・手動式エポキシ樹脂注入工法 0.2以上～0.3以下 ※50～100 ※40 ・機械式エポキシ樹脂注入工法 0.3超え～0.5以下 ※100～200 ※70 ・樹脂注入工法 0.5超え～1.0以下 ※150～250 ※130 注入材料 ※建築補修用注入エポキシ樹脂（JIS A6024低粘度形又は中粘度形） 検査（コア抜き） ※行わない ・行う（抜き取り部の補修方法： ） ・ウカットシール材充填工法（既存タイル張り撤去面） [4.1.4][4.2.4][4.2.6] 充填材料 種 別 備 考 ・シーリング材 ※1成分形又は2成分形 ポリマーセメントモルタルの充填 ※行わない ・行う ・可とう性エポキシ樹脂 ※2.4による					
3	欠損部改修工法	・タイル部分張替え工法 張付け材料 ※ポリマーセメントモルタル ・接着剤（JIS A 5557）に基づく一液反応硬化形の変成シリコーン樹脂系） ・タイル張替え工法 張付け材料 ・張付けモルタル（・現場混合 ・既調合） ・接着剤（JIS A 5557）に基づく一液反応硬化形の変成シリコーン樹脂系）					
4	浮き部改修工法	タイルを撤去しない場合 [4.1.4][4.4.5][4.4.9~15][表4.3.5~6] 改修工法の種類 ｱﾝｶｰﾋﾞﾝの本数 (本/㎡) 注入口の箇所数 (箇所/㎡) 充填量 又は注入量 (ml/箇所) 一般部 指定部 一般部 指定部 ・アンカーピンニング部分 エポキシ樹脂注入工法 ※16 ※25 ※25 ・アンカーピンニング全面 エポキシ樹脂注入工法 ※13 ※20 ※12 ※20 ※25 ・アンカーピンニング全面 ｶﾞﾘｰﾒﾝﾄｽﾄﾘｰｰ注入工法 ※13 ※20 ※12 ※20 ※50 ・注入口付ｱﾝｶｰﾋﾞﾝﾅﾝｸﾞ部分 エポキシ樹脂注入工法 ※9 ※16 ※25 ・注入口付ｱﾝｶｰﾋﾞﾝﾅﾝｸﾞ全面 エポキシ樹脂注入工法 ※9 ※16 ※9 ※16 ※25 ・注入口付ｱﾝｶｰﾋﾞﾝﾅﾝｸﾞ全面 ｶﾞﾘｰﾒﾝﾄｽﾄﾘｰｰ注入工法 ※9 ※16 ※9 ※16 ※50 ・注入口付ｱﾝｶｰﾋﾞﾝﾅﾝｸﾞ全面 樹脂注入工法 ※9 ※16 ※9 ※16 ※50 アンカーピン 材質 ※ステンレスSUS304、呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの [4.3.5] 注入口付アンカーピン 材質 ※ステンレスSUS304、呼び径外径6mm [4.3.5]					
4章-5 仕上塗材仕上げ外壁改修工事							
項 目 特 記 事 項							
1	既存塗膜等の除去及び下地処理	既存塗膜の劣化部の除去及び下地処理の工法 [4.5.4][4.5.4~7] 工 法 処 理 範 囲 ひび割れ部等の補修 ※サンダー工法 ※既存仕上げ面全体 ・ ひび割れ部改修工法 ・高圧水洗工法 ※既存仕上げ面全体 ・ 浮き部改修工法 ・塗膜はく離工法 ※既存仕上げ面全体 ・ 欠損部改修工法 ・水洗い工法 ※上記処理範囲以外の既存仕上げ面全体 ・					
2	下地調整材	※下地調整塗材 ・ポリマーセメントモルタル [4.5.4]					
3	マスキング塗材塗り	種別及び凸凹処理仕上げ [4.6.2][表4.6.1] 種別 仕 上 げ 仕 上 材 塗 り ・A種 ・凸凹処理仕上げ ・アクリル樹脂エマルジョン ・B種 ・つや有合成樹脂エマルジョンペイント					
5章 建具改修工事							
項 目 特 記 事 項							
①	一般事項	①改修工法 ・かぶせ工法 ②撤去工法 [5.1.3] 新規建具周囲の補修工法及び範囲 ・ ②防犯建物部品 ※建具表による [5.1.7] ③防火戸 [5.1.4] 防火性能 ・防火設備（建具番号） ・特定防火設備（建具番号） 防火戸の閉鎖機構 ・自動閉鎖機構（建具番号） ・ヒューズ装置と連動（建具番号） ・熱感知器と連動（建具番号） ・煙感知器と連動（建具番号）					

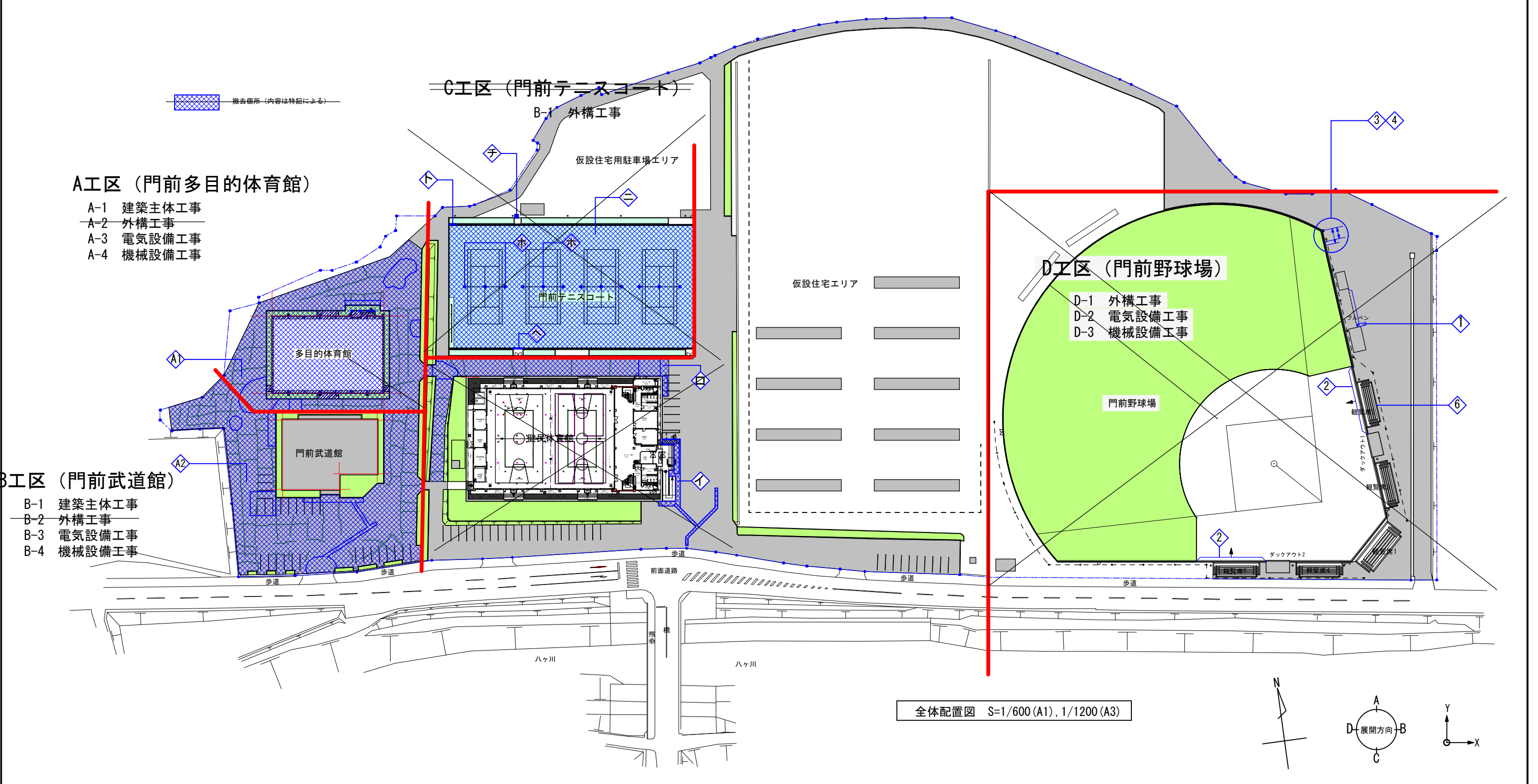
		④見本の製作等 ・ 建具見本の製作 (建具番号) ・ 特殊な建具の仮組 (建具番号) ⑤建具回り等の充填モルタル 防水剤 (モルタルに混入する防水剤の品質)						[5. 1. 5] [6. 15. 3]
		項 目	混合割合	凝結及び安定性 (JIS R 5201)	曲げ及び圧縮強度比 (%)	吸水比 (%)	透水比 (%)	
		品 質	セメント質量の 5 % 以下	始発 1 時間以上 終結 10 時間以内	収縮性、膨張性のひび割れ そりが無いこと	70 以上 95 以下	80 以下	
		⑤取付け調整等 ・ プラインド : ・ カーテンボックス :						[5. 1. 6]
②	アルミニウム製建具	外部に面する建具の性能等級						[5. 2. 2] [5. 2. 4] [表 5. 2. 1]
		種 別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み (mm)	施工箇所	
		○ A 種	S - 4	※ A - 3	※ W - 4	※ 70 ((注) 共)		
		・ B 種	S - 5	・	・	・		
		・ C 種	S - 6	A - 4	W - 5	100		
		防音ドアセット ※適用は建具表による 断熱ドアセット ※適用は建具表による 耐震ドアセット ※適用は建具表による 表面処理						[5. 2. 4] [表 5. 2. 2]
		施工箇所	種 別		色合い等			
		外部建具	※ B B - 1 種		無着色			
			・ B B - 2 種		※標準色 (・ ブラウン系 ・ ブラック ・ ステンカラー)			
			・		・			
		内部建具	※ AC - 1 種又は BB - 1 種		無着色			
			・ AC - 2 種又は BB - 2 種		※標準色 (・ ブラウン系 ・ ブラック ・ ステンカラー)			
③	網戸	防虫網						[5. 2. 3 ~ 4]
		網の種類	・ 合成樹脂製		※ ガラス繊維入り合成樹脂製		・ ステンレス製 (SUS316)	
		形式	※ 外部可動式		・ 固定式			
4	樹脂製建具	1) 外部に面する建具の性能値等						[5. 3. 2] [5. 3. 4] [表 5. 3. 1]
		種 別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み (mm)	施工箇所	
		・ A 種	S - 4		※ W - 4	・ 60 ・ 80		
		・ B 種	S - 5	A - 4	W - 5	・ 100		
		・ C 種	S - 6			・ 125		
		2) 表面色 ※ 白色 (・)						[5. 3. 4]
		3) ガラス ※ 複層ガラス ・ 単層ガラス ・ 三重ガラス						[5. 3. 3]
⑤	鋼製建具	1) 簡易気密厚の簡易気密型ドアセット性能値 ※適用する (適用箇所は建具表による)						[5. 4. 2] [表 5. 4. 1]
		2) 外部に面する建具の耐風圧性 ・ S - 4 ・ S - 5 ・ S - 6						[5. 4. 2] [表 5. 2. 1]
		3) 材 料 ※ JIS G3302 (溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯)						
		4) 鋼板厚の厚さ (1 枚の戸の有効開口幅 950mm、又は有効高さ 2,400mm を越える場合) ※下表以外は表 5. 4. 2 による						[5. 4. 4] [表 5. 4. 2]
		区 分		使 用 箇 所			厚さ (mm)	
		窓	枠種	外部の下枠、水切り板			2. 3	
		出入口	枠種	外部に面するスイングドアの建具			2. 3	
			戸	中骨			2. 3	
		○ 図示						
6	標準型鋼製建具	簡易気密型ドアセットの性能値の適用は建具表による ・ 適用する (適用箇所は建具表による)						[5. 4. 2] [5. 4. 6] [表 5. 4. 1]
		外部に面する建具の耐風圧性						[5. 4. 2] [5. 4. 6] [表 5. 2. 1]
		耐風圧性		施 工 箇 所				
		・ S - 4						
		・ S - 5						
		・ S - 6						
7	鋼製軽量建具	簡易気密型ドアセットの性能値の適用は建具表による						[5. 5. 2]
8	標準型鋼製軽量建具	簡易気密型ドアセットの性能値の適用は建具表による						[5. 5. 2] [5. 5. 6]
9	ステンレス製建具	簡易気密型ドアセットの性能値の適用は建具表による 外部に面する建具の耐風圧性						[5. 4. 2] [5. 6. 2] [表 5. 4. 1] [表 5. 2. 1]
		耐風圧性		施 工 箇 所				
		・ S - 4						
		・ S - 5						
		・ S - 6						
10	木製建具	建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・ 第三種 フラッシュ戸の表面材の種類 ※天然木材化粧板 かまち戸の樹種 かまち () 鏡板 () ふすまの上張り ※新鳥の子又はビニル紙程度 ・ 鳥の子 枠及び靴ずりの材料 枠 ※ 木製枠 ・ 鋼製枠 靴ずり ・ 木製 ・ ステンレス製						[5. 7. 2] [16. 7. 2] [表 5. 7. 3] [5. 7. 2]
⑪	建具金物	○ 図示 1) 材質、形状及び寸法 シンダーサイド 外側 ・ ※シンダー 内側 ・ ※サムターン 輪吊りヒンジの自閉装置機能 ・ 適用する ・ 適用しない ドアクローザーのディレードアクション ・ 適用する ・ 適用しない 戸当りのあおり止め付き ・ 適用する ・ 適用しない レバーハンドルのバックセット ・ ※64mm 2) 鍵 マスターキー ・ 製作する ※製作しない (但し既設マスターキーに合わせる) 3) 鍵箱 ・ 適用する						[5. 8. 2] [表 5. 8. 1] [5. 8. 4]
12	自動ドア開閉装置	自動ドアの開閉機構 開閉方法 検出装置の種類 ※スライディングドア ・ ※光線 (反射) センサー ・ 電波センサー ・ タッチスイッチ ・ スイングドア ・ 熱線センサー ・ 音波センサー ・ 押しボタンスイッチ ・ 多機能トイレスイッチ ・ 光電センサー 凍結防止措置 ・ 行う () ・ 行わない						[5. 9. 2] [表 5. 9. 4] [5. 9. 2]
13	重量シャッター	1) 形式及び機構 種 類 開閉機構 危害防止機構 シャッター系 ・ 管理用シャッター ※上部電動式 (自動閉鎖型) ※設ける ・ 外壁用防火シャッター (手動併用) ・ 設けない ・ 屋内用防火シャッター ・ 上部手動式 ・ 防煙シャッター 外部に面するシャッターの耐風圧強度 ・ 耐風圧性能 N / m ²						[5. 11. 2] [表 5. 11. 1]




























14	軽量シャッター	開閉形式 ※手動式 ・上部電動式（手動併用） [5.12.2][表5.12.1]
		外部に面するシャッターの耐風圧強度 耐風圧性能（ ）N/m ² [5.12.2] スラット 厚さ（mm） ※0.5 ・0.8 [5.12.3][表5.12.2] 材質 ※ JISG3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板又は鋼帯） ・ JISG3322（塗装溶融55%Zn-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯） 形状 ※ インナーロッキング形 ・ オーバーラッピング形 [5.12.4] ガイドレール等 ※鋼板製 ・ステンレス製SUS304（厚さ1.5mm） [表5.12.2]
15	オーバードア	形式及び機構 [5.13.2～3][表5.13.1] セクション材料 開閉方式 収納形式 ガイドレールの材料 ※スチールタイプ ※バランスタイプ ・スタンダード形 ・アルミニウムタイプ ・チェーン式 ・ローヘッド形 ※ステンレス鋼板 ・ファイバークラスタイプ ・電動式 ○ハイリフト形 (SUS304) ・パーチカル形 耐風圧性能（ ）N/m ²
16	ガラス	○ 図示 [5.13.2] ガラスの厚さ・構成等については建具表により、その他ガラス性能等は下記による。 ・合わせガラス 特性による種類 ※Ⅱ－1類 （JIS R 3205） ・強化ガラス 材料板ガラスによる種類 衝撃特性による種類（JIS R 3206） ※フロート強化ガラス Ⅲ類（曲面はⅠ類） ・型板強化ガラス ・熱線吸収板ガラス 板ガラスによる種類 日射熱取得率 色 調 ※熱線吸収フロート板ガラス 2 種 ・ブルー ・グレー ・ブロンズ ・グリーン ・複層ガラス 種 類 断熱性、日射遮蔽性による区分 ・断熱複層ガラス ※U3－1 ・U3－2 ・U1 ・U2 ・日射熱遮蔽複層ガラス ・E4 ・E5 ・熱線反射板ガラス 品 種 反射皮膜面 材料板ガラスの種類 色 調 映像調整 ※熱線反射ガラス ※内面 ・外面 ・フロート板ガラス ・ブルー ・高性能熱線反射内面 熱線吸収フロート板ガラス ・グレー ※行わない ガラス 強化ガラス ・ブロンズ ・行う ・倍強度ガラス シルバー 材料板ガラスによる種類の名称 色 調 ※フロート倍強度ガラス ・熱線吸収倍強度ガラス ・グレー ・ブルー ・ブロンズ
17	ガラス留め材	[5.13.2][表3.7.1] 建具の種類 種 類 アルミニウム製 ※シーリング材 ・ガスケット（F1X部はシーリング材） 鋼製及び軽量鋼製 ※シーリング材 ステンレス製 ※シーリング材
18	ガラス溝	板ガラスをはめ込む溝の大きさ [5.14.3] ※「改修標準」図5.14.1による。ただし、強化ガラス及び倍強度ガラスを使用する場合は性能値等 が確認できる資料を監督職員に提出し、承諾を受ける。
19	ガラスブロック 積み	ガラスブロック [5.14.5] 寸法（mm） 表面形状 性能等 呼び寸法 厚さ 色 調 パターン 防火性能 耐火性能 ※クリア ・ ※無し ※無し 壁用金属枠及び補強材 [5.14.5] 壁用金属枠の種類 規格及び補強材等 ※アルミニウム製 ※改修共仕5.2.3のアルミニウム製建具の材料による 化粧目地モルタルの色 ※モルタル色 [5.14.5] シーリング材料 [5.14.5][3.7.2][表3.7.1] 下表以外は改修標準仕表3.7.1による 被着体の組合せ シーリング材の種類 記号 主成分による区分 耐久性による区分 ただし、防火区画等に用いる場合は建築基準法に基づく規定に定められたもの、または認定を受け た条件による。 名 称 記 号 張り面 ・衝撃破壊対応ガラス飛散防止フィルム GI ※内張り ・外張り ・層間変位破壊対応ガラス飛散防止フィルム GD ・ 品質 JIS A 5759による
6章 内 装 改 修 工 事		
項 目 特 記 事 項		
1	床改修一般事項	1）工法 [6.2.2] (1)ビニル床シート等の除去 ※仕上げ材のみ（接着剤とも） ・下地モルタルとも（※図示の範囲 ・除去範囲全て） 合成樹脂塗布床材の除去工法 ・機械的除去工法 ・目荒工法 (2)改修後の床清掃範囲 ※改修箇所の室内
2	壁改修一般事項	1）工法 [6.1.3][6.3.2] (1)既存壁撤去に伴う当該壁の取り合う天井、壁、床の改修範囲 ※壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ・図示の範囲 (2)天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井の改修範囲 ※壁面より両側600mm程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ・図示の範囲 (3)間仕切壁撤去に伴う他の構造物の補修 ※図示 ・モルタル塗り 仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の処置 ・適用する（範囲は図示） ※ステンレス製アンカーピンを縦横200mm程度の間隔に打ち込み、ステンレス等を張る ・図示 (2)新設壁下地 ・木製壁下地 ・軽量鉄骨壁下地
3	天井改修一般事項	1）工法 [6.1.3][6.4.2] (1)天井の撤去に伴う取り合い部の壁面の改修 ※既存のまま ・図示の範囲 (2)新設天井下地 ・木製天井下地 ・軽量鉄骨天井下地

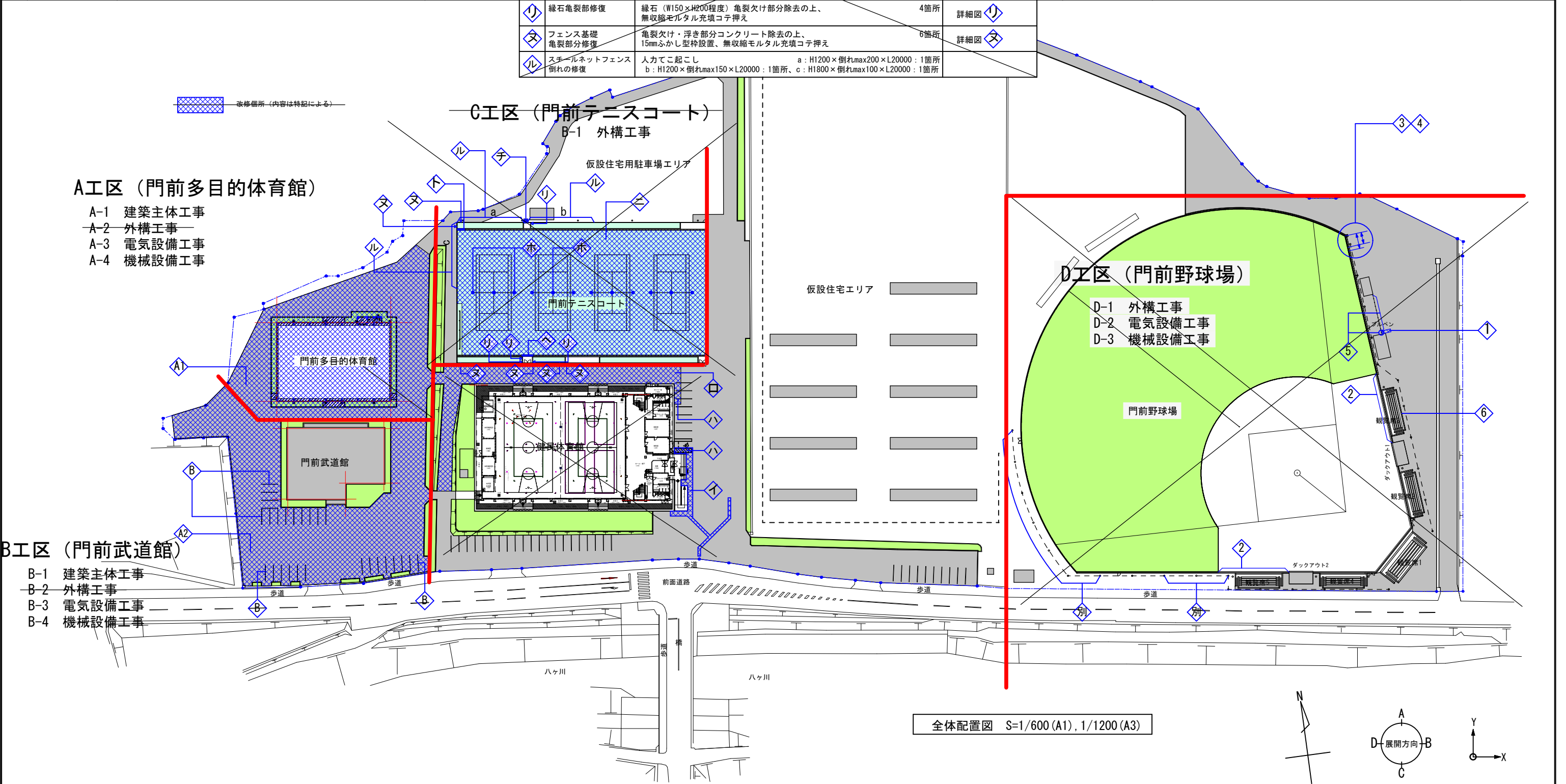
4	ビニル床シート張り	G	材料	[6.8.2]				
			種 類	JISの記号	色 柄	厚さ・高さ (mm)		
			※発泡層のないもの	※FS	※無地	※マーブル柄	※2.0	・ 2.5
			・ 発泡層のあるもの	・ HS	※柄物	・ 無地	・	・
			・	・			・	・
			・	・			・	・
			・ ビニル幅木				※60	・
			工法	※熱溶接工法 ・ 突付け (施工箇所:)			[6.8.3]	
			材料	[6.8.2]				
			5	ビニル床タイル張り	G	材料	[6.8.2]	
ビニル床タイル								
種 類	JISの記号	厚さ・高さ (mm)						
※コンポジションビニル床タイル (半硬質)	K T	※2				・		
・ 複層ビニル床タイル	F T	・				・		
・						・		
・ ビニル幅木		※60				・		
視覚障がい者用床タイル	※300×300 ブロックパターンは JIS T 9251による							
※塩化ビニル系	・ 磁器又はセラミックタイル							
帯電防止床タイル								
6	接着剤	G	種 類	厚 さ	性 能			
			・ コンポジションビニル床タイル	※2.0	体積抵抗値 (JIS K 6911による)			
			・ ポジニアスビニル床タイル	※4.0又は4.5	1.0×10 ¹⁰ Ω以下、または、			
			・		漏えい抵抗値 (JIS A 1454による)			
			・		1.0×10 ¹⁰ Ω未満			
			木工事に使用する接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性とする。	[6.5.3~4][6.8.2][6.9.3]				
			壁紙施工用でん粉系接着剤、ユリア樹脂等を用いた接着剤のホルムアルデヒドの放散量	[6.5.4~5][6.13.2][6.14.2][6.16.4]				
			※規制対象外 ・ 第三種					
			ホルムアルデヒドの放散量	[6.5.2]				
			※規制対象外 ・ 第三種					
7	床板張り用合板等	G	下張り用床板及び畳下床板の材料	[6.5.2][表6.5.8]				
			使用区分	材 料	厚さ (mm)			
			下張り用床板の材料	※合板 G	※12			
			畳下床板	・ パーティクルボード G	・			
			・ 繊維板 (MDF) G	・				
			合成樹脂塗り床	[6.10.3][表6.10.4~8]				
			種 別	仕 上 げ の 種 別				
			・ 弾性ウレタン樹脂系塗床材	※平滑仕上げ	・ 防滑仕上げ	・ つや消し仕上げ		
			・ エポキシ樹脂系塗床材	※薄膜流し膜べ工法 (※平滑 ・ 防滑)	・ 厚膜流し膜べ工法 (※平滑 ・ 防滑)	・ 樹脂モルタル工法 (※平滑 ・ 防滑)		
			・ エポキシ樹脂系塗床材	※平滑仕上げ	・			
9	フローリング張り	G	材料、工法	[6.11.2~6][表6.11.1~6]				
			品 名	樹 種	工 法	厚さ (mm)	大きさ寸法 (mm)	種 別
			・ フローリングボード	・ なら	・ 釘留め工法 (根太張り)	・ 15	・ 巾75 長さ400以上	・
			・ ひのき	・ 釘留め工法 (直張り)	・ 12以上	・	・	
			・ ぶな	・ 接着工法	・ 8以上	・	・	
			・ フローリングブロック	・ 能登ひば	・ 技術表裏打	・	・	・
			・ 複合フローリング	・	・	・	・	・
			・ A種	・ B種	・ C種			
			畳敷き	[6.12.2][表6.5.8][表6.12.1]				
			材料					
10	畳敷き	G	下地の種類	畳の種類				
			「改修標準」表6.5.8による床組	・ A種	・ B種	・ C種	・ D種 (畳床・)	
			※リフトアップ床下地	※C種	・ D種 (畳床・)			
			カーペット敷き	[6.9.2~3]				
			材料	防火性能は、消防法で定める防火性能を有し、登録されたものとする。				
			・ 織じゅうたん	[6.9.3][表6.9.1]				
			織り方	種 別	バイエル形状	色 柄	帯電圧	
			・ タフテッドカーペット	・ A種	・ カットバイエル	※単一色 (無地)	人体帯電圧	
			・ タフテッドカーペット	・ B種	・ ループバイエル	・ 柄物 (標準色)	※3kV以下	
			・ タフテッドカーペット	・ C種	・ カット、ループ併用	・	・	
11	カーペット敷き	G	・ タフテッドカーペット	[6.9.3][表6.9.2]				
			バイエル形状	バイエル長 (mm)	工 法	帯電圧		
			・ カットバイエル	※5~7	※全面接着工法	人体帯電圧		
			・ ループバイエル	※4~6	・ グリッパ工法	※3kV以下		
			・ レベルループバイエル	※4	・	・		
			・ カット、ループ併用	・	・	・		
			・ タイルカーペット	[6.9.3][表6.9.2]				
			種 別	バイエル形状	寸法 (mm)	線厚さ (mm)	帯電圧	
			※第一種	※ループバイエル	※500×500	※0.5	人体帯電圧	
			・ 第二種	・ カットバイエル	・	・	※3kV以下	
・ カットループバイエル								
12	木下地等	G	1) 県産材の使用	[6.5.2]				
			能登ヒバ、杉は、県産材とし、代用樹種は認めない					
			2) 木材の品質 ※「改修標準」6.5.2による ・ 市販品	[6.5.2]				
			保存処理木材の適用箇所は「改修標準」6.5.6(1)(4)による	[表6.5.2]				
			樹 種	土台、水廻り枠種	見え隠れ部分	見え隠れ部分	備 考	
			下地材 (柱等を含む)	・ 檜・能登ヒバ・草摺	・ 松 ・ 檜 ・ 杉	・ 松 ・ 杉	・	
			造作材	・ 檜・能登ヒバ・草摺	・ 松 ・ 檜 ・ 杉	・ 杉	・ ラウン材	
			・ 能登ヒバ ・ 杉無節	・ 防虫処理				
			板 材	・	・	・	・	
			3) 集材材	[6.5.2][表6.5.1]				
設計	株式会社 MAC 建築研究所	工事名	門前地区体育施設災害復旧工事					
			図面名	建築改修工事仕様書 その3		図面番号	A-03	
			品 名	見付け材の品質	樹 種 名			
			※1等 ・ 2等	※たも ・ なら ・ しおじ ・				
			化粧ばり造作用集成材	品 名	見付け材の品質	化粧薄板樹種名	化粧薄板の厚さ (mm)	
			※1等 ・ 2等					
			造作用単板積層材	品 名	表面の品質		防虫処理	
			・ 天然化粧化粧材	・ する		・ しない		
			・ 塗装加工あり ・ 化粧加工なし (等)					

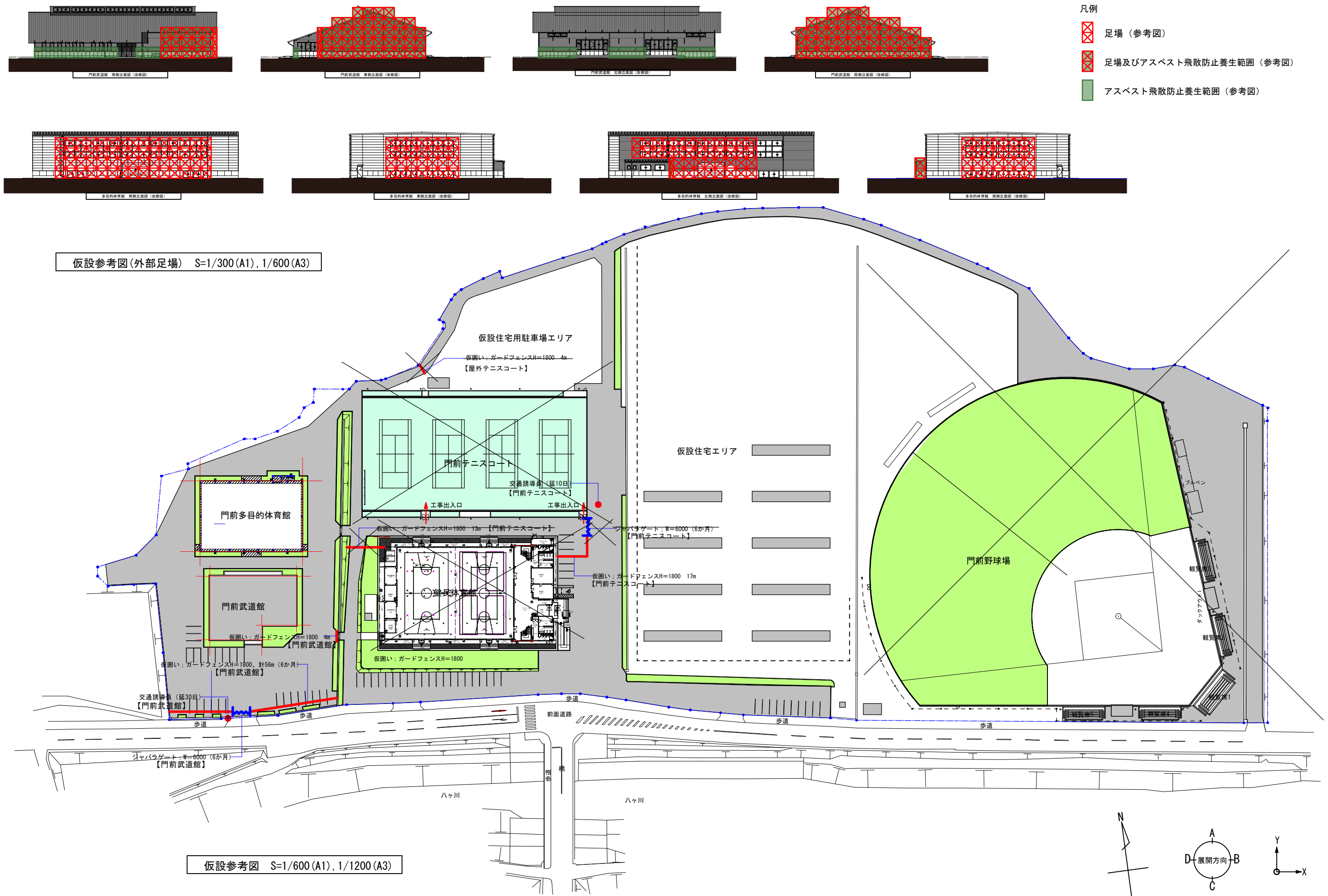
4)	防霉・防蟻処理 防霉処理 ・薬剤加圧注入 ・薬剤塗布（適用範囲） 防蟻処理 ・薬剤加圧注入 ・薬剤塗布（適用範囲） 防霉・防蟻剤は、クロルピリホス等含まない非有機リン系の表面処理用木材保存剤とし、種類及び品質等が確認できる資料を監督職員に提出し承諾を受ける。 防霉・防蟻処理の方法 現場における加工が生じた場合には、加工した箇所に対し、現場にて表面処理用木材保存剤を塗布することとする。	[6.5.5]	⑤	合成樹脂調合ペイント塗り（SOP）	<table><tr><th colspan="4">[7.5.3～5][表7.5.1～3]</th></tr><tr><td>下地の種類</td><td colspan="2">塗替えの種類</td><td>新規塗りの種類</td></tr><tr><td>木部</td><td>・A種 ※B種 ・C種</td><td>※A種 ・B種</td><td>下地調整は各表の注意書きによる</td></tr><tr><td>鉄鋼面</td><td>・A種 ※B種 ・C種</td><td>・A種 ※B種</td><td></td></tr><tr><td>亜鉛めっき面</td><td>鋼製建具等</td><td>※A種 ・B種 ・C種</td><td>※A種 ・B種</td></tr><tr><td>その他</td><td>・A種 ※B種 ・C種</td><td></td><td></td></tr></table>	[7.5.3～5][表7.5.1～3]				下地の種類	塗替えの種類		新規塗りの種類	木部	・A種 ※B種 ・C種	※A種 ・B種	下地調整は各表の注意書きによる	鉄鋼面	・A種 ※B種 ・C種	・A種 ※B種		亜鉛めっき面	鋼製建具等	※A種 ・B種 ・C種	※A種 ・B種	その他	・A種 ※B種 ・C種			2	石綿含有吹付け材の除去	除去工法 ・ ※改修標準9.1.3 (2) (7)による工法	[9.1.3]	3	イメージアップ看板 ・設置する ・設置しない（別途工事で設置等） ※監督員へ提案・協議し、設置することができる（設置費は受注者負担とする） 【参考図】 <div><div>野立型（大） H1400×W1100</div><div>野立型（小） H1400×W550</div><div>壁掛型 H750×W900</div></div> <div>（注）看板のデザインは監督員に確認すること</div>																							
						[7.5.3～5][表7.5.1～3]																																																				
下地の種類	塗替えの種類		新規塗りの種類																																																							
木部	・A種 ※B種 ・C種	※A種 ・B種	下地調整は各表の注意書きによる																																																							
鉄鋼面	・A種 ※B種 ・C種	・A種 ※B種																																																								
亜鉛めっき面	鋼製建具等	※A種 ・B種 ・C種	※A種 ・B種																																																							
その他	・A種 ※B種 ・C種																																																									
5) 防虫処理 ラワン材を使用する場合は、「製材の日本農林規格」による保存処理の性能区分K1の防虫処理を行う。	[6.5.5]	6	ｸﾘｯｸｰﾗｰ塗り（CL）	塗替えの種類 ・A種 ※B種 [7.6.2][表7.6.1] 新規塗りの種類 ・A種 ※B種	3	石綿含有保温材等の除去	除去工法 ※手ばらし ・切断又は破砕	[9.1.4]																																																		
13	軽量鉄骨天井下地	1) 形式及び寸法 ダブル野縁 ・ mm ただし、建築基準法に基づき指定する条件により、定まる風圧力に対応した工法を1.2.2【施工計画書】による品質計画で定める。	[6.6.3] [6.6.4]	7	アクリル樹脂系非水分散形塗料（NAD）	<table><tr><th colspan="4">[7.7.2][表7.7.1]</th></tr><tr><td>下地の種類</td><td>工程等</td><td>塗替えの種類</td><td>新規塗りの場合</td></tr><tr><td>コンクリート、モルタル面等</td><td>下地調整 塗り種別</td><td>・RA種 ※RB種 ・RC種</td><td>「塗料その他」の欄による</td></tr></table>	[7.7.2][表7.7.1]				下地の種類	工程等	塗替えの種類	新規塗りの場合	コンクリート、モルタル面等	下地調整 塗り種別	・RA種 ※RB種 ・RC種	「塗料その他」の欄による	④	石綿含有成形板等の除去	養生 ・不要 ○要（方法：ビニールシート養生）	[9.1.5]																																				
							[7.7.2][表7.7.1]																																																			
下地の種類	工程等	塗替えの種類	新規塗りの場合																																																							
コンクリート、モルタル面等	下地調整 塗り種別	・RA種 ※RB種 ・RC種	「塗料その他」の欄による																																																							
14	軽量鉄骨壁下地	1) 形式及び寸法 スタッド、ランナーの種類 ・50形 ・65形 ・90形 ・100形 ※スタッドの高さによる区分に応じた種類	[6.7.3][表6.7.1]	8	耐水性塗料塗り（DP）	<table><tr><th colspan="3">[表7.8.1～3]</th></tr><tr><td>下地の種類</td><td>塗替えの種類</td><td>新規塗りの場合</td></tr><tr><td>・鉄鋼面</td><td>表7.8.1による</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・亜鉛めっき鋼面</td><td>表7.8.2による</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・コンクリート面</td><td>・A-1種 ・A-2種</td><td>・A-1種 ・B-1種 ・C-1種</td><td></td></tr><tr><td>押出成形セメント板面</td><td>・B-1種 ・B-2種</td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>・C-1種 ・C-2種</td><td></td><td></td></tr><tr><td colspan="3">上塗り塗料 ・1級 ・2級 ・3級</td><td></td></tr></table>	[表7.8.1～3]			下地の種類	塗替えの種類	新規塗りの場合	・鉄鋼面	表7.8.1による			・亜鉛めっき鋼面	表7.8.2による			・コンクリート面	・A-1種 ・A-2種	・A-1種 ・B-1種 ・C-1種		押出成形セメント板面	・B-1種 ・B-2種				・C-1種 ・C-2種			上塗り塗料 ・1級 ・2級 ・3級				⑤	石綿含有仕上塗材の除去	除去工法 ・高圧水洗工法（ ） ・剥離剤を用いる工法（ ） ○電気グラインダー等を用いる工法（ビニールシート養生、飛散抑制剤による湿潤処理） ・その他（ ）	[9.1.6]																		
							[表7.8.1～3]																																																			
下地の種類	塗替えの種類	新規塗りの場合																																																								
・鉄鋼面	表7.8.1による																																																									
・亜鉛めっき鋼面	表7.8.2による																																																									
・コンクリート面	・A-1種 ・A-2種	・A-1種 ・B-1種 ・C-1種																																																								
押出成形セメント板面	・B-1種 ・B-2種																																																									
	・C-1種 ・C-2種																																																									
上塗り塗料 ・1級 ・2級 ・3級																																																										
15	せっこうボード、その他ボード及び合板張り	種 類 ・硬質モセメント板 [G] ・普通モセメント板 [G] ・ミッドランディックボード [G] ・パーテイクルボード [G] ・けい酸カルシウム板 ・ロックウール化粧吸音板 ・ロックウール化粧吸音板（軒天井用） ・せっこうボード ・不燃積層せっこうボード ・シーシングせっこうボード ・強化せっこうボード ・せっこうラスボード ・化粧せっこうボード（木目） ・メラミン樹脂化粧板 ・難燃合板 [G] 軽量鉄骨下地ボード遮音壁の遮音シール材 ※適用する ・適用しない [6.13.2][表3.7.1]	[6.13.2][表6.13.1]	9	つや有合成樹脂ペイント塗り（EP-G）	<table><tr><th colspan="3">[7.9.2～5][表7.9.1～4]</th></tr><tr><td>下地の種類</td><td>塗替えの種類</td><td>新規塗りの場合</td></tr><tr><td>・コンクリート面、モルタル面等</td><td>・A種 ※B種 ・C種</td><td>・A種 ※B種</td></tr><tr><td>・木部</td><td>・A種 ※B種 ・C種</td><td>※A種 ・B種</td></tr><tr><td>・鉄鋼面</td><td>・A種 ※B種 ・C種</td><td>※A種</td></tr><tr><td>・亜鉛めっき鋼面</td><td>※A種 ・B種</td><td>※A種</td></tr></table>	[7.9.2～5][表7.9.1～4]			下地の種類	塗替えの種類	新規塗りの場合	・コンクリート面、モルタル面等	・A種 ※B種 ・C種	・A種 ※B種	・木部	・A種 ※B種 ・C種	※A種 ・B種	・鉄鋼面	・A種 ※B種 ・C種	※A種	・亜鉛めっき鋼面	※A種 ・B種	※A種	⑥	石綿含有建材の処分	<table><tr><th colspan="3">9章 リ サ イ ク ル 製 品</th></tr><tr><th>項 目</th><th colspan="2">特 記 事 項</th></tr><tr><td rowspan="4">① リサイクル製品の使用</td><td colspan="2">1) リサイクル製品を使用するものは「石川県エコ・リサイクル認定製品」を優先的に使用すること。 石川県エコ・リサイクル認定製品 ・使用する</td></tr><tr><td>使用箇所</td><td>製品 備考</td></tr><tr><td>路盤</td><td>リサイクル砕石 RC-40</td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td colspan="3">「石川県エコ・リサイクル認定製品」は、石川県のホームページを参照する。 http://www.pref.ishikawa.jp/（石川県 生活環境部 資源循環推進課） 2) その他、リサイクル製品の使用に努めるものとする。 3) 建設副産物リサイクル製品を使用した場合、下記掲示板を設置する。（但し、工事請負代金が1,000万円以上のもの） 看板の寸法は90cm×60cm程度とする。<div><div>この建築工事ではリサイクル製品として ○○○○○○○○○、○○○○○○○○○ を使用しています。<div>R</div>石 川 県 土 木 部 営 繕 課 建設副産物リサイクルシンボルマーク （注）建設副産物シンボルマークのデザインは監督員に確認すること</div></div></td></tr></table>	9章 リ サ イ ク ル 製 品			項 目	特 記 事 項		① リサイクル製品の使用	1) リサイクル製品を使用するものは「石川県エコ・リサイクル認定製品」を優先的に使用すること。 石川県エコ・リサイクル認定製品 ・使用する		使用箇所	製品 備考	路盤	リサイクル砕石 RC-40			「石川県エコ・リサイクル認定製品」は、石川県のホームページを参照する。 http://www.pref.ishikawa.jp/（石川県 生活環境部 資源循環推進課） 2) その他、リサイクル製品の使用に努めるものとする。 3) 建設副産物リサイクル製品を使用した場合、下記掲示板を設置する。（但し、工事請負代金が1,000万円以上のもの） 看板の寸法は90cm×60cm程度とする。 <div><div>この建築工事ではリサイクル製品として ○○○○○○○○○、○○○○○○○○○ を使用しています。<div>R</div>石 川 県 土 木 部 営 繕 課 建設副産物リサイクルシンボルマーク （注）建設副産物シンボルマークのデザインは監督員に確認すること</div></div>			[9.1.3～6]												
							[7.9.2～5][表7.9.1～4]																																																			
下地の種類	塗替えの種類	新規塗りの場合																																																								
・コンクリート面、モルタル面等	・A種 ※B種 ・C種	・A種 ※B種																																																								
・木部	・A種 ※B種 ・C種	※A種 ・B種																																																								
・鉄鋼面	・A種 ※B種 ・C種	※A種																																																								
・亜鉛めっき鋼面	※A種 ・B種	※A種																																																								
9章 リ サ イ ク ル 製 品																																																										
項 目	特 記 事 項																																																									
① リサイクル製品の使用	1) リサイクル製品を使用するものは「石川県エコ・リサイクル認定製品」を優先的に使用すること。 石川県エコ・リサイクル認定製品 ・使用する																																																									
	使用箇所	製品 備考																																																								
	路盤	リサイクル砕石 RC-40																																																								
「石川県エコ・リサイクル認定製品」は、石川県のホームページを参照する。 http://www.pref.ishikawa.jp/（石川県 生活環境部 資源循環推進課） 2) その他、リサイクル製品の使用に努めるものとする。 3) 建設副産物リサイクル製品を使用した場合、下記掲示板を設置する。（但し、工事請負代金が1,000万円以上のもの） 看板の寸法は90cm×60cm程度とする。 <div><div>この建築工事ではリサイクル製品として ○○○○○○○○○、○○○○○○○○○ を使用しています。<div>R</div>石 川 県 土 木 部 営 繕 課 建設副産物リサイクルシンボルマーク （注）建設副産物シンボルマークのデザインは監督員に確認すること</div></div>																																																										
16	壁紙張り	施 工 素地ごしらえ [表7.3.4][表7.3.7] <table><tr><th>下地の種類</th><th>素地ごしらえの種類</th></tr><tr><td>・モルタル及びプラスター面</td><td>・A種 ※B種</td></tr><tr><td>せっこうボード面</td><td>・A種 ※B種</td></tr></table>	下地の種類	素地ごしらえの種類	・モルタル及びプラスター面	・A種 ※B種	せっこうボード面	・A種 ※B種	[6.14.3]	10	合成樹脂ペイント塗り（EP）	塗替えの種類 ・A種 ※B種 ・C種 [7.10.2][表7.10.1] 新規塗りの種類 ・A種 ※B種	⑦	リサイクル製品の使用	1) リサイクル製品を使用するものは「石川県エコ・リサイクル認定製品」を優先的に使用すること。 石川県エコ・リサイクル認定製品 ・使用する	使用箇所	製品	備考	備考																																							
			下地の種類	素地ごしらえの種類																																																						
・モルタル及びプラスター面	・A種 ※B種																																																									
せっこうボード面	・A種 ※B種																																																									
11	オイル塗り（OS） <table><tr><th colspan="2">[7.12.2]</th></tr><tr><td>適 用 箇 所</td><td>塗 料</td></tr><tr><td>・</td><td>・油性 ・水性</td></tr><tr><td>・</td><td>・油性 ・水性</td></tr></table>	[7.12.2]		適 用 箇 所	塗 料	・	・油性 ・水性	・	・油性 ・水性	12	ｶﾙｼｳﾞﾅﾝｼﾞｰﾌﾞｰﾄﾞ塗り（UC）	塗替えの種類 ・A種 ※B種 [7.11.2][表7.11.1] 新規塗りの種類 ・A種 ※B種	12	木材保護塗料塗り（WPP）	種別 ・A種 ※B種 [7.13.2][表7.13.1]																																											
[7.12.2]																																																										
適 用 箇 所	塗 料																																																									
・	・油性 ・水性																																																									
・	・油性 ・水性																																																									
17	モルタル塗り	既製目地材 ※適用しない ・適用する [6.15.3]	[6.15.3]	⑧	石綿含有建材の処理	1) 事前調査 あらかじめ関係法令等に基づき、石綿含有建材の事前調査を行う。 目視及び貸与する設計図書等により石綿含有建材の有無について調査する。 調査範囲 ・ 貸与資料 ・ ○図示 2) 分析による石綿含有建材の調査 ・行う ○行わない 分析方法 <table><tr><th rowspan="2">材 料 名</th><th>定性分析方法</th><th>定量分析方法</th></tr><tr><td>・JIS A 1481-1 ・JIS A 1481-2</td><td>・JIS A 1481-3 ・JIS A 1481-4</td></tr><tr><td>・</td><td>・ 箇所</td><td>・ 箇所</td></tr><tr><td>・</td><td>・ 箇所</td><td>・ 箇所</td></tr><tr><td>・</td><td>・ 箇所</td><td>・ 箇所</td></tr></table>	材 料 名	定性分析方法	定量分析方法	・JIS A 1481-1 ・JIS A 1481-2	・JIS A 1481-3 ・JIS A 1481-4	・	・ 箇所	・ 箇所	・	・ 箇所	・ 箇所	・	・ 箇所	・ 箇所	2	余裕期間制度 試行工事	1) 余裕期間制度対象工事の内容 （1）本工事は、円滑な工事施工体制の確保を図るため、全体工期の範囲内で受注者が工事の着手及び完成日を設定することができる工事であり、建設工事に係る余裕期間制度（フレックス方式）試行要領に基づき実施するものとする。 （2）受注者は、契約締結日から着工日の期限までの間で、休日を除く任意の日を着工日として設定することができる。 （3）受注者は、完成日の期限までの間で、休日を除く任意の日を完成日として設定することができる。 （4）工期は受注者が任意で設定した着工及び完成日を記載する。 （5）受注者は、契約時に現場代理人及び主任技術者選任届を発注者に提出しなければならない。 （6）受注者は、着工日までの余裕期間内に工事（工場製作、測量、資材の搬入、仮設物や現場事務所の設置等の準備工を含む。）に着手してはならない。ただし、現場に搬入しない資機材の準備及び労働者の手配は、この限りでない。 （7）受注者は、余裕期間の間は、現場代理人及び主任（監理）技術者の配置を要しない。 （8）受注者は、着工日までに施工計画書を提出するものとする。 （9）余裕期間制度の適用により増加する費用は、受注者の負担とする。 （10）その他、この特記仕様書に定めのないことについては、建設工事に係る余裕期間制度（フレックス方式）試行要領によるものとする。 （着工日の期限） 契約締結日から起算して〇ヶ月以内	改訂履歴 平成14年4月1日 平成15年7月1日 平成15年10月1日 平成16年4月1日 平成17年4月1日 平成17年6月1日 平成18年4月12日 平成18年7月3日 平成19年10月1日 平成20年4月1日 平成21年4月1日 平成21年8月1日 平成22年4月6日 平成23年4月1日 平成24年4月1日 平成25年4月1日 平成26年4月1日 平成27年4月1日 平成28年4月1日 平成29年4月1日 平成29年7月1日 平成30年4月1日 令和2年4月1日 令和3年4月1日 令和3年5月1日 令和4年4月1日 令和5年4月1日 令和6年7月1日 令和6年10月1日 令和7年4月1日																																		
								材 料 名	定性分析方法	定量分析方法																																																
・JIS A 1481-1 ・JIS A 1481-2	・JIS A 1481-3 ・JIS A 1481-4																																																									
・	・ 箇所	・ 箇所																																																								
・	・ 箇所	・ 箇所																																																								
・	・ 箇所	・ 箇所																																																								
⑨	素地ごしらえ 素地ごしらえ [表7.3.1～7] <table><tr><th>下 地 の 種 類</th><th>種 別</th><th>施工箇所</th></tr><tr><td>木部</td><td>・A種 ・B種</td><td></td></tr><tr><td>鉄鋼面</td><td>・A種 ・B種 ※C種</td><td></td></tr><tr><td>亜鉛めっき鋼面</td><td>・A種 ・B種</td><td></td></tr><tr><td>モルタル及びプラスター面</td><td>・A種 ※B種</td><td></td></tr><tr><td>コンクリート面等</td><td>・A種 ※B種</td><td></td></tr><tr><td>せっこうボード及びその他のボード面</td><td>・A種 ○B種</td><td></td></tr></table>	下 地 の 種 類	種 別	施工箇所	木部	・A種 ・B種		鉄鋼面	・A種 ・B種 ※C種		亜鉛めっき鋼面	・A種 ・B種		モルタル及びプラスター面	・A種 ※B種		コンクリート面等	・A種 ※B種		せっこうボード及びその他のボード面	・A種 ○B種		4	鎮止め塗料塗り	SOPまたはEP-Gの場合 [7.4.3][表7.4.3][表7.4.5] <table><tr><th>下地の種類</th><th>塗替えの種類</th><th colspan="2">新規塗りの種類</th></tr><tr><td>鉄鋼面</td><td>・A種 ・B種 ※C種</td><td>見え掛り</td><td>※A種 ・B種</td></tr><tr><td></td><td></td><td>見え隠れ</td><td>・A種 ※B種</td></tr><tr><td>亜鉛めっき面</td><td>・A種 ・B種 ※C種</td><td>鋼製建具等</td><td>※A種 ・B種</td></tr><tr><td></td><td></td><td>その他</td><td>・A種 ※B種</td></tr></table> DPの場合 [7.4.3][表7.4.4][表7.4.6] <table><tr><th>下地の種類</th><th>塗替えの種類</th><th colspan="2">新規塗りの種類</th></tr><tr><td>鉄鋼面</td><td>・A種 ・B種 ・C種</td><td>※A種 ・B種 ・C種</td><td></td></tr><tr><td>亜鉛めっき面</td><td>・A種 ・B種 ※C種</td><td>表7.4.6による</td><td></td></tr></table>	下地の種類	塗替えの種類	新規塗りの種類		鉄鋼面	・A種 ・B種 ※C種	見え掛り	※A種 ・B種			見え隠れ	・A種 ※B種	亜鉛めっき面	・A種 ・B種 ※C種	鋼製建具等	※A種 ・B種			その他	・A種 ※B種	下地の種類	塗替えの種類	新規塗りの種類		鉄鋼面	・A種 ・B種 ・C種	※A種 ・B種 ・C種		亜鉛めっき面	・A種 ・B種 ※C種	表7.4.6による		設計 工事名 門前地区体育施設災害復旧工事 図面名 建築改修工事仕様書 その4 図面番号 A-04
下 地 の 種 類	種 別	施工箇所																																																								
木部	・A種 ・B種																																																									
鉄鋼面	・A種 ・B種 ※C種																																																									
亜鉛めっき鋼面	・A種 ・B種																																																									
モルタル及びプラスター面	・A種 ※B種																																																									
コンクリート面等	・A種 ※B種																																																									
せっこうボード及びその他のボード面	・A種 ○B種																																																									
下地の種類	塗替えの種類	新規塗りの種類																																																								
鉄鋼面	・A種 ・B種 ※C種	見え掛り	※A種 ・B種																																																							
		見え隠れ	・A種 ※B種																																																							
亜鉛めっき面	・A種 ・B種 ※C種	鋼製建具等	※A種 ・B種																																																							
		その他	・A種 ※B種																																																							
下地の種類	塗替えの種類	新規塗りの種類																																																								
鉄鋼面	・A種 ・B種 ・C種	※A種 ・B種 ・C種																																																								
亜鉛めっき面	・A種 ・B種 ※C種	表7.4.6による																																																								

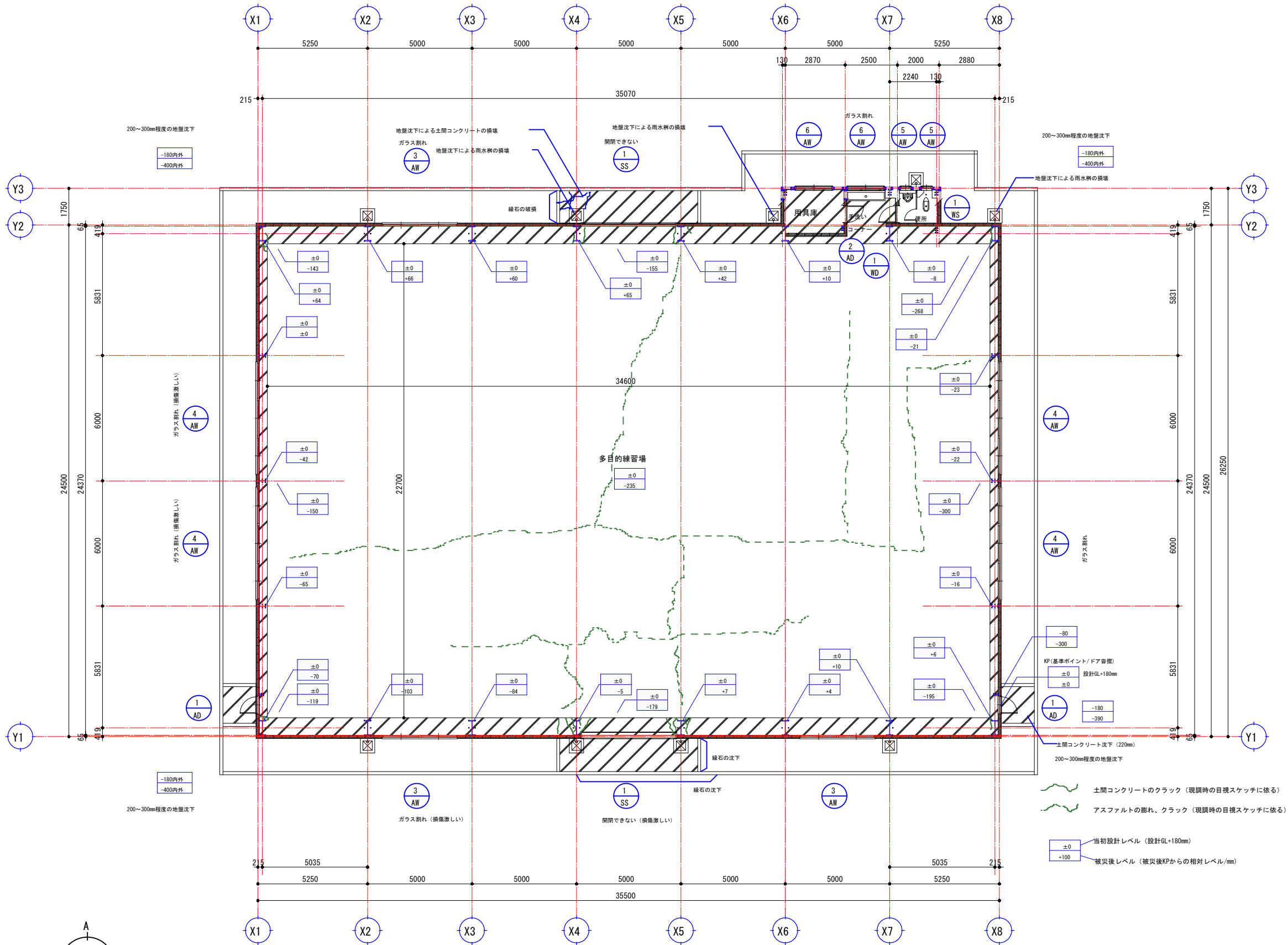
門前多目的体育館・門前武道館廻り外構撤去リスト					健民体育館・門前テニスコート廻り外構撤去リスト					門前野球場廻り外構撤去リスト				
記号	名称	内容	(参考数量)	備考・詳細図記号	記号	名称	内容	(参考数量)	備考・詳細図記号	記号	名称	内容	(参考数量)	備考・詳細図記号
A1	アスファルト舗装撤去	アスファルト舗装t=50、撤去・処分 端部カッター入れ	1340.0m ² 5.10m		イ	アスファルト舗装撤去	アスファルト舗装t=50、撤去・処分 端部カッター入れ	80.3m ² 98.10m		①	アスファルト舗装撤去	アスファルト舗装t=50、撤去・処分 端部カッター入れ	1.52m ² 5.4m	
A2	アスファルト舗装撤去	アスファルト舗装t=50、撤去・処分	2278.6m ²		ロ	アスファルト舗装撤去	アスファルト舗装t=50、撤去・処分 端部カッター入れ	643.4m ² 23.50m		②	内野フェンス・擁壁撤去 (観覧席3・5部分)	T型コンクリート擁壁・フェンス・U240・クッションウォール撤去・処分 仮囲い共	22.2m×2	詳細図②
					ニ	アスファルト舗装撤去 砂入り人工芝撤去	既設砂入り人工芝+密粒度アスコンt=50、撤去・処分 端部カッター入れ(壁打ち板廻り)	2995m ² 17.50m	詳細図ニ	③	雨水樹・U字溝撤去	現場打ちRC雨水樹(内径450×450)、撤去・処分 U字溝(U240)及びRC蓋(500×400×100d)撤去・処分 アスファルト舗装t=50、撤去・処分	1箇所 4.80m 2.40m ²	詳細図③
					ホ	テニスネットポスト及び センター金具基礎撤去	テニスネットポスト金具基礎、撤去・処分 センター金具基礎、撤去・処分	4組(8箇所) 4組(4箇所)	詳細図ホ	④	スチールネットフェンス 撤去	スチールネットフェンス(H=2000)及び独立基礎、撤去・処分	3.3m	詳細図④
					ヘ	U字溝撤去	U240コンクリート蓋共、撤去・処分	3.6m	詳細図ヘ	⑥	窓ガラス撤去	型板ガラスt=4(800×450)、撤去・処分	0.36m ²	
					ト	U字溝及び 現場打ちRC雨水樹撤去	U240コンクリート蓋共、撤去・処分 内径450×450グレーチング蓋共、撤去・処分	1.5m 1箇所	詳細図ト					
					チ	スチール門扉撤去	W1000×H1200支柱共、撤去・処分	1箇所	詳細図チ					



門前多目的体育館・門前武道館廻り外構改修リスト					健民体育館・門前テニスコート廻り外構改修リスト					門前野球場廻り外構改修リスト				
記号	名称	内容	(参考数量)	備考・詳細図記号	記号	名称	内容	(参考数量)	備考・詳細図記号	記号	名称	内容	(参考数量)	備考・詳細図記号
	アスファルト舗装 既設路盤再転圧	アスファルト舗装（密粒度アスコン）t=50 リサイクル砕石追加 13.40m3 既設路盤再転圧	1340.0m2 1340.0m2	追加砕石 10mm(平均)		アスファルト舗装 既設路盤再転圧	アスファルト舗装（密粒度アスコン）t=50 リサイクル砕石追加 4.02m3 既設路盤再転圧	80.3m2 80.3m2	追加砕石 50mm その他=10mm(平均)		アスファルト舗装 既設路盤再転圧	アスファルト舗装（密粒度アスコン）t=50 リサイクル砕石追加 0.076m3 既設路盤再転圧	1.52m2 1.52m2	追加砕石 50mm その他=10mm(平均)
	アスファルト舗装 既設路盤再転圧	アスファルト舗装（密粒度アスコン）t=50 リサイクル砕石追加 26.88m3 既設路盤再転圧	2278.6m2 2278.6m2	追加砕石 50mm その他=10mm(平均)		アスファルト舗装 既設路盤再転圧	アスファルト舗装（密粒度アスコン）t=50 リサイクル砕石追加 6.43m3 既設路盤再転圧	643.4m2 643.4m2	追加砕石 50mm その他=10mm(平均)		内野フェンス・擁壁の 再構築	T型コンクリート擁壁・フェンス・U240・クッションウォール再構築 仮囲い共、U字溝安全蓋は再利用	22.2m×2	詳細図 
	白線引き	トラフィックペイント（白）W=120×L5000×27本	135.6m			白線引き	トラフィックペイント（白）W=120	27.7m			雨水樹・U字溝再構築	現場打ちRC雨水樹（内径450×450）再構築 U字溝（300B）及びRC蓋（500×400×100d）再構築	1箇所 4.3m	詳細図 
						テニスコート路盤及び 人工芝再構築	砂入り人工芝+密粒度アスコンt=50、 路盤工：レベル調整の上、粒調砕石t=30再転圧 ライン工：テニスコート4面共	2995m2	詳細図 		スチールネットフェンス 再構築	スチールネットフェンス（H=2000）及び独立基礎共	3.3m	詳細図 
						テニスネットポスト及び センター金具再構築	テニスネットポスト金具基礎設置 センター金具基礎設置	4組（8箇所） 4組（4箇所）	詳細図 		スチールネットフェンス 歪み直し、基礎再構築	スチールネットフェンス（H=800）の歪み直し※最大倒れ200mm 独立基礎再構築（現場打ち200×200×350）	12.0m 1箇所	詳細図 
						U字溝再構築	U240コンクリート蓋共	3.6m	詳細図 		窓ガラス交換	型板ガラスt=4（800×450）、四周シーリング（変性シリコン両面）共	0.36m2	
						U字溝及び 現場打ちRC雨水樹再構築	U240コンクリート蓋共 内径450×450グレーチング蓋共	1.5m 1箇所	詳細図 					
						スチール門扉再構築	W1000×H1200支柱共	1箇所	詳細図 		防球フェンスの復旧	支柱・ネット・ワイヤープレースの張り替え		別途工事（先行発注）







門前多目的体育館 1階平面図 (改修前)



株式会社 MAC 建築研究所
管理建築士/一般建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE
2025. 09

■担当/CHECK
D. SATO

■製図/DRAWER
D. SATO

■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE

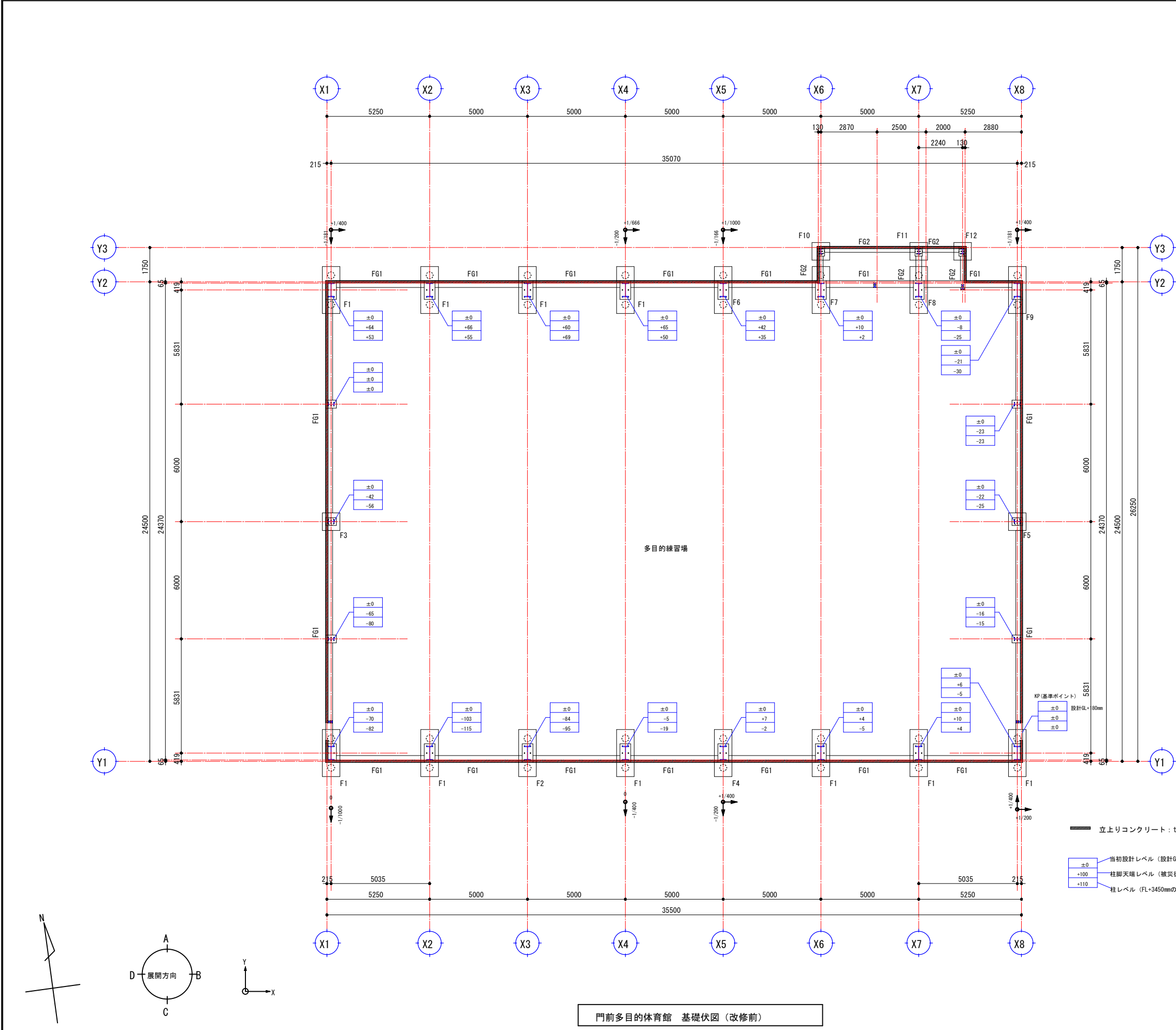
輪島市門前総合運動公園災害復旧工事 (門前多目的体育館)

■図面名称/DRAWING-TITLE

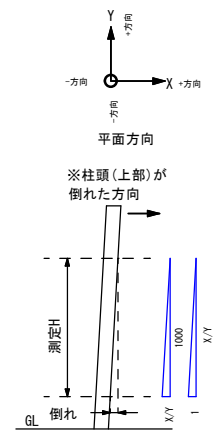
多目的体育館 1階平面図 (改修前)

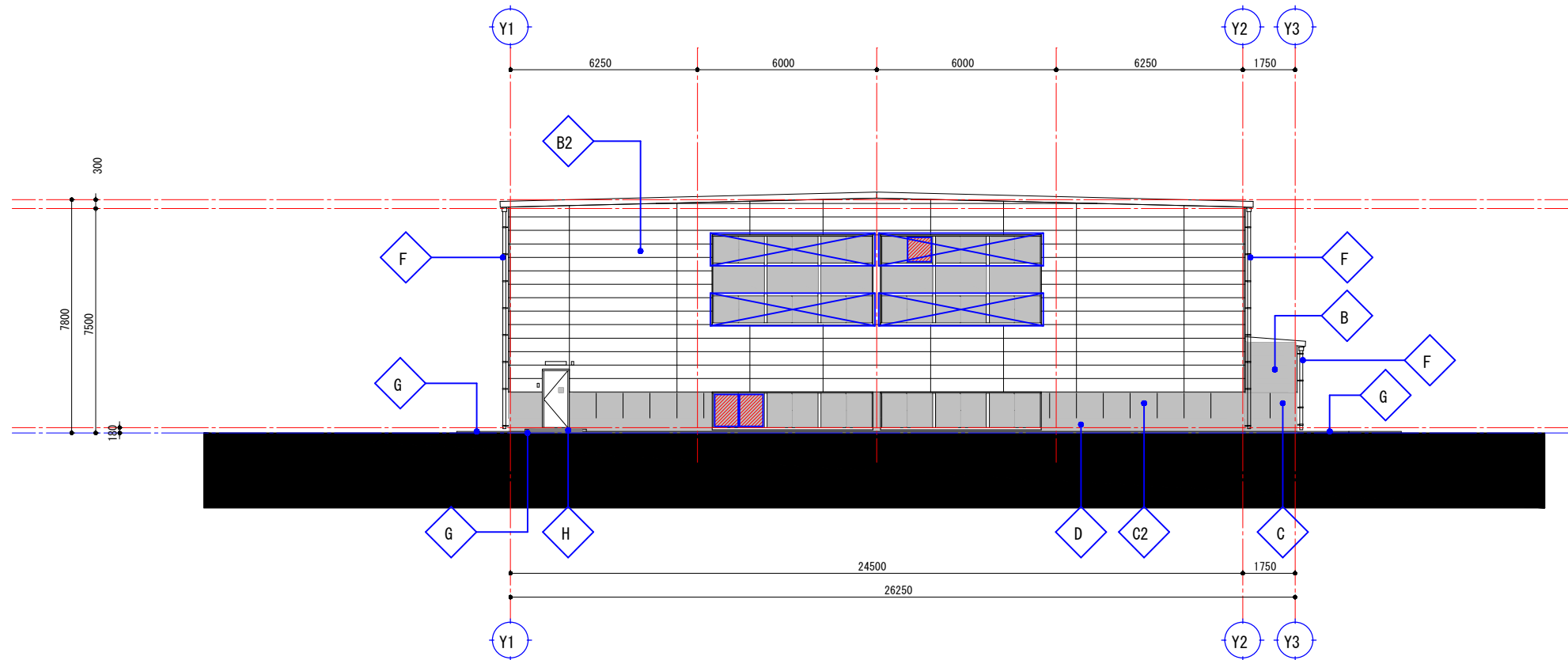
■縮尺/SCALE
1/100 (A1)
1/200 (A3)

■図番/No.
A 16

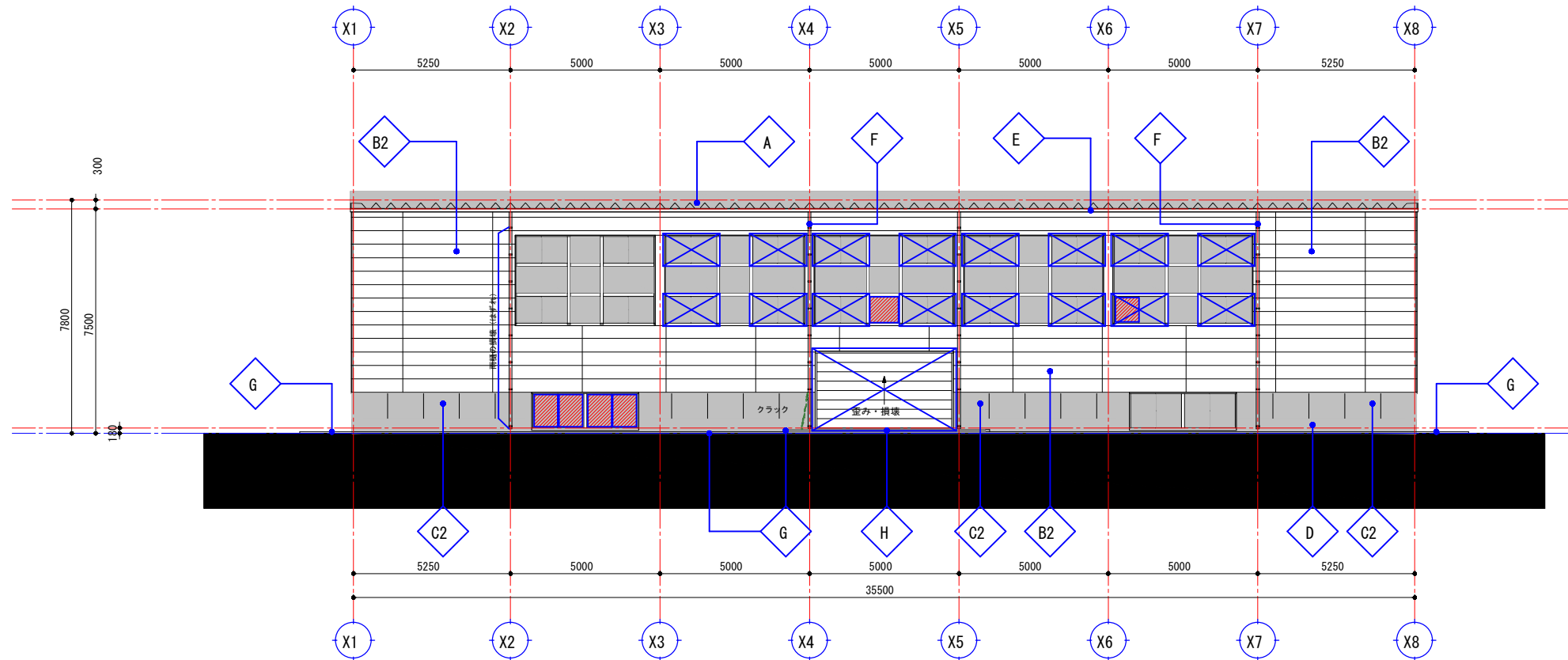


柱・基礎 調査							
柱記号	柱脚基礎状況 (○は正常) 柱脚レベル	X方向			Y方向		
		倒れ 測定H	X/1000	1/X	倒れ 測定H	Y/1000	1/Y
X1-Y1	クラックあり -70mm	0 mm 2000mm	0 1000	0	-2 mm 2000mm	-1 1000	-1 1000
X2-Y1	○ -103mm						
X3-Y1	○ -84mm						
X4-Y1	クラックあり -5mm	0 mm 2000mm	0 1000	0	-5 mm 2000mm	-2.5 1000	-1 400
X5-Y1	クラックあり +7mm	+5 mm 2000mm	+2.5 1000	+1 400	-10 mm 2000mm	-5 1000	-1 200
X6-Y1	○ +4mm						
X7-Y1	○ +10mm						
X8-Y1	○ +6mm	+10 mm 2000mm	+5 1000	+1 200	+5 mm 2000mm	+2.5 1000	+1 400
X1-Y2	クラックあり +64mm	+5 mm 2000mm	+2.5 1000	+1 400	-11 mm 2000mm	-5.5 1000	-1 181
X2-Y2	○ +66mm						
X3-Y2	○ +60mm						
X4-Y2	クラックあり +65mm	+3 mm 2000mm	+1.5 1000	+1 666	-10 mm 2000mm	-5 1000	-1 200
X5-Y2	クラックあり +42mm	+2 mm 2000mm	+1 1000	+1 1000	-12 mm 2000mm	-6 1000	-1 166
X6-Y2	○ +10mm						
X7-Y2	○ -8mm						
X8-Y2	クラックあり -21mm	+5 mm 2000mm	+2.5 1000	+1 400	-11 mm 2000mm	-5.5 1000	-1 181
備考 ※1 柱梁部材及び結合部やボルト接合部（パネルゾーン）はすべて健全 ※2 柱脚レベルは、X8-Y1のAD-1番摺（設計GL+180）を基準にした相対レベル の変位を示す。柱脚側近の土間コンクリートレベルを測定 ※3 柱レベルは、FL+3450（設計GL+3630）のスチフナレベルも測定したが 柱脚レベルと、ほぼパレレルの相対変位を示している（平面図参照）							





門前多目的体育館 東側立面図（改修前）



門前多目的体育館 南側立面図（改修前）

- クラック（現調時の目視スケッチに依る）
- 開閉が出来ない建具（建物の歪み等による損壊が原因）
- ガラスに割れ・ひびのある窓（一部ベニア板による応急措置）
- 破損箇所（内容は特記による）

仕上凡例

A	屋根：溶融アルミメッキ鋼板t=0.8、丸馳折板Ⅱ型
B	外壁：成形ケイ酸カルシウム板t=11、シーラー処理、EP
B2	改修外壁：サイディングH=450程度（塗装品）
C	腰：CB t=120積、モルタル塗り、リシン吹付
C2	改修腰：既設腰壁の上、リシン吹付
D	巾木：コンクリート打放仕上
E	軒樋：塩ビ製、150×120
F	縦樋：塩ビパイプφ100
G	縁石：縁石ブロックA型
H	スロープ：土間コンクリート金銀押え



株式会社 **MAC** 建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE
2025. 09

■担当/CHECK
D. SATO

■製図/DRAWER
D. SATO

■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE

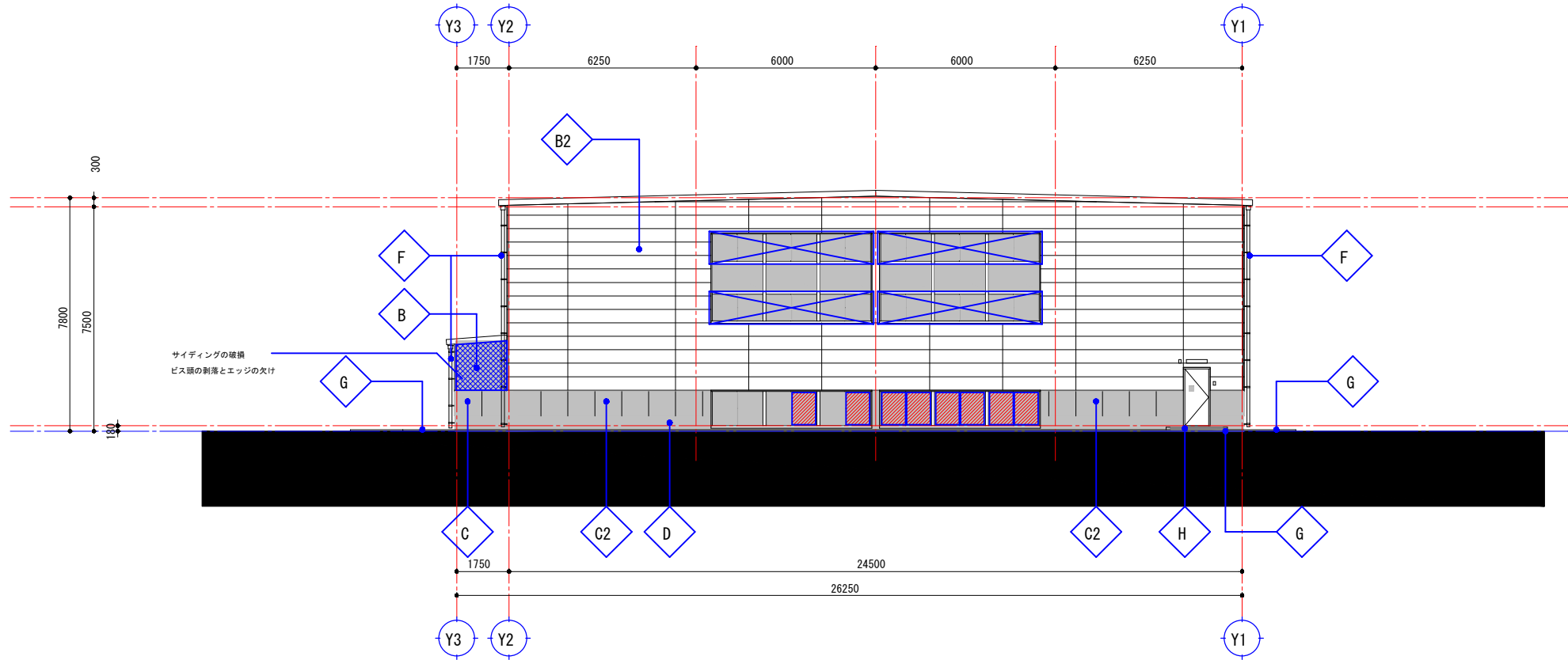
輪島市門前総合運動公園災害復旧工事（門前多目的体育館）

■図面名称/DRAWING-TITLE

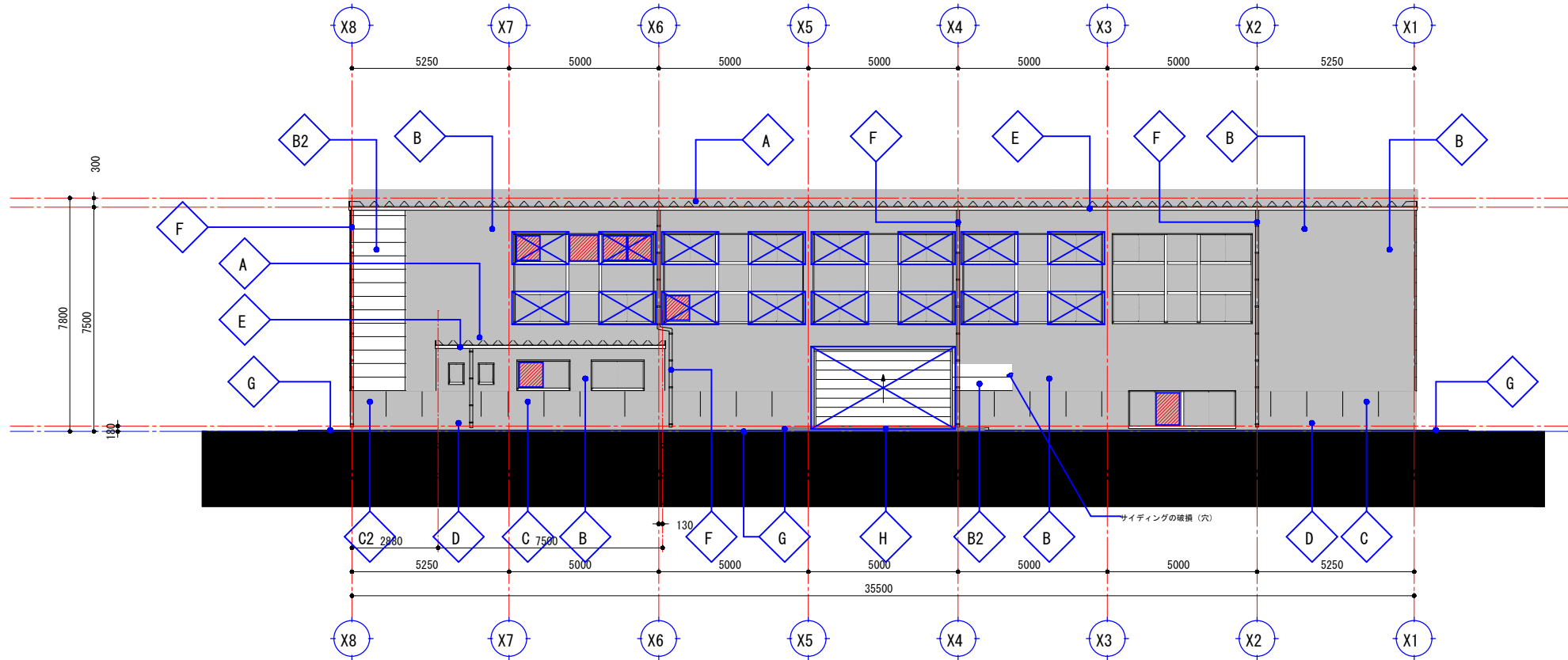
多目的体育館 立面図1（改修前）

■縮尺/SCALE
1/100 (A1)
1/200 (A3)

■図番/No.
A 19



門前多目的体育館 西側立面図（改修前）

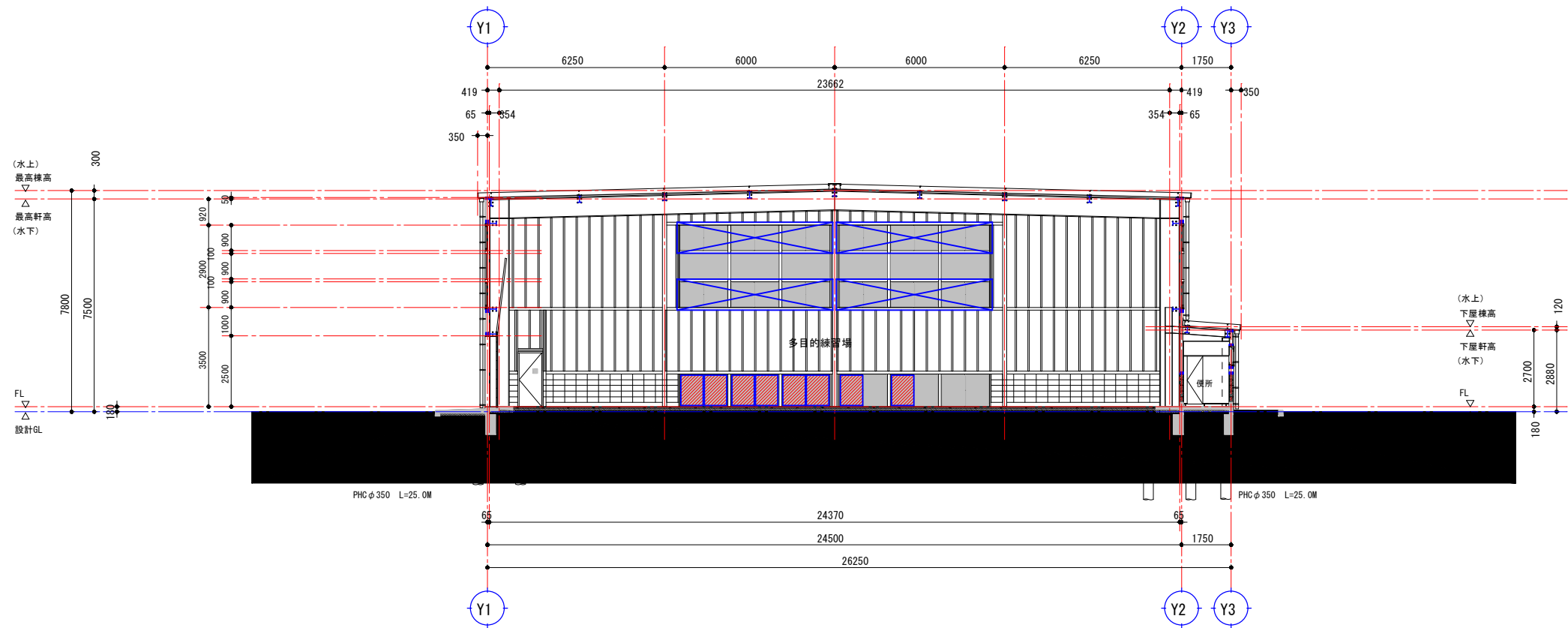


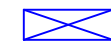


門前多目的体育館 北側立面図（改修前）

- クラック（現調時の目視スケッチに依る）
- 開閉が出来ない建具（建物の歪み等による損壊が原因）
- ガラスに割れ・ひびのある窓（一部ベニア板による応急措置）
- 破損箇所（内容は特記による）

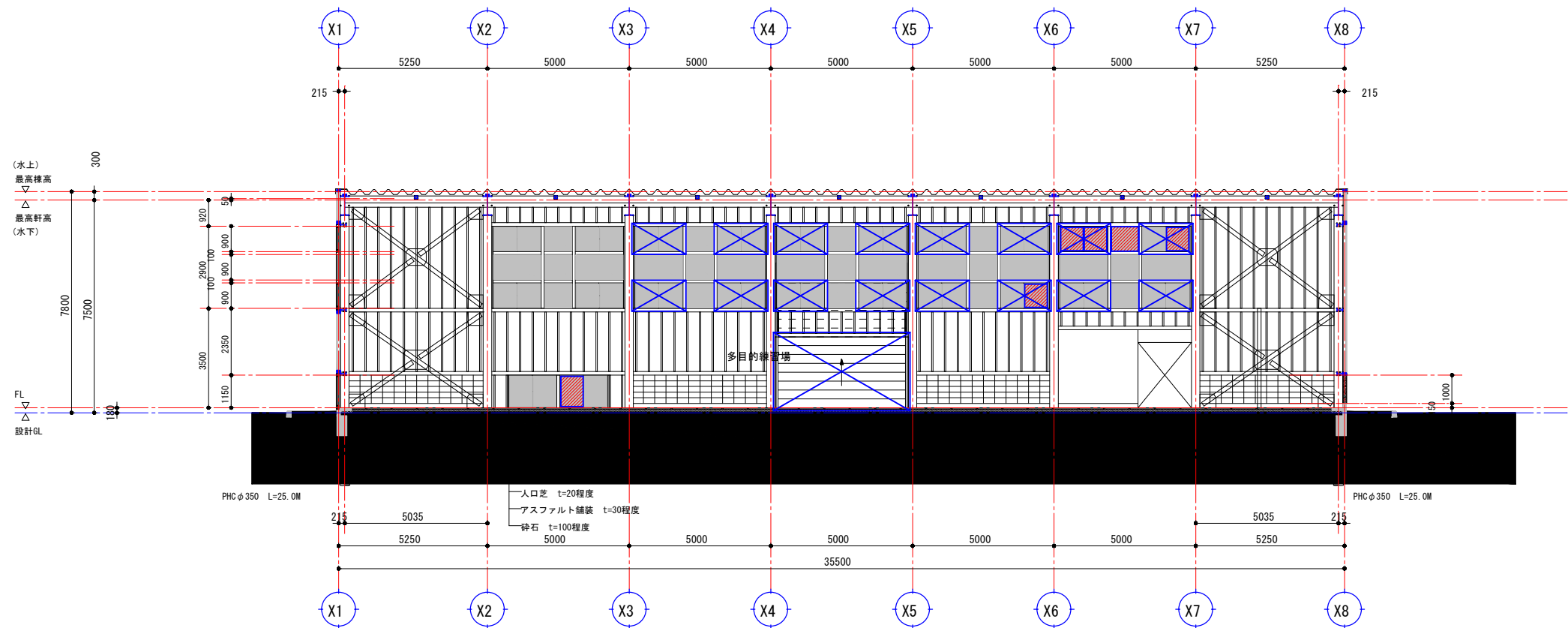
仕上凡例

A	屋根：溶融アルミメッキ鋼板t=0.8、丸馳折板Ⅱ型
B	外壁：成形ケイ酸カルシウム板t=11、シーラー処理、EP
B2	改修外壁：サイディングH=450程度（塗装品）
C	腰：CB t=120積、モルタル塗り、リシン吹付
C2	改修腰：既設腰壁の上、リシン吹付
D	巾木：コンクリート打放仕上
E	軒樋：塩ビ製、150×120
F	縦樋：塩ビパイプφ100
G	縁石：縁石ブロックA型
H	スロープ：土間コンクリート金鍍押え



-  開閉が出来ない建具（建物の歪み等による損壊が原因）
-  ガラスに割れ・ひびのある窓（一部ベニア板による応急措置）
-  破損箇所（内容は特記による）

門前多目的体育館 南北断面図・D方向展開図（改修前）



門前多目的体育館 東西断面図・A方向展開図（改修前）



株式会社 MAC 建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE
2025. 09

■担当/CHECK
D. SATO

■製図/DRAWER
D. SATO

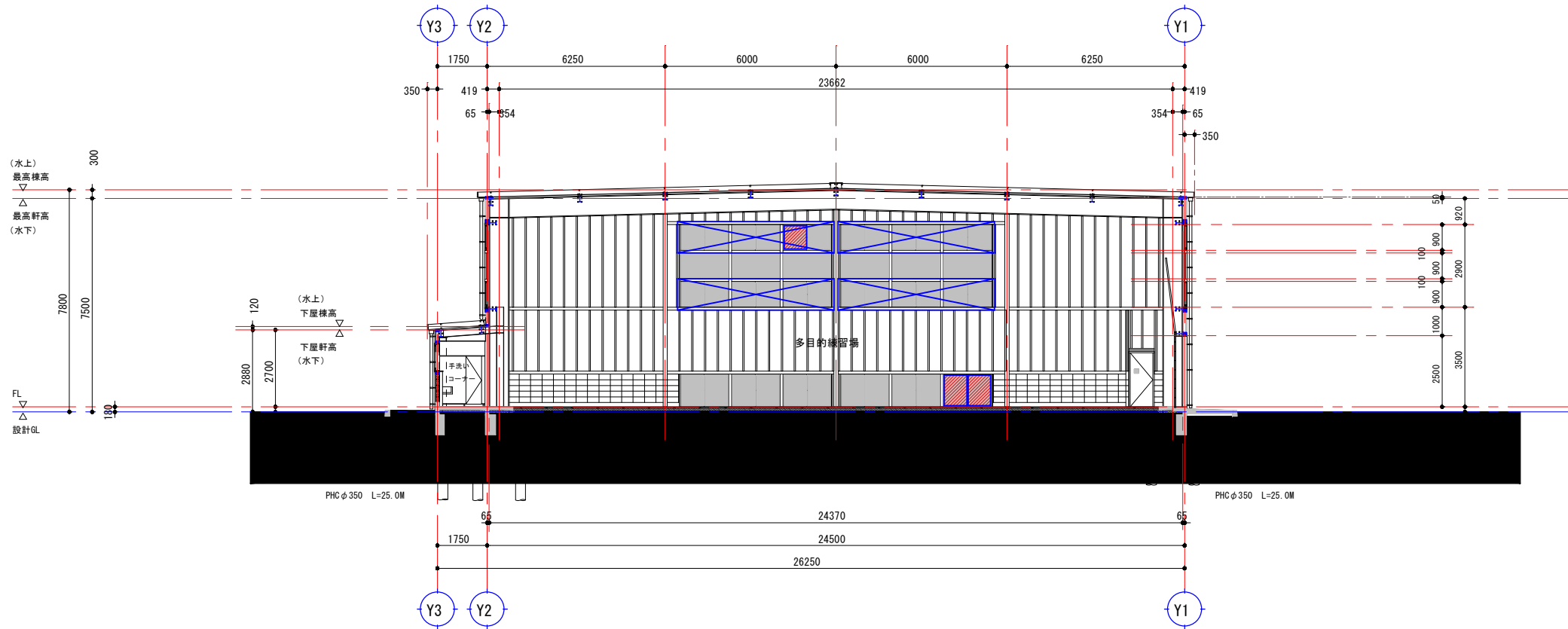
■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE
輪島市門前総合運動公園災害復旧工事（門前多目的体育館）

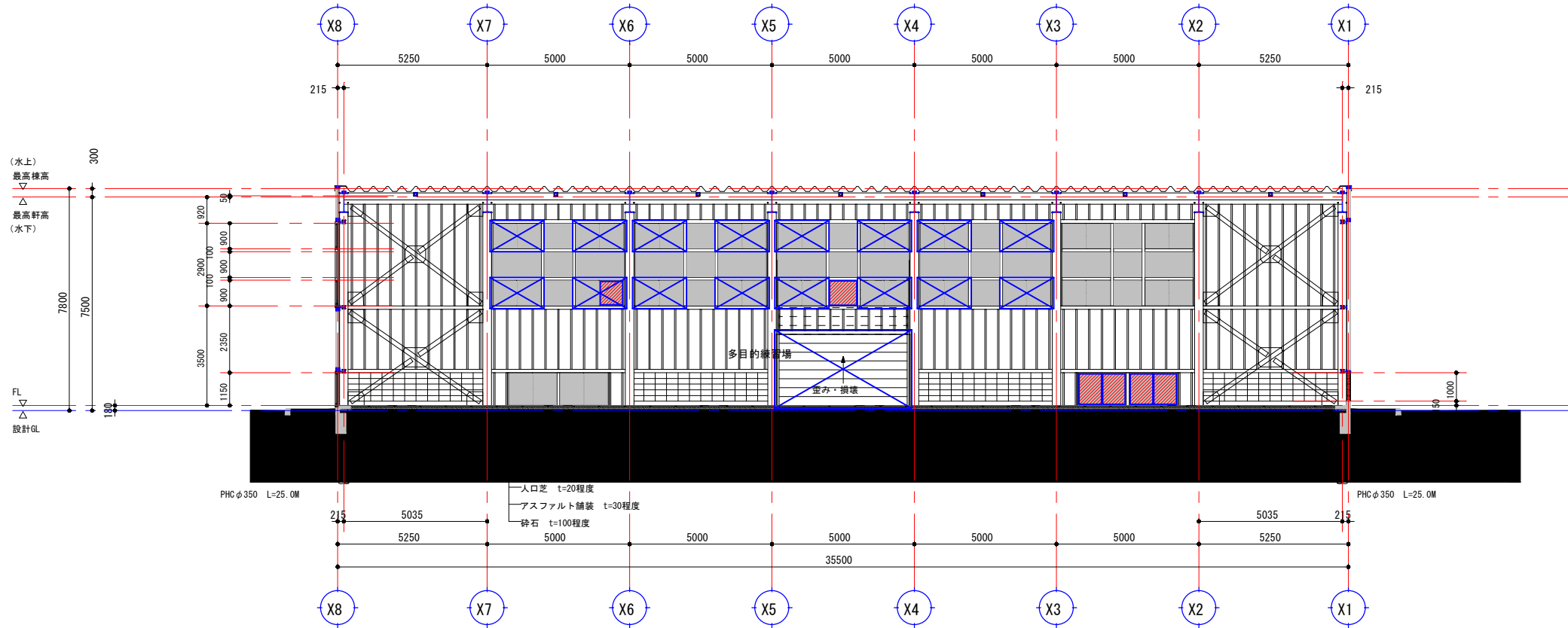
■図面名称/DRAWING-TITLE
多目的体育館 断面図・展開図 1（改修前）

■縮尺/SCALE
1/100 (A1)
1/200 (A3)

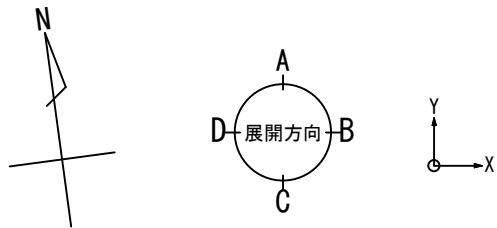
■図番/No.
A 21



門前多目的体育館 南北断面図・B方向展開図（改修前）



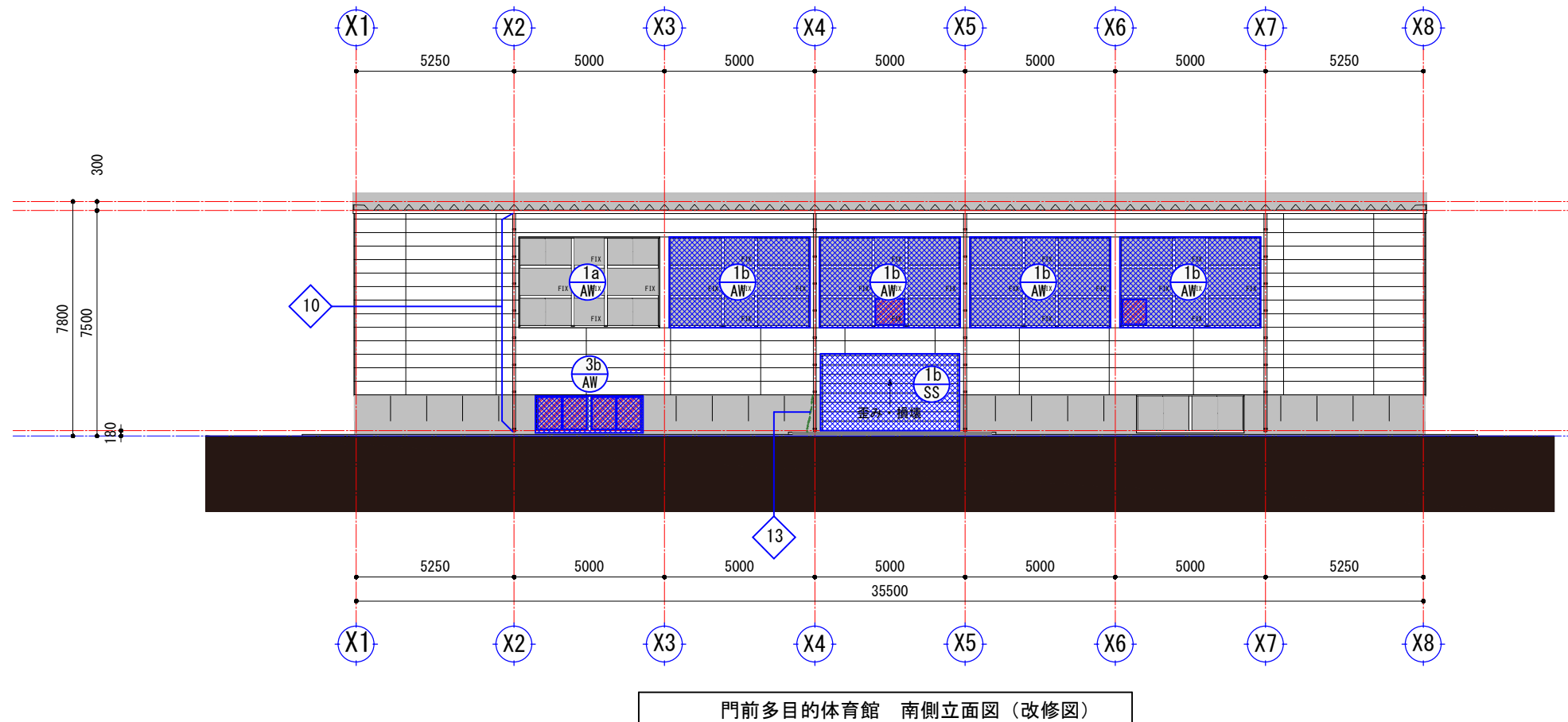
門前多目的体育館 東西断面図・C方向展開図（改修前）

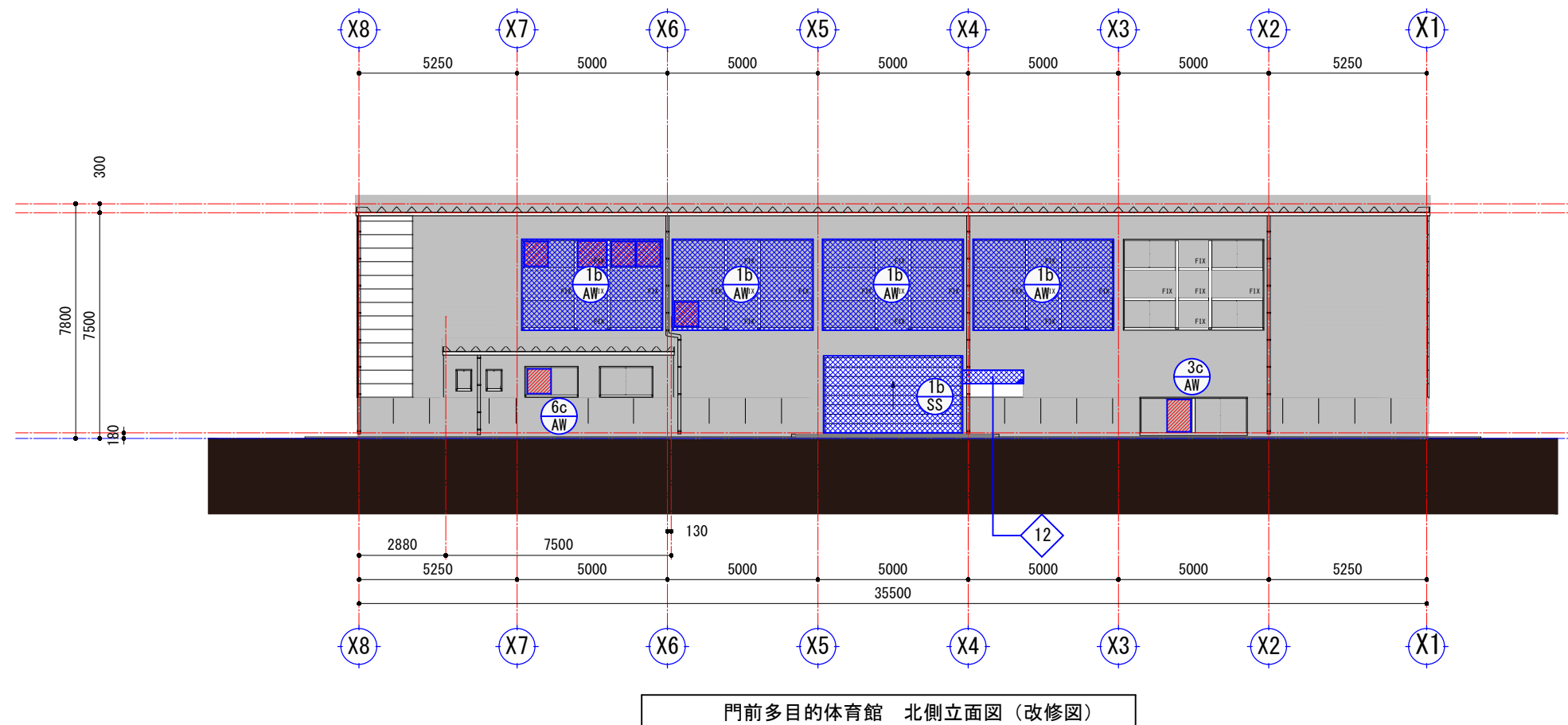


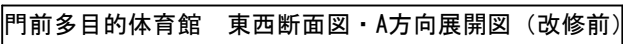
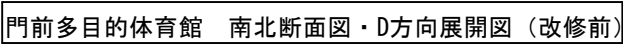
凡例

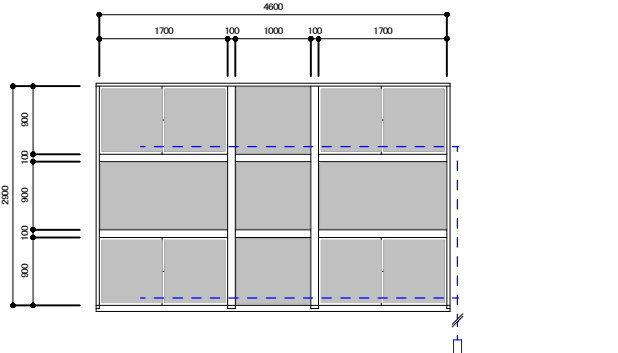
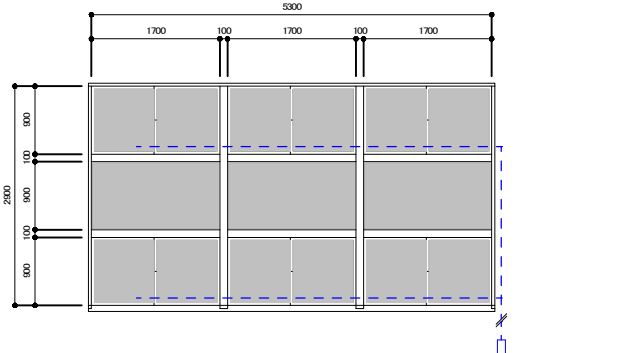
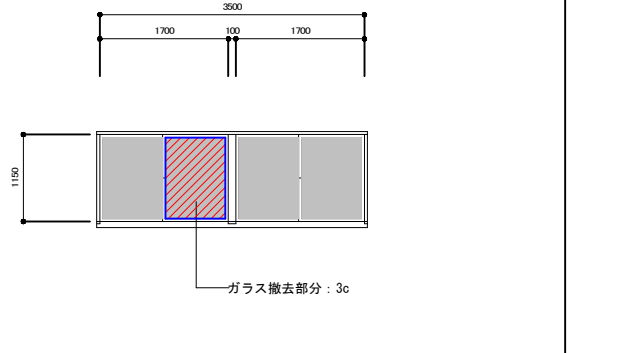
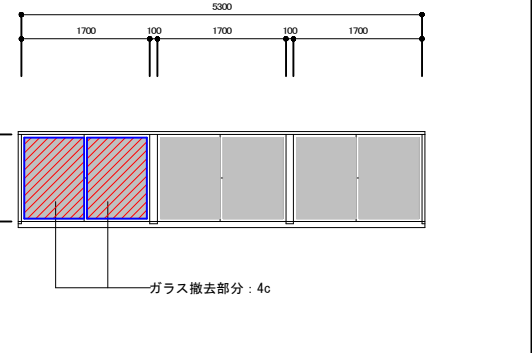
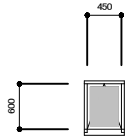
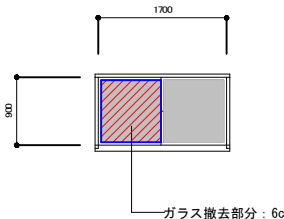
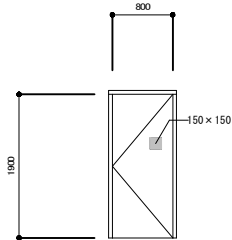
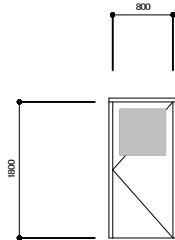
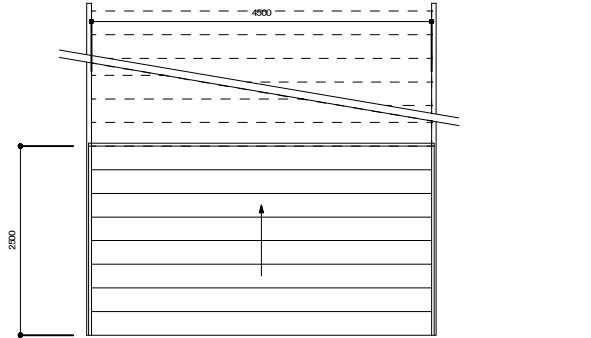
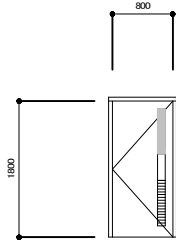
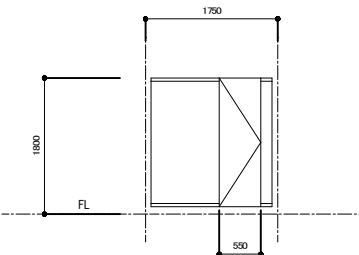
- ~~－~~ ~~×~~ ~~－~~ ~~×~~ 屋根ブレース M16-1 ターンバックル付 破断→（交換）
 ※ 90%はターンバックル部分で破断。10%はM16部分で破断
- ~~－~~ ~~ゆ~~ ~~－~~ ~~ゆ~~ 屋根ブレース M16-1 ターンバックル付 ゆるみ（たわみ）→（交換）

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

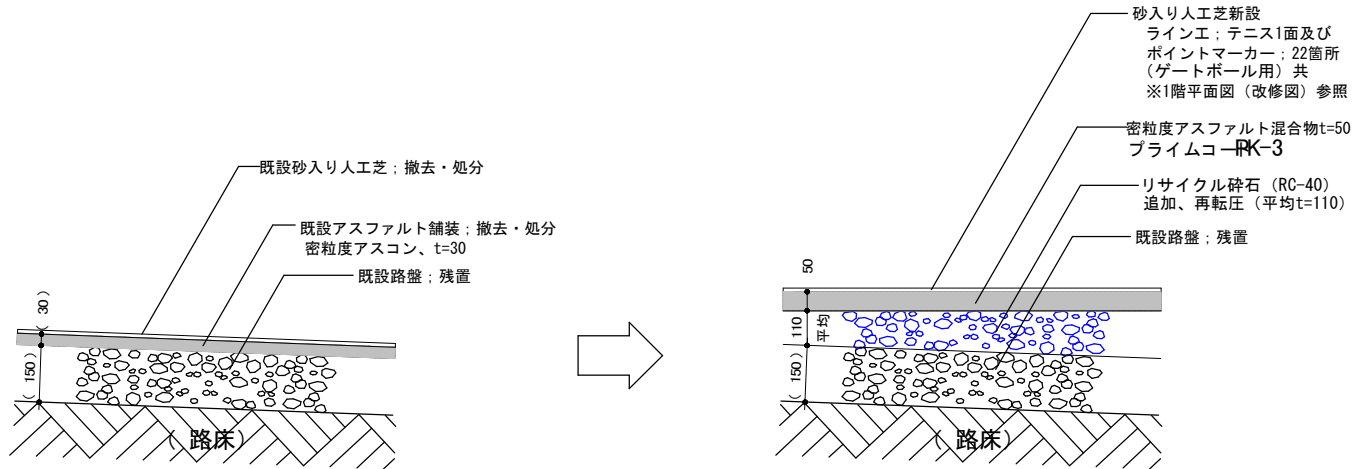
記号 / 設置個所 / 数量	<div>1a/bAW</div> 多目的練習場上部	残置 : 1a2カ所	<div>2a/bAW</div> 多目的練習場上部	残置 : 2a0カ所	<div>3a-cAW</div> 多目的練習場	残置 : 3aカ所	<div>4a-cAW</div> 多目的練習場	残置 : 4aカ所		
		撤去 : 1b8カ所		撤去 : 2b4カ所		撤去 : 3bカ所 ガラスのみ撤去 : 3cカ所		撤去 : 4b2カ所 ガラスのみ撤去 : 4cカ所		
姿図										
様式	嵌め殺し窓付き3連3段引き違い窓		嵌め殺し窓付き3連3段引き違い窓		2連引き違い窓		3連引き違い窓			
材質見込み	アルミ70 mm		アルミ70 mm		アルミ70 mm		アルミ70 mm			
ガラス	型ガラス 4 mm		型ガラス 4 mm		網入り型ガラス 6.8 mm		網入り型ガラス 6.8 mm			
金物	付属金物一式、排煙オペレーター付き（引き違い用）		付属金物一式、排煙オペレーター付き（引き違い用）		付属金物一式・内側防球フェンス（アルミ製）		付属金物一式・内側防球フェンス（アルミ製）			
備考	水切り共撤去		水切り共撤去		水切り共撤去・内側防球フェンス（アルミ製縦格子手摺）は再利用		水切り共撤去・内側防球フェンス（アルミ製縦格子手摺）は再利用			
記号 / 設置個所 / 数量	<div>5aAW</div> 便所	残置 : 1a2カ所	<div>6aC AW</div> 用具庫・手洗いコーナー	残置 : 6aカ所	<div>1a/bAD</div> 多目的練習場	残置 : 1a2カ所	<div>2a/bAD</div> 用具庫	残置 : 2a1カ所		
		撤去 : 1b0カ所		撤去 : 6b0カ所 ガラスのみ撤去 : 6cカ所		撤去 : 1b0カ所		撤去 : 2b0カ所		
姿図										
様式	押し出し窓		引き違い窓		片開きアルミフラッシュ戸		片開きアルミフラッシュ戸			
材質見込み	アルミ70 mm		アルミ70 mm		アルミフラッシュ70 mm		アルミフラッシュ70 mm			
ガラス	型ガラス 4 mm		型ガラス 4 mm		網入り型ガラス 6.8 mm		型ガラス 4 mm			
金物	付属金物一式		クレセント錠、付属金物一式		握り玉・DC・丁番・ステンレス沓摺・シリンドー錠（内部サムターン）		握り玉・DC・丁番・ステンレス沓摺			
備考										
記号 / 設置個所 / 数量	<div>1a/bSS</div> 多目的練習場	残置 : 1a0カ所	<div>1aWD</div> 便所	残置 : 1a1カ所	<div>1aWS</div> 便所	残置 : 1a1カ所				
		撤去 : 1b2カ所		撤去 : 1b0カ所		撤去 : 1b0カ所				
姿図										
様式	オーバースライダー		片開き戸		便所スクリーン					
材質見込み	アルミ製		ポリ合板フラッシュ40 mm		ポリ合板フラッシュ40 mm					
ガラス			型ガラス 4 mm							
金物	ガイドレール、錠付き		丁番、表示錠、ガラリ		ヒンジ、戸当り、表示錠、ステンレス頭つなぎ					
備考	ガイドレール、三方枠共撤去									
<div>株式会社 MAC 建築研究所</div> <div>管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健</div>		■製作年月日/DATE 2025. 09	■担当/CHECK D. SATO	■製図/DRAWER D. SATO	■特記事項	■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE 輪島市門前総合運動公園災害復旧工事（門前多目的体育館）		■図面名称/DRAWING-TITLE 門前多目的体育館 建具表 1（解体図）	■縮尺/SCALE 1/50 (A1) 1/100 (A3)	■図番/No. A－3 5

記号 / 設置箇所 / 数量			<div>1bAW</div> 多目的練習場上部	残置：1a2カ所 更新：1b8カ所	<div>2bAW</div> 多目的練習場上部	残置：2a0カ所 撤去：2b4カ所	<div>3b.cAW</div> 多目的練習場	残置：3a0カ所 更新：3b0カ所 ガラスのみ更新：3c0カ所	<div>4b.cAW</div> 多目的練習場	残置：4a0カ所 更新：4b2カ所 ガラスのみ更新：4c0カ所
姿図										
様式			嵌め殺し窓付き3連3段引き違い窓		嵌め殺し窓付き3連3段引き違い窓		2連引き違い窓		3連引き違い窓	
材質 見込み			アルミ70 mm		アルミ70 mm		アルミ70 mm		アルミ70 mm	
ガラス			型ガラス 4 mm		型ガラス 4 mm		網入り型ガラス 6.8 mm		網入り型ガラス 6.8 mm	
金物			付属金物一式、排煙オペレーター付き（引き違い用）		付属金物一式、排煙オペレーター付き（引き違い用）		付属金物一式・内側防球フェンス（アルミ製）		付属金物一式・内側防球フェンス（アルミ製）	
備考			水切り共改修 建物に歪みがあるため、現地にて寸法測定を行ない製作すること		水切り共改修 建物に歪みがあるため、現地にて寸法測定を行ない製作すること		水切り共改修・内側防球フェンス（アルミ製縦格子手摺）は再利用 建物に歪みがあるため、現地にて寸法測定を行ない製作すること ガラスのみ更新部分は四周両面シール共		水切り共改修・内側防球フェンス（アルミ製縦格子手摺）は再利用 建物に歪みがあるため、現地にて寸法測定を行ない製作すること ガラスのみ更新部分は四周両面シール共	
記号 / 設置箇所 / 数量			<div>5aAW</div> 便所	残置：1a2カ所 撤去：1b0カ所	<div>6cAW</div> 用具庫・手洗いコーナー	残置：6a0カ所 撤去：6b0カ所 ガラスのみ更新：6c0カ所	<div>1a.bAW</div> 多目的練習場	残置：1a2カ所 撤去：1b0カ所	<div>2a.bAW</div> 用具庫	残置：2a1カ所 撤去：2b0カ所
姿図										
様式			押し出し窓		引き違い窓		片開きアルミフラッシュ戸		片開きアルミフラッシュ戸	
材質 見込み			アルミ70 mm		アルミ70 mm		アルミフラッシュ70 mm		アルミフラッシュ70 mm	
ガラス			型ガラス 4 mm		型ガラス 4 mm		網入り型ガラス 6.8 mm		型ガラス 4 mm	
金物			付属金物一式		クレセント錠、付属金物一式		握り玉・DC・丁番・ステンレス沓摺・シリンダー錠（内部サムターン）		握り玉・DC・丁番・ステンレス沓摺	
備考					四周両面シール共					
記号 / 設置箇所 / 数量			<div>1bSS</div> 多目的練習場	残置：1a0カ所 更新：1b2カ所	<div>1aAW</div> 便所	残置：1a1カ所 撤去：1b0カ所	<div>1aWS</div> 便所	残置：1a1カ所 撤去：1b0カ所		
姿図										
様式			オーバースライダー		片開き戸		便所スクリーン			
材質 見込み			アルミ製		ポリ合板フラッシュ40 mm		ポリ合板フラッシュ40 mm			
ガラス					型ガラス 4 mm					
金物			ガイドレール、錠付き		丁番、表示錠、ガラリ		ヒンジ、戸当り、表示錠、ステンレス頭つなぎ			
備考			ガイドレール、三方栓共改修 建物に歪みがあるため、現地にて寸法測定を行ない製作すること							
<div>株式会社MAC建築研究所</div> <div>管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健</div>			■製作年月日/DATE 2025. 09		■担当/CHECK D. SATO		■製図/DRAWER D. SATO		■特記事項	
							■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE 輪島市門前総合運動公園災害復旧工事（門前多目的体育館）		■図面名称/DRAWING-TITLE 門前多目的体育館 建具表 2（改修図）	
									■縮尺/SCALE 1/50 (A1) 1/100 (A3)	
									■図番/No. A-3 6	

1 多目的練習場床・再構築 詳細図

1/10 (A1)
1/20 (A3)

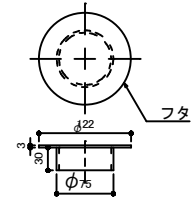
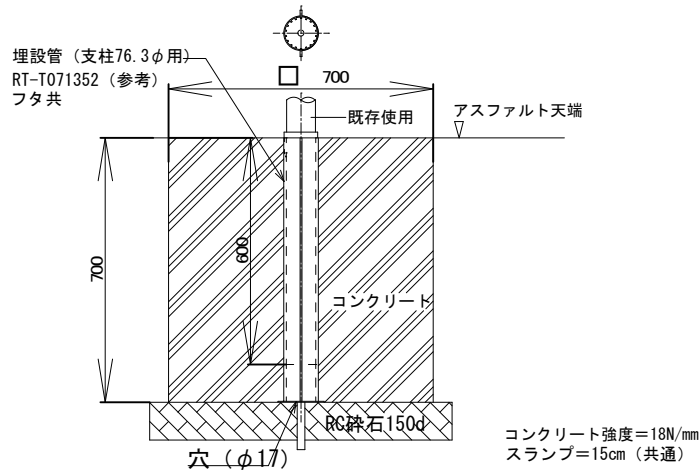
※() 寸法表記は、推定値とする



- ※1 人工芝は直近5年 (2020-2025) 国体会場使用施設のうち2大会会場以上を施工しているメーカーの製品を使用すること
※2 本工事で使用する砂入り人工芝は日本テニス協会 (JTA) コートの公認・推薦メーカーの製品であること
※3 (財) 日本ソフトテニス連盟 (JSTA) 公認の砂入り人工芝製造事業の製品であること

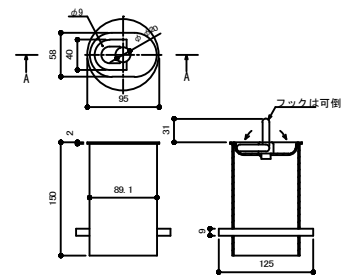
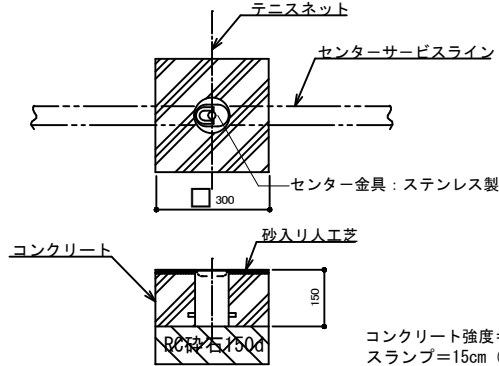
2 3 テニス支柱基礎・再構築 詳細図
センターガイド・再構築 詳細図

1/5、1/10 (A1)
1/10、1/20 (A3)



フタ参考図 1/5 (A1)

テニス支柱基礎 埋設管及び基礎の再構築 1/10 (A1)

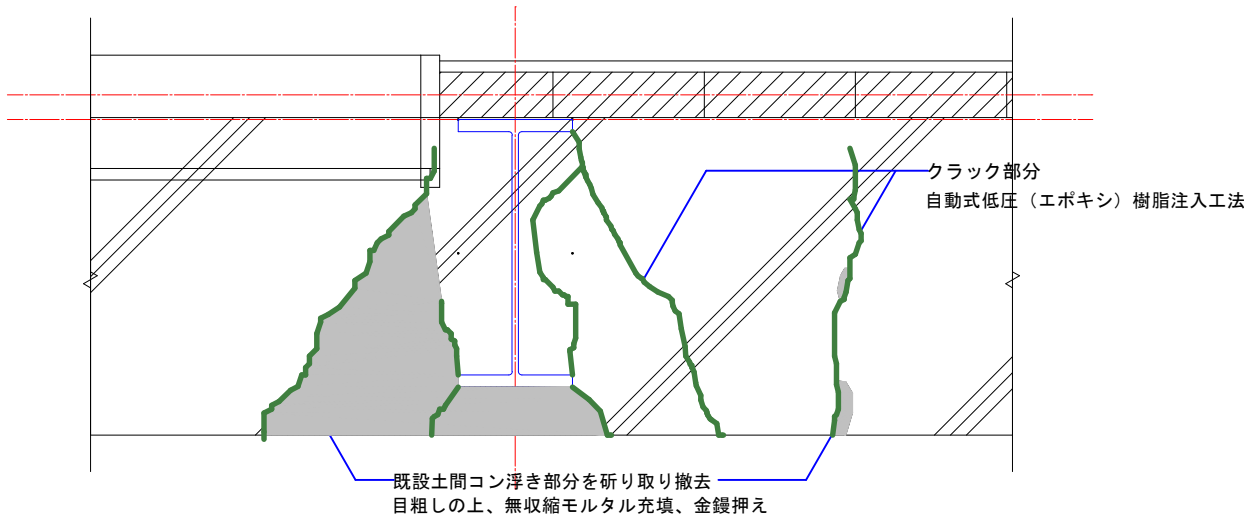


センター金具 1/5 (A1)

センターガードの再構築 1/10 (A1)

4 5 柱脚部土間補修等 詳細図

1/10 (A1)
1/20 (A3)



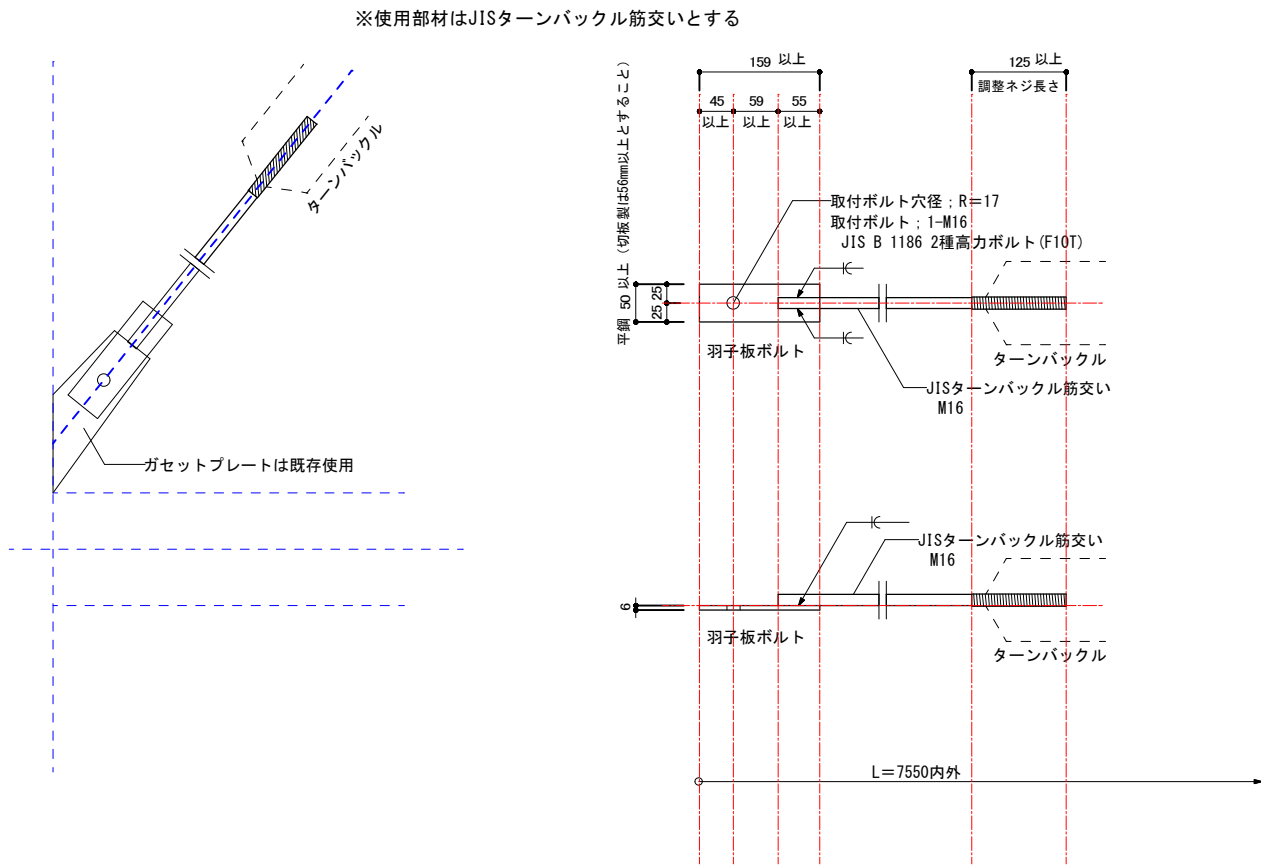
被災状況 (参考写真)

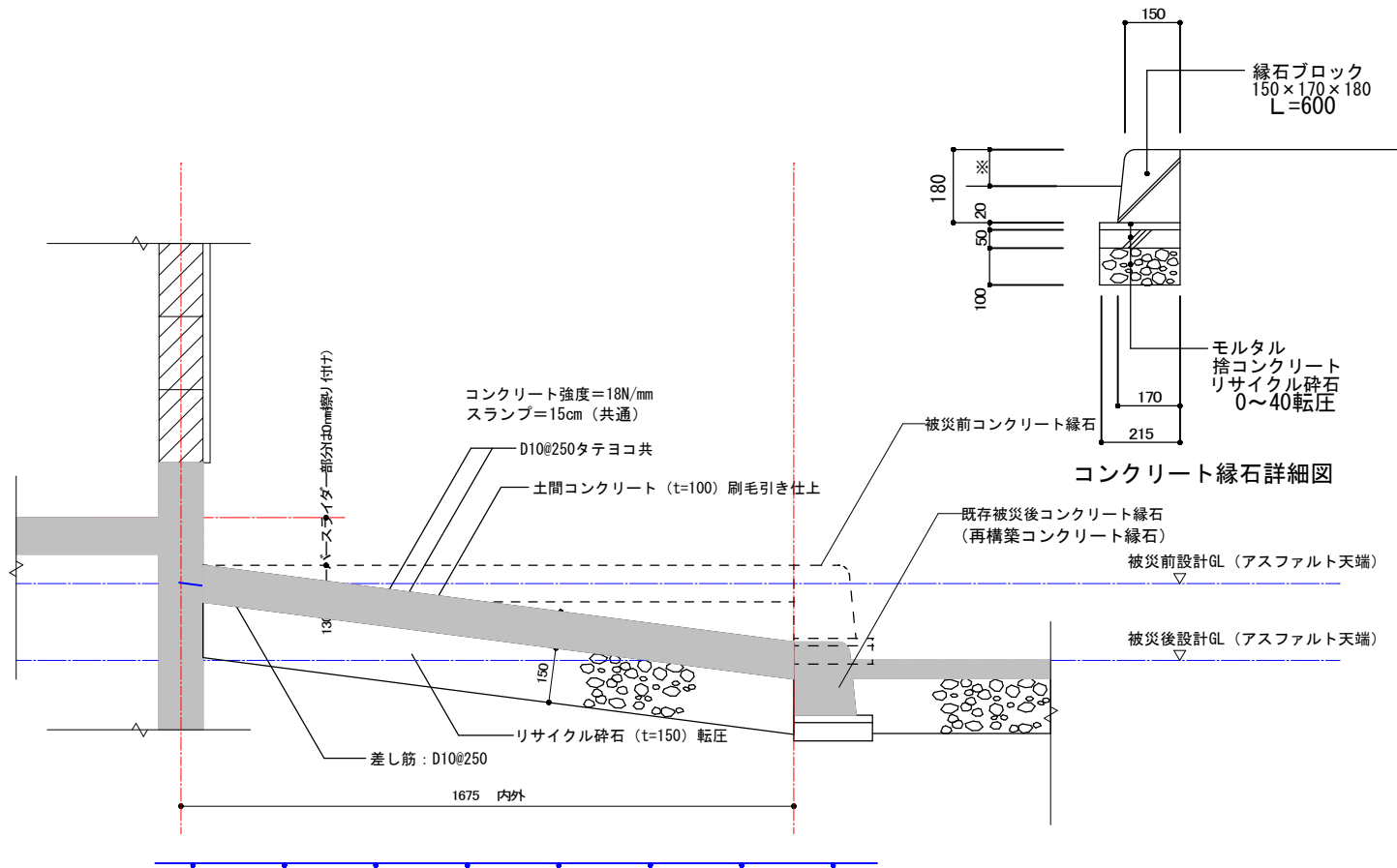


被災状況 (参考写真)

6 屋根ブレース更新 詳細図

1/5 (A1)
1/10 (A3)

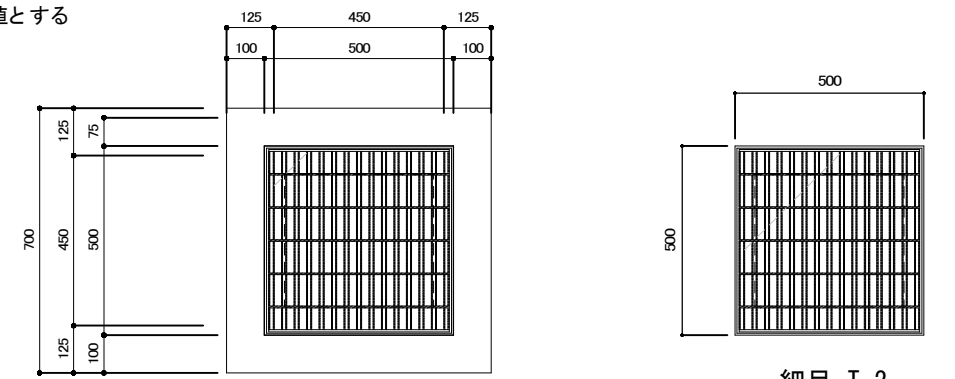




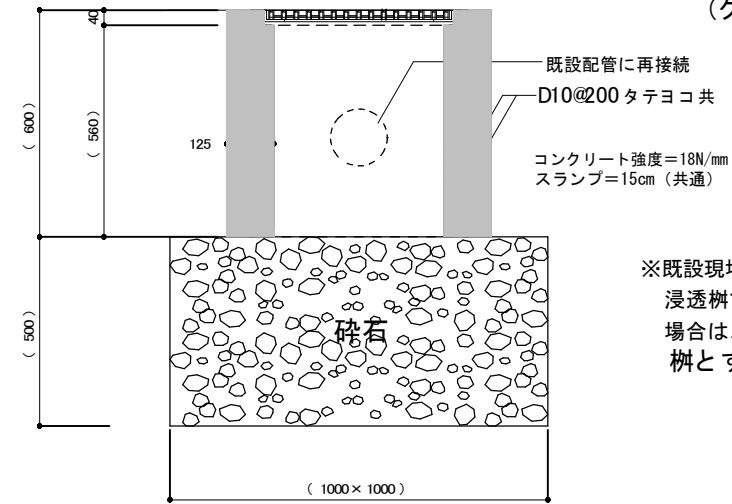
コンクリート縁石詳細図

※() 寸法表記は、推定値とする

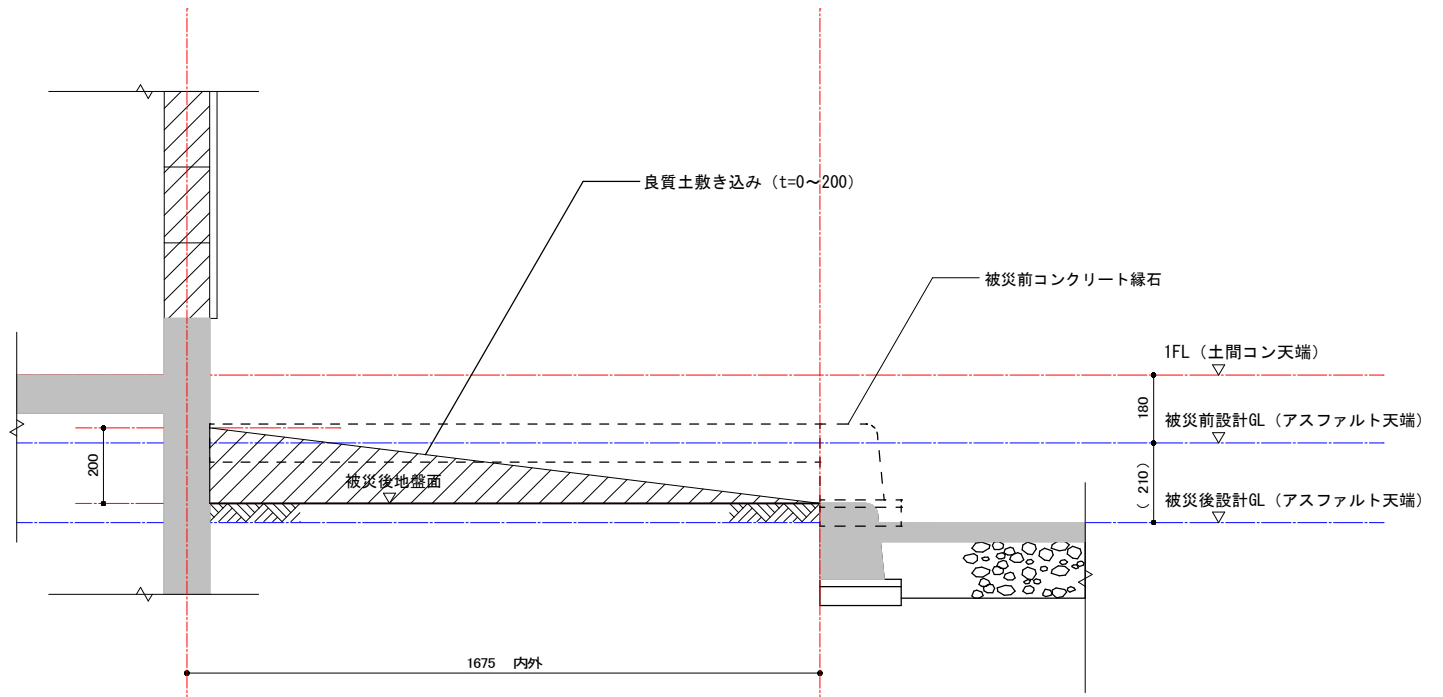
平面図



側面図

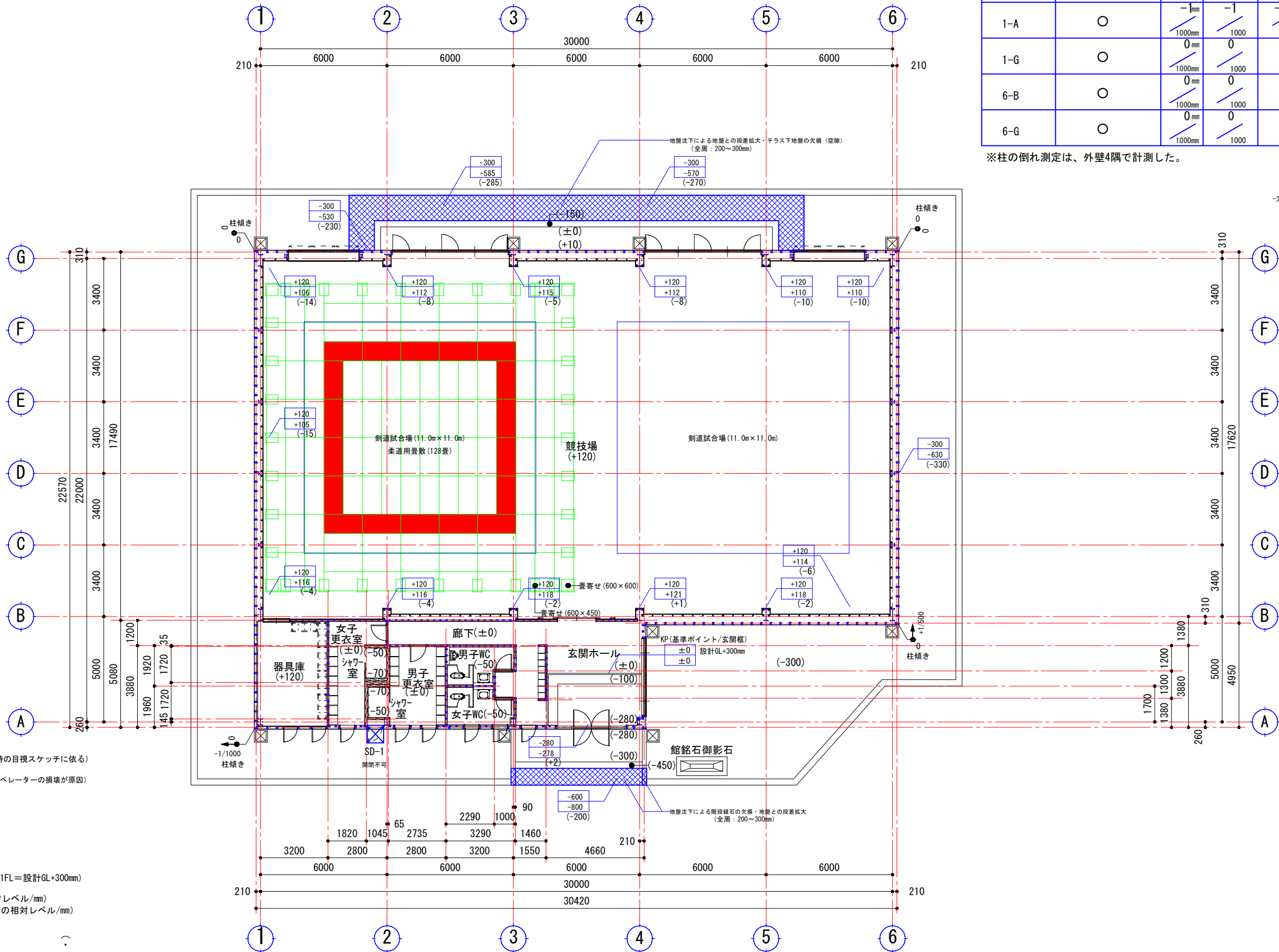
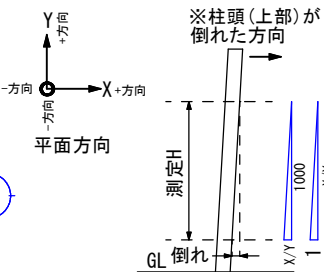


※既設現場打コンクリート 樹の図面がないため
浸透樹で設計しているが、既設樹が溜めますの
場合は、底盤を撤去し既設砕石を利用し、浸透
樹とする。

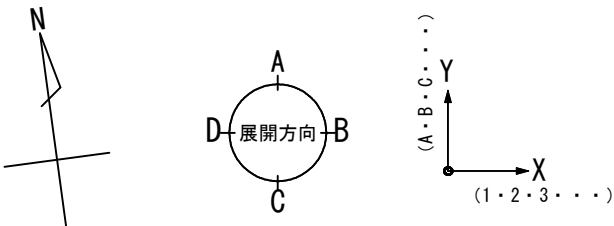


門前町立武道館 1階 柱調査							
柱記号	柱状況 (○は正常)	X方向			Y方向		
		倒れ 測定H 1000mm	X/1000	1/X	倒れ 測定H 1000mm	Y/1000	1/Y
1-A	○	-1 1000mm	-1	-1	0 1000mm	0	0
1-G	○	0 1000mm	0	0	0 1000mm	0	0
6-B	○	0 1000mm	0	0	+2 1000mm	+2	+1 500
6-G	○	0 1000mm	0	0	0 1000mm	0	0

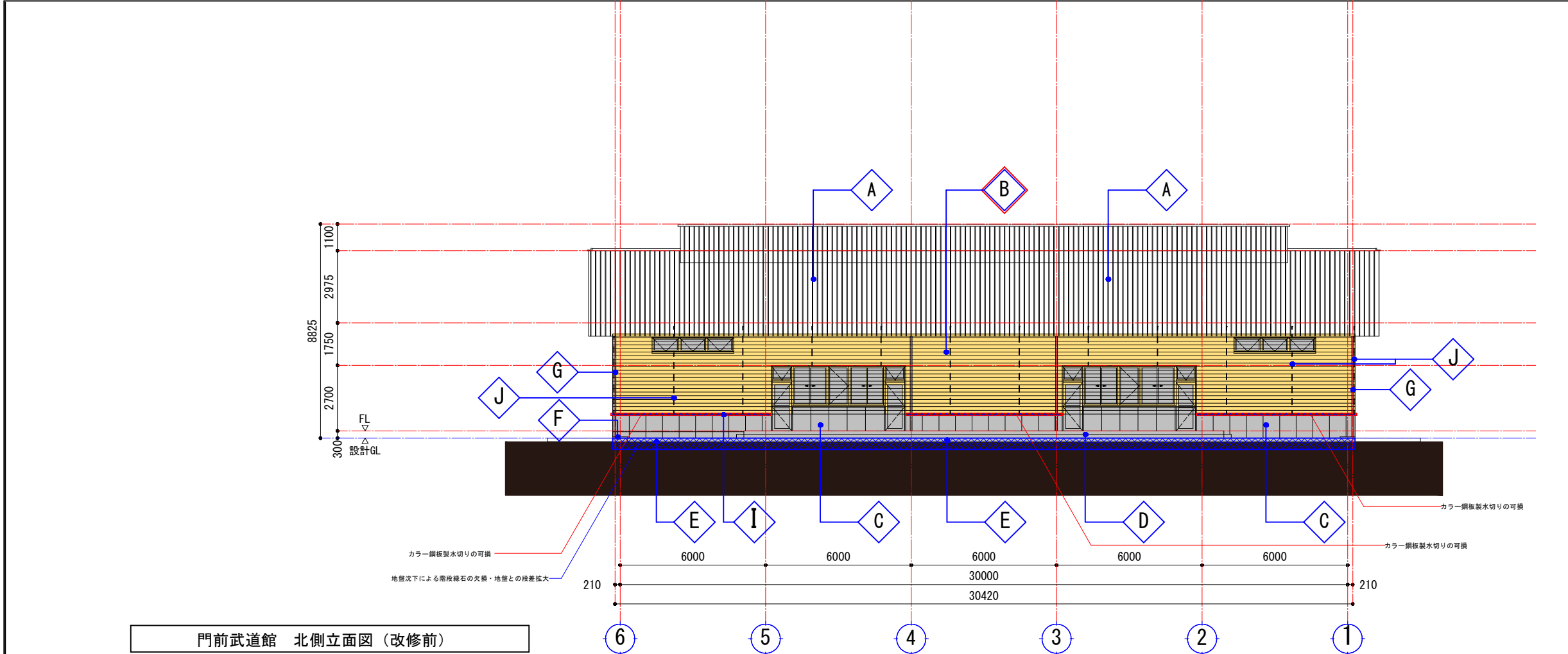
※柱の倒れ測定は、外壁4隅で計測した。



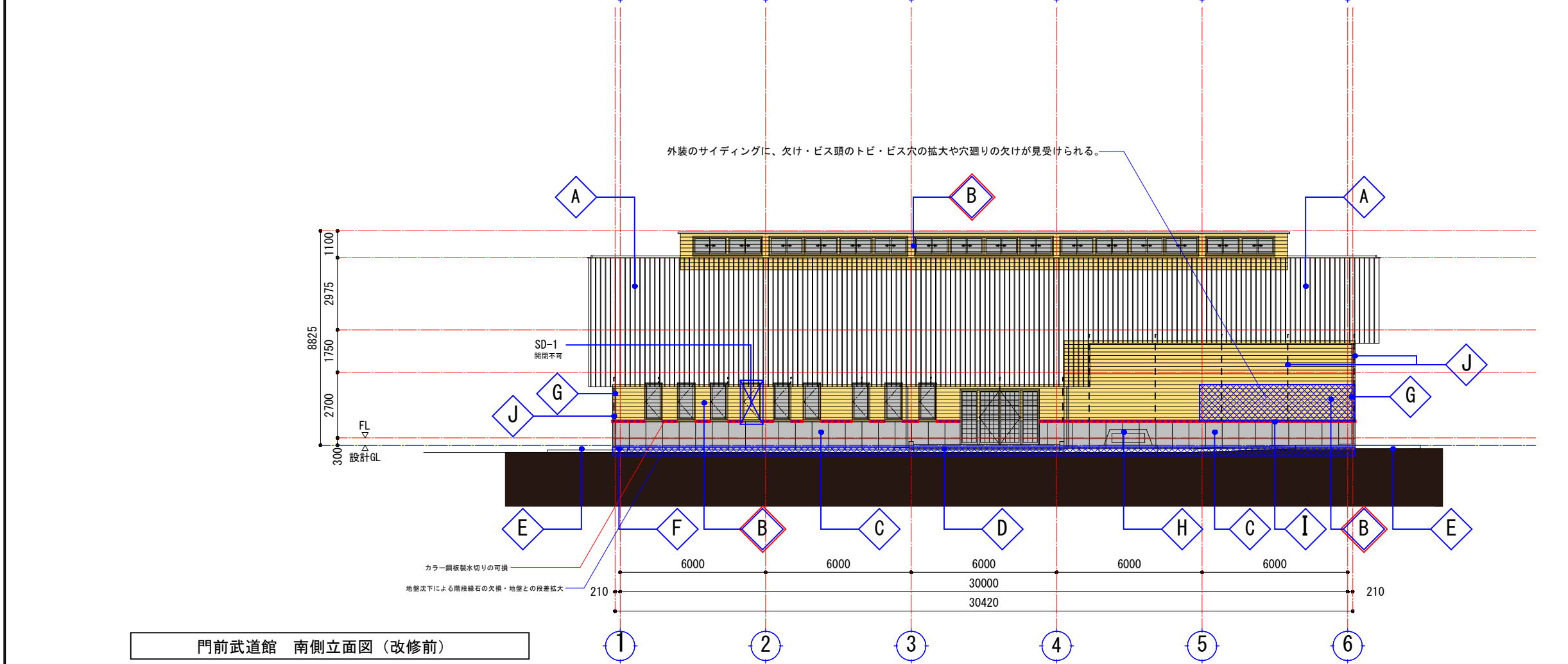
- 凡例
- クラック
 - 欠け・剥落 (現調時の目視スケッチに依る)
 - 開閉が出来ない建具 (歪みもしくはオペレーターの損傷が原因)
 - 破損箇所
- 当初設計レベル (1FL: 玄関を±0、1FL=設計GL+300mm)
- 被災後レベル (被災後KPからの相対レベル/mm)
- 被災前後のレベル差 (被災後KPからの相対レベル/mm)



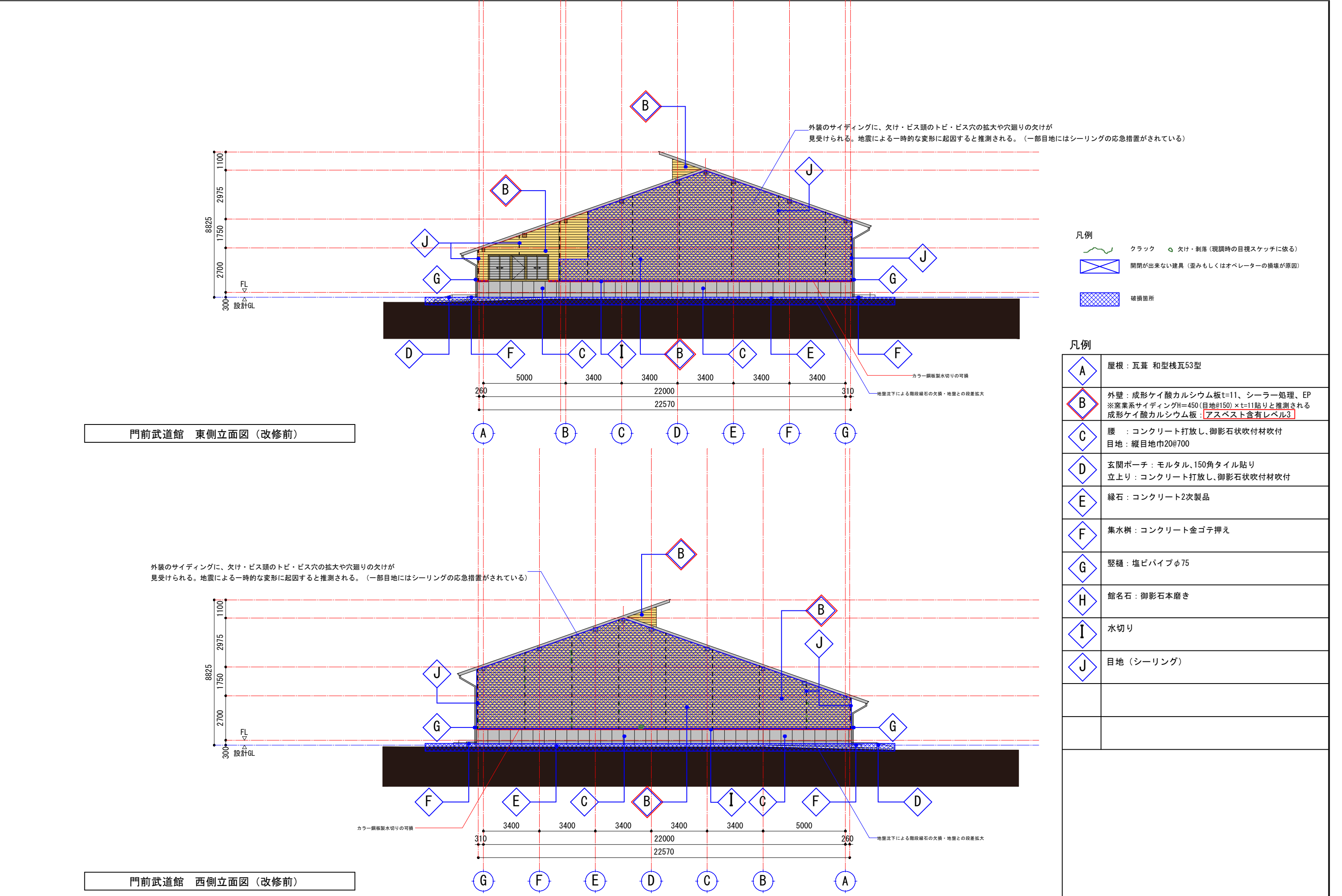
門前武道館 平面図 (改修前)



凡例	
	クラック
	欠け・剥落（現調時の目視スケッチに依る）
	開閉が出来ない建具（歪みもしくはオペレーターの損壊が原因）
	破損箇所

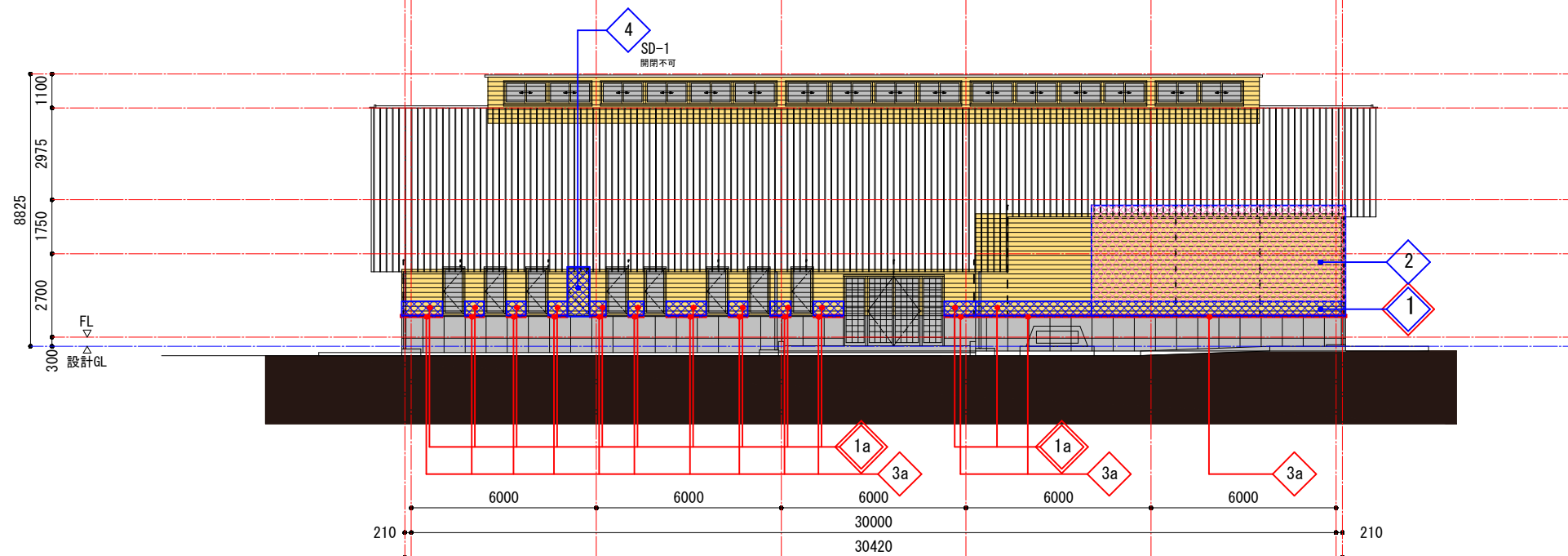
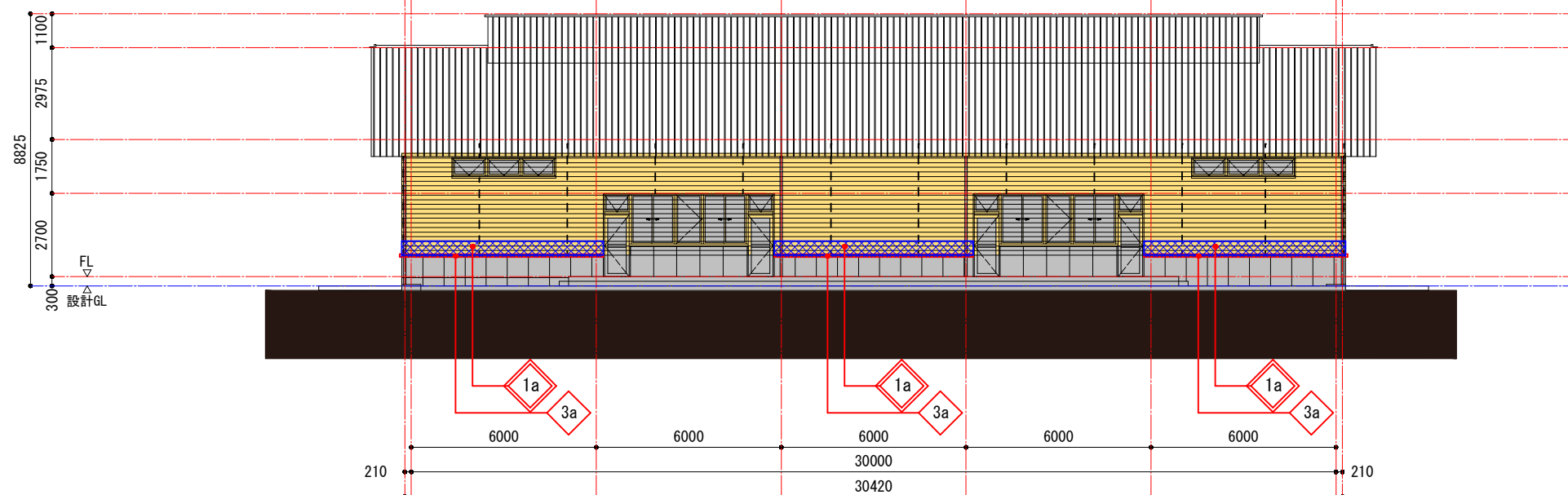


凡例	
A	屋根：瓦葺 和型棧瓦53型
B	外壁：成形ケイ酸カルシウム板t=1、シーラー処理、EP ※窯業系サイディングH=450（目地@150）×t=1貼りと推測される成形ケイ酸カルシウム板： <u>アスベスト含有レベル3</u>
C	腰：コンクリート打放し、御影石状吹付材吹付 目地：縦目地巾20@700
D	玄関ポーチ：モルタル、150角タイル貼り 立上り：コンクリート打放し、御影石状吹付材吹付
E	縁石：コンクリート2次製品
F	集水枳：コンクリート金ゴテ押え
G	縦樋：塩ビパイプφ75
H	館名石：御影石本磨き
I	水切り
J	目地（シーリング）



クラック 欠け・剥落 (現調時の目視スケッチに依る)

撤去箇所

[illegible]

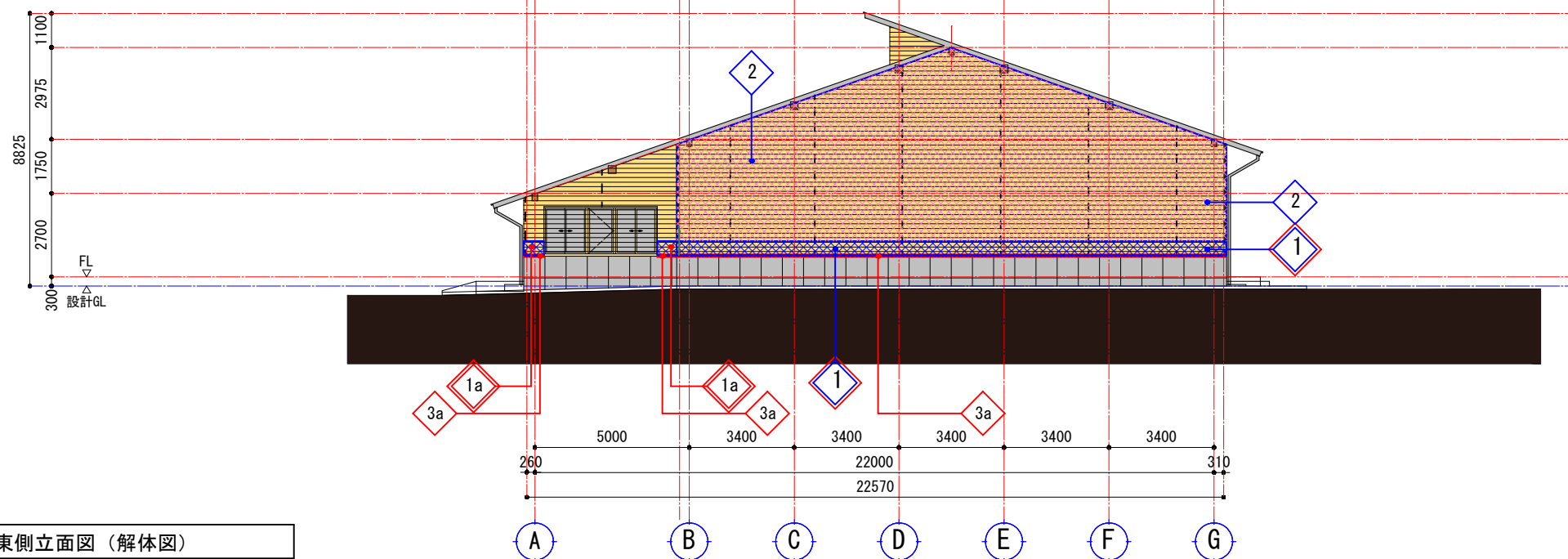
凡例



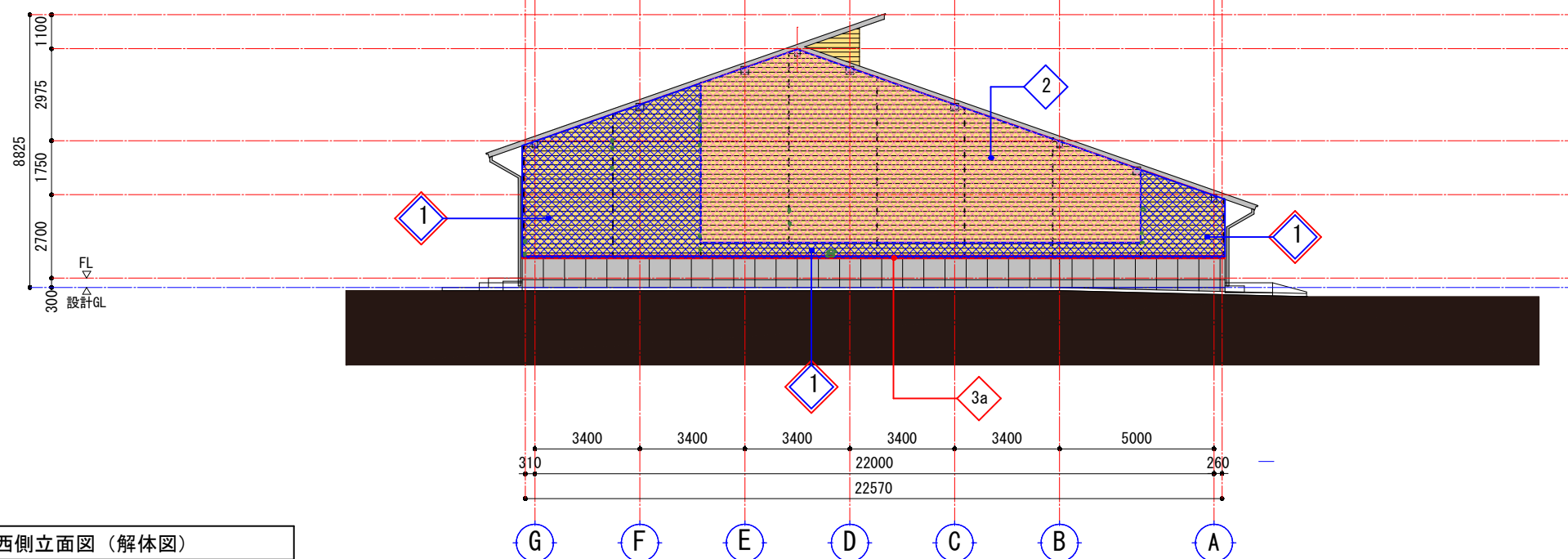
クラック 欠け・剥落（現調時の目視スケッチに依る）



撤去箇所



門前武道館 東側立面図（解体図）



門前武道館 西側立面図（解体図）

[illegible]

株式会社 **MAC** 建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE
2025. 09

■担当/CHECK
D. SATO

■ 製図/DRAWER
D. SATO

■特記事項

■ 工事名称/CONSTRUCTION-TITLE


輪島市門前総合運動公園災害復旧工事（門前武道館）


■ 図面名称/DRAWING-TITLE

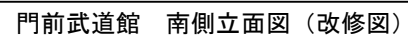
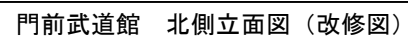
門前武道館 立面図2 (解体図)


■縮尺/SCALE
1/100 (A1)
1/200 (A3)

■図番/No.
A-46

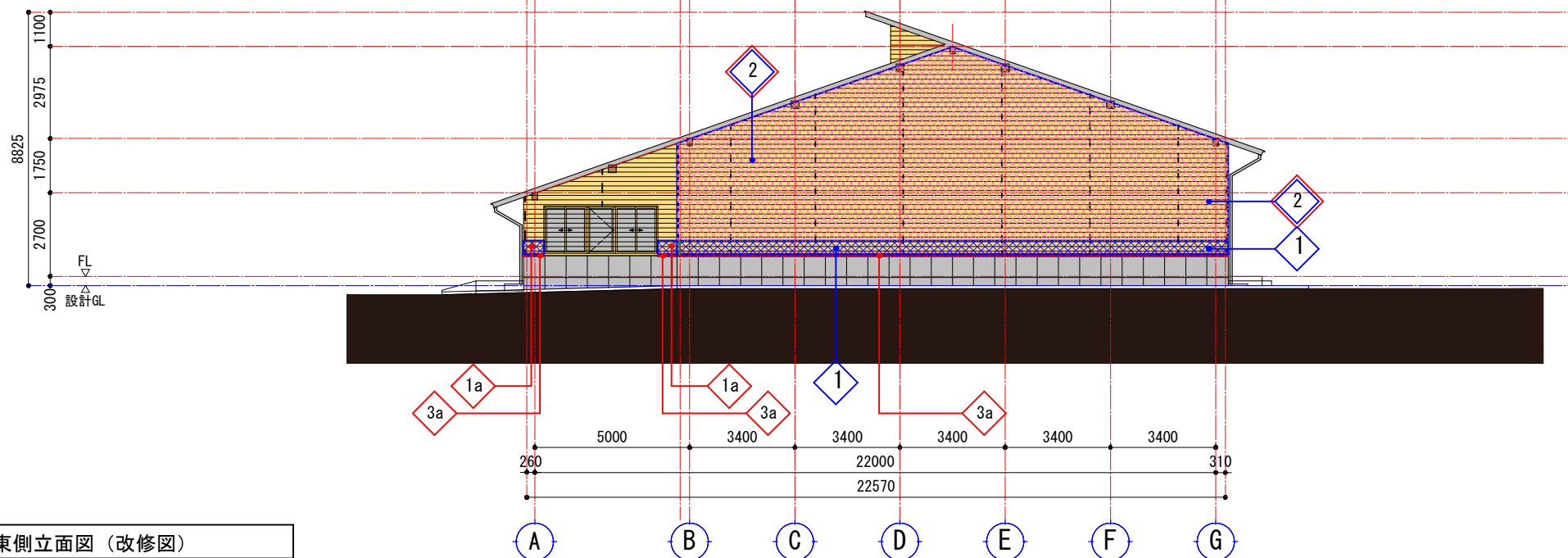
クラック  欠け・剥落（現調時の目視スケッチに依る）

改修箇所  ※外装用複合塗材Eは必ず肌程度とし、既存部分と色合わせを行うこと

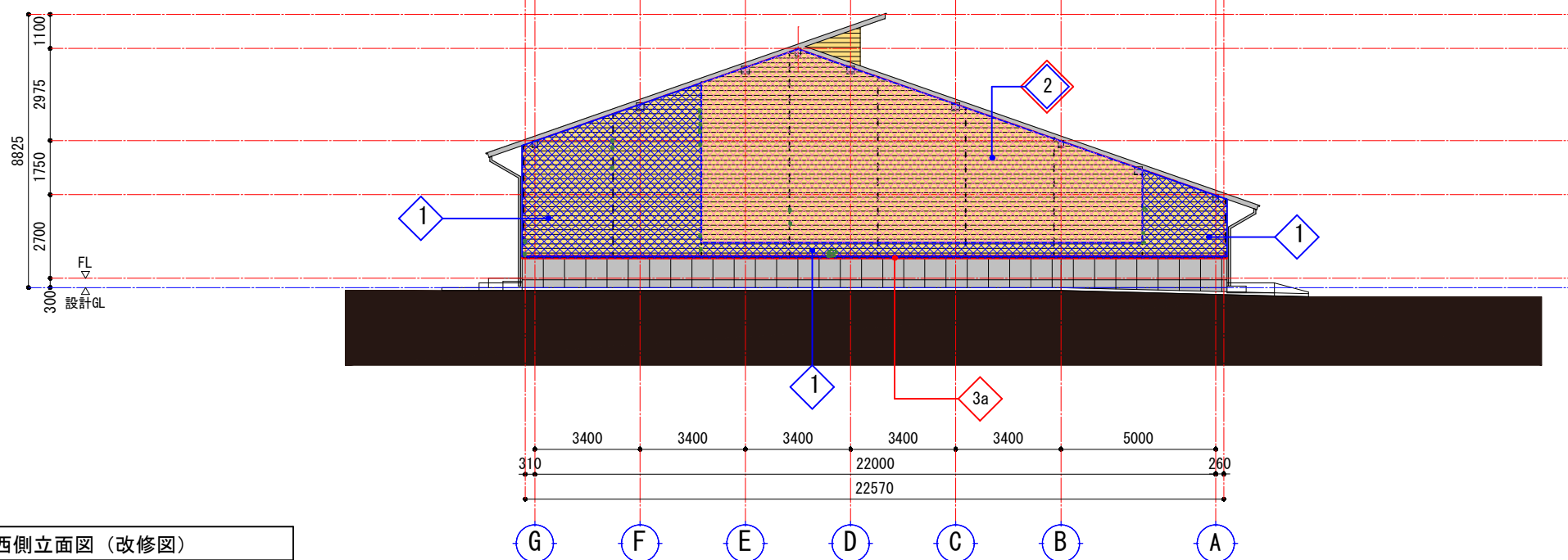
[illegible]

クラック  欠け・剥落 (現調時の目視スケッチに依る)

改修箇所 ※外装用複合塗材Eはゆず肌程度とし、既存部分と色合わせを行うこと



門前武道館 東側立面図（改修図）



門前武道館 西側立面図（改修図）

[illegible]

株式会社 **MAC** 建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE
2025.09

■担当/CHECK
D. SATO

■製図/DRAWER
D. SATO

■特記事項

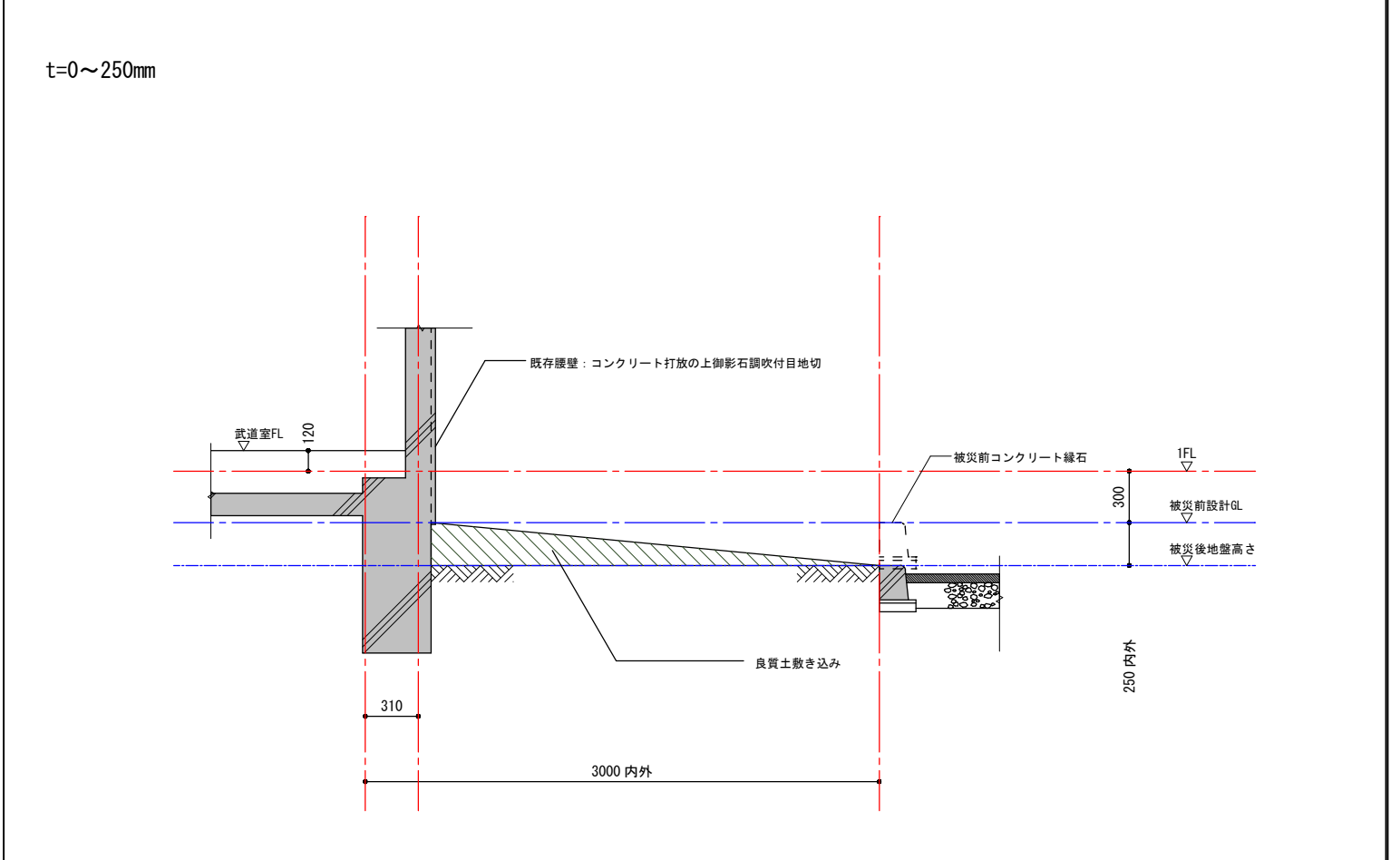
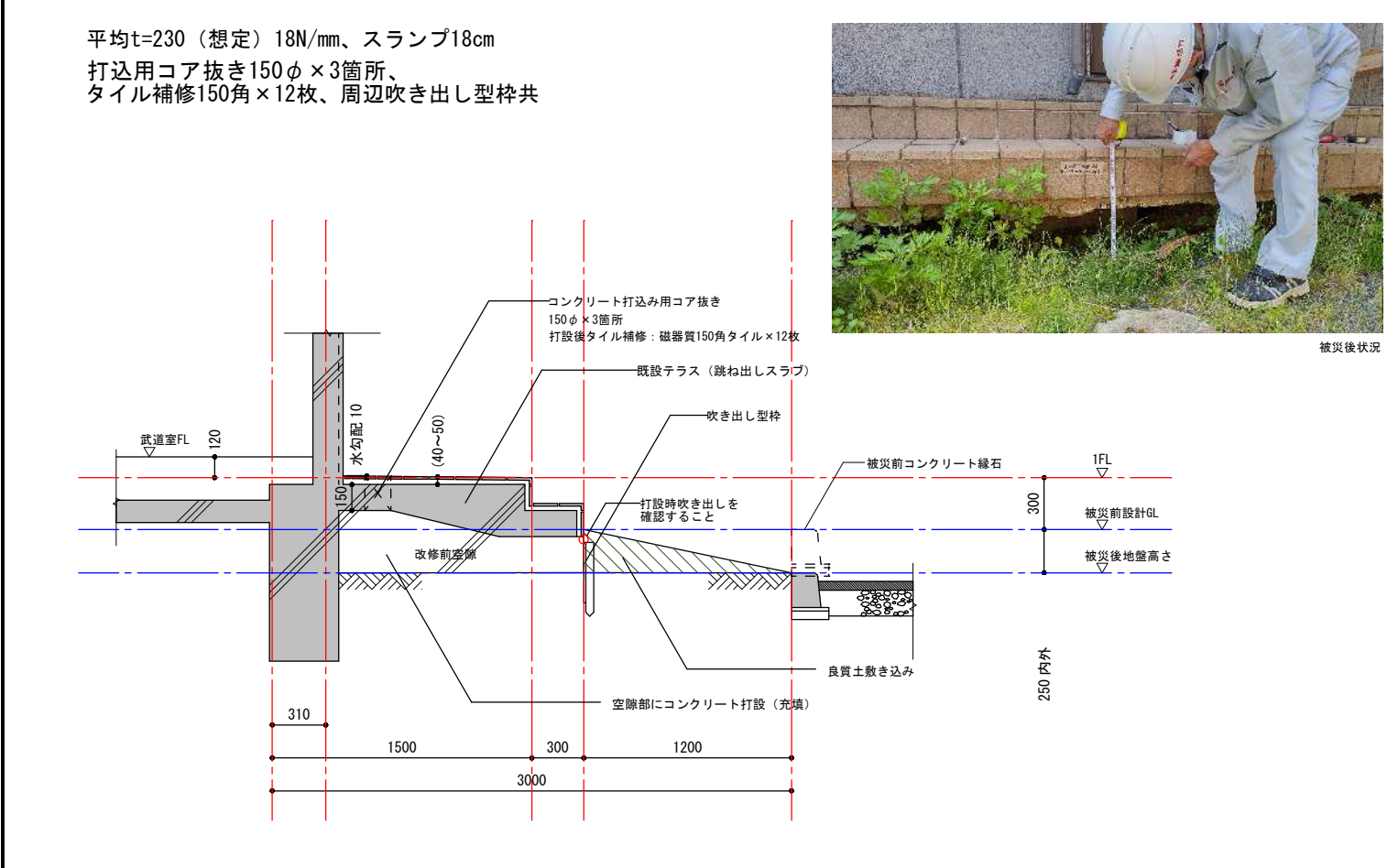
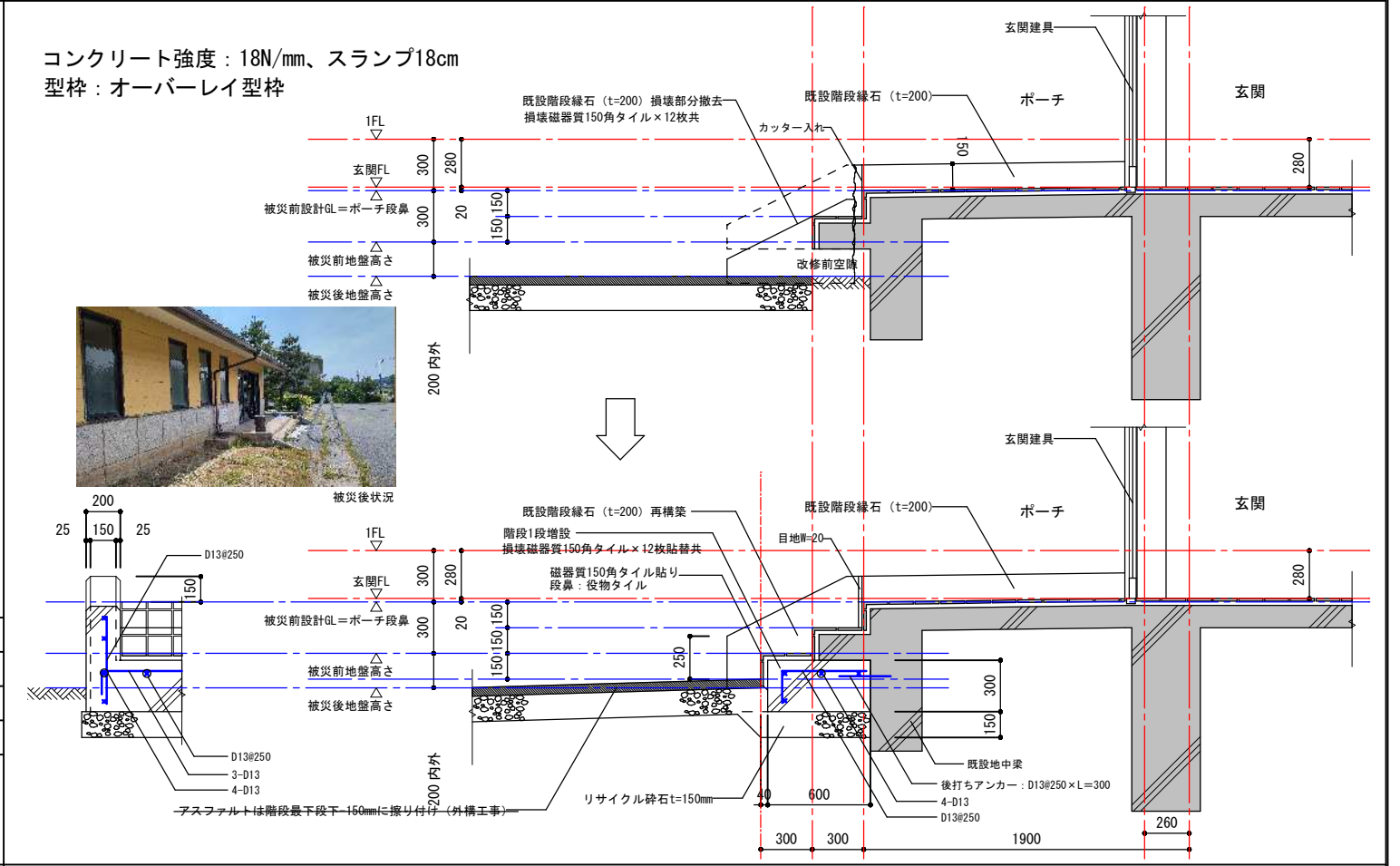
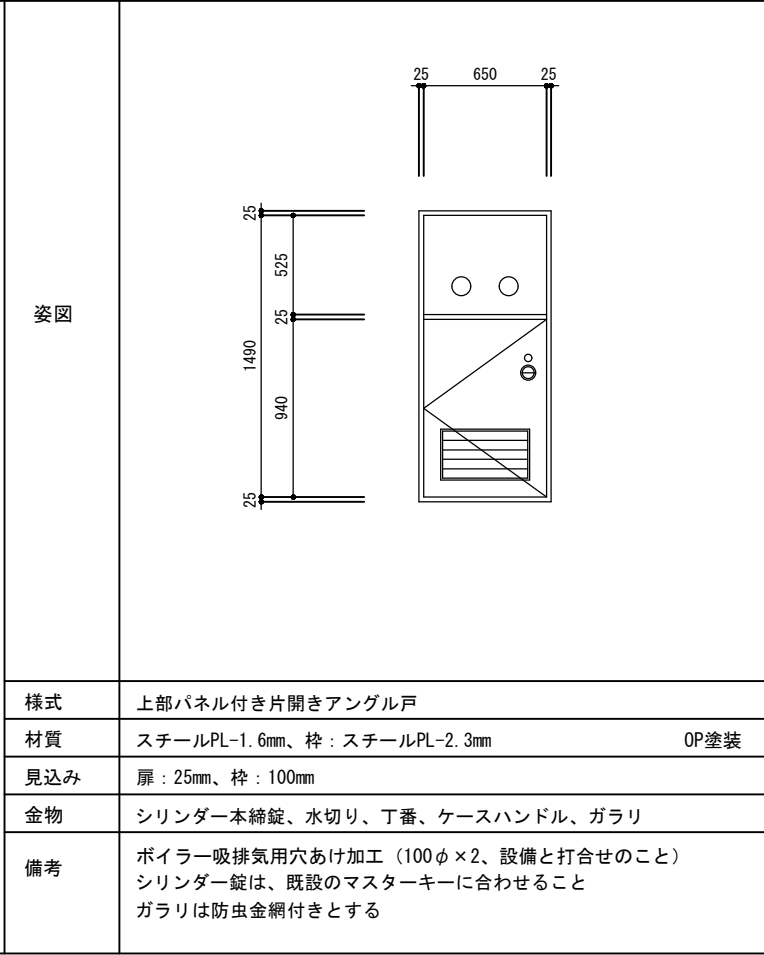
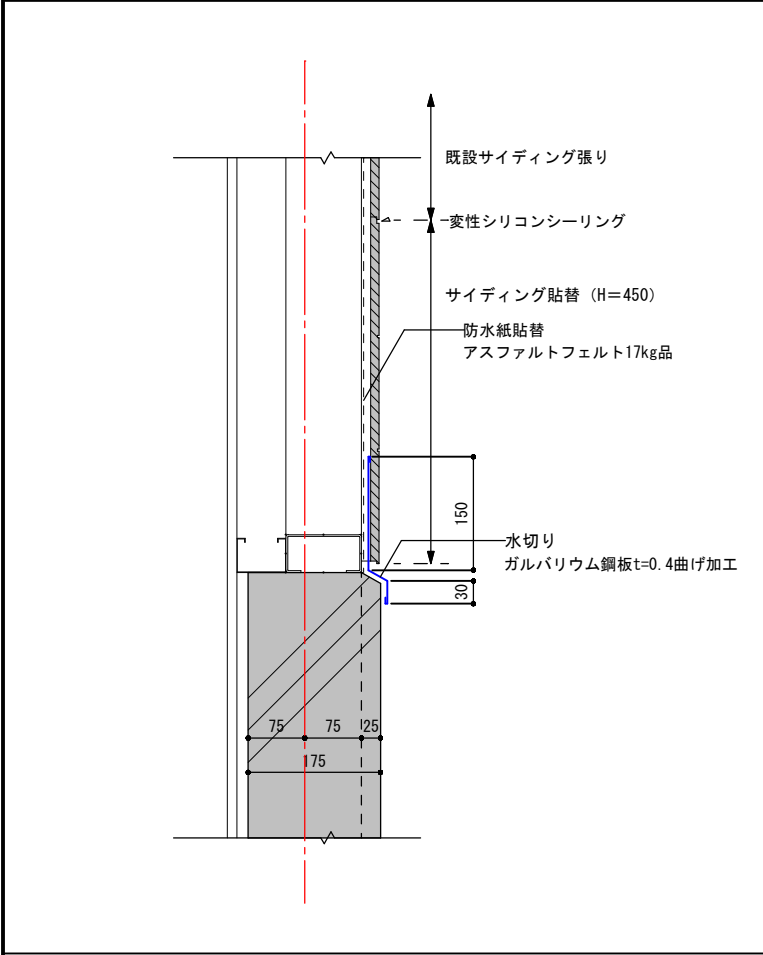
■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE
輪島市門前総合運動公園災害復旧工事（門前武道館）

■図面名称/DRAWING-TITLE

門前武道館 立面図 2 (改修図)

■縮尺/SCALE
1/100 (A1)
1/200 (A3)

■図番/No. A-49



工 事 仕 様 書 (電気設備)

I. 工事概要

1. 工 事 名 称 門前地区体育施設災害復旧工事

2. 工事場所 輪島市門前町清水地内

3. 完 成 期 日 令和 年 月 日 (余裕期間制度試行工事適用の場合は、左記を完成日の期限とする。)
 指定部分 ・ 無 ・ 有 (指定期日: 令和 年 月 日) 対象部分 ()
 概成工期 ・ 無 ・ 有 (令和 年 月 日) (1.2.1(6))

4. 建物概要

建築物名稱	構造	階數	延面積 (㎡)	消防令別表第一	備考
多目的體育館	S造	階建(地階 1階 塔屋 階)	約900	1 5項	
門前武道館	S造	階建(地階 1階 塔屋 階)	約650	1 5項	
門前テニスコート照明塔			約3,700		
門前野球場照明塔			約12,000		別途工事
健民體育館					別途工事

- ## 5. 別契約の関連工事

- ・ 建築工事 ・ 電気設備工事 ・ 給排水衛生設備工事 ・ 空調調和設備工事 ・ 構内交換設備工事
・ 昇降機設備工事 ・ 自家発電設備工事 ・ 厨房機器設備工事 ・ 屋外付帯工事 ・ 植栽工事
・ ・ ・ ・ ・

6. 工事内容

- I. 工事仕様

- ## 1. 一般仕様

- 1) 図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）令和4年版」（以下、「標準仕様書」という。）及び「公共建築設備工事標準図（電気設備工事編）令和4年版」（以下、「標準図」という。）及び「公共建築設備工事標準仕様書（電気設備工事編）令和4年版」（以下「改修標準仕様書」という。）による。
- 2) 機械設備工事及び建築工事を本工事に含む場合は、機械設備工事及び建築工事はそれぞれの標準仕様書・改修標準仕様書を適用する。

- ## 2. 特記仕様


章は●印のものを、特記事項で選択する項目は・印に○印の付いたものを適用する。

- 印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
○印と※印の付いた場合は、共に適用する。

章	項 目	特 記 事 項
● 一 般 共 通 事 項	① 工事実績情報	請負金額 5, 0 0 0 千円以上の工事は工事実績情報登録を行う。 (1. 1. 4)
	② 施工体制台帳の作成等	下請負に付する場合は、施工体制台帳を作成し、現場に備え付ける。また、施工体系図を工事関係者及び公衆が見やすい場所に掲げる。 (1. 1. 5 (3))
	3 他工事との取り合い	スリーブ、箱入れなど他工事との取り合いは、別表 ー 1 によるものとし、施工に支障をきたさない時期までに、必要な位置、大きさ等を明示し、監督員と打ち合せる。 (1. 1. 7)
	④ 工事の記録等	工事総合進捗表、工事日誌、工事出報告書、打合せ記録、工事箇所図及び現況写真等を記載した工事報告書を毎月 1 5 日及び月末ごとに提出する。 (1. 2. 4)
	⑤ 施工条件	・ 新築工事 ○ 改修工事 (・ 執務並行改修 ○ 全館無人改修) (1. 3. 3) ・ 工事用車両の駐車場所等は図示による。 (改1. 3. 3) ・ ・ ・
	⑥ 発生材の処理等	・ 引渡しを要するもの (・) (1. 3. 9 (2)) ・ 特別管理産業廃棄物 (◎) P C B 使用機器 ・ 廃石綿 ・) ・ 現場で再利用を図るもの (・) ・ 再資源化を図るもの (◎) 蛍光灯 ・ コンクリート ・ アスファルト ・ 木材 ・)
	⑦ 再使用機材	◎ 取外し後再使用するものは図示による。 (改1. 4. 3)

章	項 目	特 記 事 項														
●	8 事前調査	ＰＣＢ含有分析調査を ・ 行う（図示 箇所） ・ 行わない（改1.5.2） 石綿含有分析調査を ・ 行う（図示 箇所） ・ 行わない														
	9 養生	1) 既存部分の養生範囲は、図示による。（改1.7.1） 2) 養生の方法及び固定された備品・ロッカー等の移動は、図示による。（改1.7.2）														
	10 撤去等	1) 回収を要する機器及び配管の内容物 ・ 燃料 ・ （改1.8.1） 2) 機器の撤去跡の壁面等の補修は、図示による。（改1.8.6）														
	11 環境への配慮	1) 「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」（グリーン購入法）に規定される特定調達品「公共工事」等は下記による。また、判断基準を満たすことを確認する。（1.4.1(1)） ・ 照明制御システム ・ 変圧器 ・ 下塗用塗料（重防食） ・ 2) 本工事の建物屋内で使用する揮発性有機化合物を放散する建築材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、次のとおりとする。（1.4.1(2)） ① JIS又はJASのF☆☆☆☆規格品 ② 建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③ 下記表示のあるJAS規格品 a. 非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b. 接着剤等不使用 c. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d. ホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 e. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 f. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用														
一	⑫ 機材の品質等	1) 本工事に使用する機材等は、設計図書に定める品質及び性能を有する新品とする。（1.4.2(1)） ただし、仮設に使用する機材は、新品に限らない。 2) 下表に示す機材等の製造者等は次の①から⑥までの事項を満たすものとし、この証明となる資料又は外部機関が発行する評価の書面を提出して、監督員の承諾を受ける。ただし、製造者等が「建築材料・設備機材等品質性能評価事業 設備機材等評価名簿（最新年版）」（（一社）公共建築協会）等に記載されているものは、証明となる資料等の提出を省略することができる。 ①品質及び性能に関する試験データが整備されていること。 ②生産施設及び品質の管理が適切に行われていること。 ③安定的な供給が可能であること。 ④法令等で定める許可、認可、認定又は免許等を取得していること。 ⑤製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。 ⑥販売、保守等の営業体制が整えられていること。														
般		<table><tr><th colspan="2">機 材 名 称</th></tr><tr><td>ＬＥＤ照明器具（一般屋内用に限る）</td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr></table>	機 材 名 称		ＬＥＤ照明器具（一般屋内用に限る）											
機 材 名 称																
ＬＥＤ照明器具（一般屋内用に限る）																
共																
通	⑬ 工事の創意工夫等	受注者は、工事施工において、自ら立案実施した創意工夫や工事特性に関する項目、又は地域社会への貢献として評価できる項目に関する事項について、工事完了時までに所定の様式により提出することができる。（1.5.6）														
	14 化学物質の濃度測定	建築物の室内空気中の濃度測定を ・ 行う ・ 行わない（1.5.7） 測定時期、測定対象化学物質、測定方法、測定対象室、測定箇所数等は図示による。														
	15 中間検査	中間検査の実施 ・ 無 ・ 有（時期 ・ 天井地下完了時 ・ ）（1.6.2）														
事	⑭ 完成図	原図及び製本（等倍 1 部、Ａ３縮小 2 部）提出する。（1.7.2）														
	17 保全に関する資料	保全に関する資料は次のとおり、 2 部提出する。（1.7.3） ①建築物等の利用に関する説明書※ ②機器取扱説明書（主要機器一覧表とも） ③機器性能試験成績書（総合試運転報告書とも） ④官公署届出書類 ※「建築物等の利用に関する説明書」作成の手引き 手引きのダウンロード http://www.mlit.go.jp/gobuild/kijun_kentikubuturiyou_tebiki.htm														
	18 足場類	内部及び外部足場の種別は、図示による。防護シート等の養生は図示による。（改2.2.2）														
項	19 仮設間仕切・扉	設置箇所、種別及び塗装仕上げは、図示による。（改2.2.3）														
	20 仮設備	仮設備を ・ 設ける（図示による） ・ 設けない（改2.14.1）														
	⑮ 工事用電力等	○ 既存施設に電力量計等を設けて使用できる（有償） ・ 発電機又は北陸電力引込み等（改2.2.4）														
	22 監督員事務所等	1) 監督員事務所を ※ 設けない ・ 設ける[・ 1号（10㎡程度） ・ 2号（20㎡程度）] 2) 監督員事務所に設ける備品等（2.1.1(4)） ・ 保護帽 ・ 墜落制止用器具 ・ 長靴 ・ 合羽 ・ 机 ・ 椅子 ・ 懐中電灯 ・ 書棚 ・ 黒板 ・ 寒暖計 ・ 3) 設計図を工事監理用に製本（等倍 1 部、Ａ３縮小 2 部）し、監督員事務所等に置く。														


章	項 目	特 記 事 項
● <		

工事名	門前地区体育施設災害復旧工事	番号	E - 01
図面名	工事仕様書（電気設備）	3 枚組	縮尺
設 計	 株式会社MA C 建築研究所 管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健		

章	項 目	特 記 事 項																																																			
●	③⑤ 耐震施工	次に示す事項を除き、すべて独立行政法人建築研究所監修の「建築設備耐震設計・施工指針 2 0 1 4 年版」による。 (2-2. 1. 13(2)～(4)) 1) 機器の設計用標準水平震度及び耐震クラスは図示による。図示がなければ次による。 <table><tr><td rowspan="3">設置場所</td><td colspan="2">耐震安全性の分類（重要機器、一般機器共通）</td></tr><tr><td>特定の施設</td><td>一般の施設</td></tr><tr><td>・ 耐震クラス S</td><td>・ 耐震クラス A</td></tr><tr><td>上層階、屋上及び塔屋</td><td>2. 0</td><td>1. 5 < 2. 0 ></td></tr><tr><td>中間階</td><td>1. 5</td><td>1. 0 < 1. 5 ></td></tr><tr><td>一階及び地下階</td><td>1. 0（1. 5）</td><td>1. 0</td></tr></table> 注1 設置場所の区分は、機器等を支持する床部分により適用し、天井面（上階床）より支持する機器等は直上階を適用する。 注2 上層階は、2～6階建の場合は最上階、7～9階建の場合は上層2階、10～12階建の場合は上層3階、13階建以上の場合は上層4階とする。 注3（ ）内の値は水槽類（受水槽、高置水槽、消火関係水槽、オイルタンク等）、< >内の値は防振支持の機器（防振材・防振装置を介して設置される機器）に適用する。 2) 地域係数は 1. 0 とする。 3) 設計用鉛直地震力は、設計用水平地震力の 1／2 とし水平地震力と同時に働くものとする。 4) 1 k N 以下の軽微な機器（標準仕様書の適用を受けるものは除く）においても耐震を考慮し据付け又は取付けを行うものとするが、前記指針の方法によらなくてもよい。	設置場所	耐震安全性の分類（重要機器、一般機器共通）		特定の施設	一般の施設	・ 耐震クラス S	・ 耐震クラス A	上層階、屋上及び塔屋	2. 0	1. 5 < 2. 0 >	中間階	1. 5	1. 0 < 1. 5 >	一階及び地下階	1. 0（1. 5）	1. 0																																			
	設置場所	耐震安全性の分類（重要機器、一般機器共通）																																																			
		特定の施設		一般の施設																																																	
		・ 耐震クラス S	・ 耐震クラス A																																																		
上層階、屋上及び塔屋	2. 0	1. 5 < 2. 0 >																																																			
中間階	1. 5	1. 0 < 1. 5 >																																																			
一階及び地下階	1. 0（1. 5）	1. 0																																																			
36 電気工事士	500kW以上の自家用電気工作物においては第一種電気工事士により施工を行うように努める。																																																				
③⑦ 電線本数・管路等	分電盤、制御盤、端子盤等の二次側以降の配線経路、電線太さ、電線本数、管径等は機能を優先し、図面と多少相違しても差し支えない。ただし、相違する場合は監督員の承諾を受ける。また、機械室の露出配線は、金属管にて施工し、全長にわたって接地線を設ける。																																																				
③⑧ 名札の義務	請負金額 1 0、 0 0 0 千円以上の元請工事の現場代理人及び主任（監理）技術者は顔写真付き名札を常時着用する。下記の寸法等は、参考であり、社員証等に替えることができる。 <table><tr><td>55mm</td><td>17mm</td><td>10mm</td><td>10mm</td><td>2mm</td><td>13mm</td><td>42mm</td><td>2mm</td><td>30mm</td><td>2mm</td><td>91mm</td><td>40mm</td><td>20mm</td></tr><tr><td colspan="12">○建設社員証</td><td>（顔写真）</td></tr><tr><td colspan="4">氏名 △ △ 太 郎</td><td colspan="4">（顔写真）</td><td colspan="4">カラー写真貼 付</td><td></td></tr><tr><td colspan="4">発行日 令和 年 月 日</td><td colspan="4">代表者 □口建一</td><td colspan="4">代表印</td><td></td></tr></table>	55mm	17mm	10mm	10mm	2mm	13mm	42mm	2mm	30mm	2mm	91mm	40mm	20mm	○建設社員証												（顔写真）	氏名 △ △ 太 郎				（顔写真）				カラー写真貼 付					発行日 令和 年 月 日				代表者 □口建一				代表印				
55mm	17mm	10mm	10mm	2mm	13mm	42mm	2mm	30mm	2mm	91mm	40mm	20mm																																									
○建設社員証												（顔写真）																																									
氏名 △ △ 太 郎				（顔写真）				カラー写真貼 付																																													
発行日 令和 年 月 日				代表者 □口建一				代表印																																													
共	③⑨ 退職金共済制度	受注者は建設業退職金共済制度に加入し、本工事の掛金収納書を工事請負契約締結後 1 ヶ月以内に監督員を通じて発注者に提出する。また、現場事務所に適用標識（シール）を掲示する。																																																			
	④⑩ 過積載等の防止	1)積載重量制限を超えて土砂等を積み込まず、また積み込ませない。 2)さし枠装着車、不表示車等に土砂等を積み込まず、また積み込ませない。 3)過積載車両、さし枠装着車、不表示車等から土砂等の引き渡しを受ける等、過積載を助長しないようにする。 4)取引関係のあるダンパー事業車が過積載を行い、又はさし枠装着車、不表示車等を土砂等運搬に使用している場合は、早急に不正状態を解消する措置を講ずる。 5)建設発生土の処理及び資材の購入に当たって、下請事業者及び骨材納入業者の利益を不当に害することのないようにする。 6)「土砂等を運搬する大型自動車による交通事故の防止等に関する特別措置法」（昭和42年8月2日法律第131号。以下「法」という。）の目的に鑑み、法第12条に規定する団体等の設立状況を踏まえ、同団体等への加入者の使用を促進する。 7) 1)から6)につき、元請建設業者は下請建設業者を十分指導する。																																																			
	41 景観への配慮	本工事は、石川県公共事業景観形成ガイドラインに基づく下記の事業であり、景観に配慮した施工に努める。 ・ 重点事業 ・ 一般事業																																																			
	④② 総合評価方式における技術提案	「石川県建設工事総合評価方式試行要領」に基づく、「技術提案」がある場合は、提案内容を本工事において確実に履行し、「技術提案履行状況報告書」を監督員に提出の上、履行状況の確認を受ける。履行にあたり疑義が生じた場合は、速やかに監督員と協議する。																																																			
④③ 電子納品	※ 行う（「電子納品仕様書」による。） ・ 行わない 電子納品仕様書 1 電子納品とは、出来形管理資料や工事写真等の工事完成図書を電子データで納品するものである。 ここでいう電子データとは、下表に示す各種電子納品要領等で定めるフォーマットに基づいて作成されたものを指す。 <table><tr><td>名 称</td></tr><tr><td>営繕工事電子納品要領（令和3年改定）</td></tr><tr><td>官庁営繕事業に係る電子納品運用ガイドライン【営繕工事編】（令和4年改定）</td></tr></table> 基準・要領類のダウンロード http://www.mlit.go.jp/gobuild/gobuild_tk2_000017.html 2 工事関係書類の最終成果品を、従来の紙での納品と別にＣＤ－Ｒ、ＤＶＤ－Ｒ又はＢＤ－Ｒで1部納品する。 3 工事着手時には、事前協議チェックシートを用いて事前協議を行うものとする。 工事関係書類の内、電子データで提出するものは、事前協議にて決定する。	名 称	営繕工事電子納品要領（令和3年改定）	官庁営繕事業に係る電子納品運用ガイドライン【営繕工事編】（令和4年改定）																																																	
名 称																																																					
営繕工事電子納品要領（令和3年改定）																																																					
官庁営繕事業に係る電子納品運用ガイドライン【営繕工事編】（令和4年改定）																																																					
項																																																					


章	項 目	特 記 事 項
●	④4 公共事業労務費調査の協力	受注者は、当該工事が発注者の実施する公共事業労務費調査の対象工事となった場合には、次の各号に掲げる協力をしなければならない。工期経過後においても同様とする。 ① 調査票等に必要事項を正確に記入し、発注者に提出する等必要な協力をする。 ② 調査票等を提出した事業所が、事後に発注者が行う調査・指導の対象になった場合には、その実施に協力する。 ③ 正確な調査票等の提出が行えるよう、労働基準法等に従い就業規則を作成すると共に賃金台帳を調整・保存する等、日頃より使用している現場労働者の賃金時間管理を適切に行う。 ④ 下請負に付する場合には、当該下請工事受注者（当該下請工事の一部に係る二次以降の下請負人を含む）が前各号と同様の義務を負う旨を定める。
	④5 事故の補償	受注者は、雇用者等の業務に関して生じた負傷、疾病、死亡及びその他の事故に対して責任をもって適正な補償をしなければならない。（法定外の労災保険を含む）
	1 照明用ボール	内蔵する開閉器 ※ なし（取付板のみ） ・ 配線用遮断器 ・ カットアウトスイッチ (1. 4. 2(14))
	○ 2 分電盤等	1) キャビネット材質、仕上げ ・ 鋼板製指定色塗装 ・ 鋼板製溶融亜鉛めっき (1. 7. 3) ・ ステンレス鋼板製指定色塗装 ・ (1. 7. 6) 2) 電力量計 ・ 検定付 ・ 無検定
電力設備	3 電気自動車用充電装置	・ 急速充電装置 ・ 普通充電装置（定格電圧 ・ 100V ・ 200V） (1. 14. 1)
	4 電線の接続	・ 高圧ケーブルの末端処理を行う場合は、被覆の伸縮対策を施す。 (2. 1. 1)
	5 配管引込部	地盤変位への対応 ※ 小規模 ・ 中規模 ・ 大規模 (2. 1. 13(5))
	6 導入線	長さ1 m以上の通線しない配管には 1. 2mm以上の樹脂被覆鉄線を挿入する。 (2. 2. 9(3))
	7 管の埋設深さ	埋設深さは原則として、構内道路、高圧ケーブル、幹線ケーブルは（・ 60cm ・ cm）、その他は（・ 30cm ・ cm）とする。 (2. 12. 2)
	8 標識シート等	1) 地中配線に標識シート（倍折）を敷設する。 (2. 12. 4) 2) 埋設標（・ コンクリート製 ・ 樹脂製 ・ 鉄製）・ 要（図示箇所） ・ 不要 (2. 12. 5)
	9 雷保護接地極	・ 板状 ・ 垂直 ・ 水平 ・ 環状 ・ 網状 ・ 構造体利用 (2. 17. 4)
	10 施工の試験	1) 構造体利用等の接地極における接地抵抗測定の時期及び回数（ ） (2. 18. 2) 2) 一般照明の照度測定を ・ 行う（改修は対象室の改修前後） ・ 行わない (改2. 1. 1)
○	受変電設備	1) キャビネット材質、仕上げ及び電力量計は、電力設備の分電盤等による。 (1. 1. 3) (1. 1. 5) 2) 温度上昇性能試験を ・ 行う ※ 行わない (1. 9. 1)
	2 交流遮断器	操作方式 ・ 手動ばね操作方式 ・ 電気操作方式 (1. 1. 6(1))
	3 高圧進相コンデンサ等	1) 進相コンデンサ絶縁方式 ・ 油入 ・ モールド ・ ガス（S F 6を除く） (1. 1. 6(3)) 2) 直列リアクトル絶縁方式 ・ 油入 ・ モールド (1. 1. 6(4))
	○ 電力貯蔵設備	1 交流無停電電源装置 ・ 常時インバータ給電方式 ・ ラインインタラクティブ方式 ・ 常時商用給電方式 (2. 2. 1) 停電補償時間 分 (2. 2. 7) 2 電力平準化用蓄電装置 1) 機能（電力平準機能、電力補償機能及び放電停止機能）は図示による。 (2. 3. 1(2)) 2) 蓄電池 ※ リチウム二次電池 ・ 鉛蓄電池 (2. 3. 5(1)) 3) 蓄電池の容量、期待寿命、充放電回数及び放電時間は図示による。 (2. 3. 5(2))
○	1 ディーゼル発電装置	運転時間 時間 (1. 1. 1(5))
	2 太陽光発電装置	1) 自立運転を ・ 行う ・ 行わない (1. 7. 1(3)) 2) 太陽電池アレイの公称出力は、図示による。 (1. 7. 2(2))
	3 その他	1) 燃料油の種類及び配管等材料は、図示による。 (1. 1. 7. 1) (1. 1. 8) 2) 系統連系を ・ する ・ しない (1. 4. 1(2))等
	○ 通信・情報設備	1 端子盤等 キャビネット材質及び仕上げは、電力設備の分電盤等による。 (1. 4. 2) 2 機器仕様 詳細機器仕様は、図示による。 (1. 5. 1)等 3 標識シート等 標識シート等は、電力設備の標識シート等による。 (2. 11. 3) (2. 11. 4)
○	4 テレビ共同受信設備	受信調査を ・ 行う（ チャンネル） ・ 行わない (2. 19. 3)
	○ 中央監視制御設備	1 警報盤 信号の伝送方式は、図示による。 (1. 2. 1) 2 記録装置 印字方式は、図示による。 (1. 4. 4)

章	項 目	特 記 事 項						
○ そ の 他	1 接地極	接地極の材料は下記による。なお接地棒EB(14φ)の長さは 1,500mm以上とし、10φは、 W=30 L=900mm以上、14φはW=40 L=1,200mm以上 としてもよい。						
		接 地 の 種 類	記 号	接地抵抗値	接 地 極			
		・ 共同接地	E A E B E C E D	Ω 以下	・ E B (14φ) × 3 連一 組 ・ E P-900 × 1			
		・ 共同接地	E A E C E D	Ω 以下	・ E B (14φ) × 3 連一 組 ・ E P-900 × 1			
		・ A 種	E A	10 Ω 以下	・ E B (14φ) × 3 連一 2 組 ・ E P-900 × 1			
		・ B 種	E B	Ω 以下	・ E B (14φ) × 3 連一 2 組 ・ E P-900 × 1			
		・ C 種	E C	10 Ω 以下	・ E B (14φ) × 3 連一 組 ・ E P-900 × 1			
		・ D 種	E D	100 Ω 以下	E B (10φ) × 1 (L=1,000mm)			
		・ D種 ELCB用	E D E L C B	100 Ω 以下	E B (10φ) × 1 (L=1,000mm)			
		・ 高圧避雷器	E L H	10 Ω 以下	・ E B (14φ) × 3 連一 2 組 ・ E P-900 × 1			
		・ 低圧避雷器	E L L	10 Ω 以下	・ E B (14φ) × 3 連一 2 組 ・ E P-900 × 1			
		・ 雷保護設備	E L	50 Ω 以下	・ E B (14φ) × 2 連一 2 組 ・ E P-600 × 2			
		・ 構造体接地						
		・ 交換機用	E t	Ω 以下	E B (14φ) × 3 連一 組 ・ E B (14φ) × 3 連一 2 組 ・ E P-900 × 1			
		・ 通 信 用	E A t	10 Ω 以下				
		・ 通 信 用	E D t E D a	100 Ω 以下	E B (10φ) × 1 (L=1,000mm)			
		・ 測 定 用	E 0		E B (10φ) × 1 (L=1,000mm)			
	(別表－1) 他工事との取り扱い							
		工 事 内 容			電気	機械	建築	備 考
	開 口 部	はり、床、壁の貫通部 (RC造)	補強筋				●	建築図面に図示
スリーブ、仮枠、穴埋共			●				S造は建築	
埋込形分電盤、端子盤、ブルボックス			補 強 筋 仮 枠	●			●	建築図面に図示
天井、壁ボード類の軽量鉄骨下地補強 (埋込形照明器具用)			下 地 補 強				●	建築図面に図示
			ボ ー ド 類 切 込 み	●				
軽量鉄骨へのボックス取付金具及びその取付			●					
既成間仕切りへの位置ボックス及びその取付						●		
発電機、配電盤及び制御盤等の基礎						●	建築図面に図示	
避雷針、TVアンテナの屋上コンクリート基礎 (自立型の場合)						●	建築図面に図示	
配管ピット及びふた						●		
床、壁、天井の点検口						●	建築図面に図示	
自動扉、電動シャッター、防火ドア等制御盤の一次側配管配線			●				※ 1	
実験台付属コンセント等への配管配線及び配線接続 (直接接続のみ)			●					
機械設備機器付属の制御盤への電源供給の配管配線			●				一次側	
機械設備機器付属の制御盤以降の配管配線 (接地共)				●			二次側	
制御盤と動力盤間の電源供給及び操作回路の渡り配管配線			●					
機械設備機器と付属操作スイッチとの渡り配管配線			●				天吊FCU、換気扇等	
※ 1 二次側配線、配管及びシャッター、防火ドア、自動扉は建築工事								

工事名	門前地区体育施設災害復旧工事	番号	E－02
図面名	工事仕様書（電気設備）	縮尺	2／3
設 計	 株式会社MAC 建築研究所 管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健		

章	項 目	特 記 事 項
●その他	① いしかわ週休 2日工事	工事現場において週休2日に取り組む「いしかわ週休2日工事」（以下、「週休2日工事」という。）の適用については、次のとおりとする。 なお、週休2日の工事の定義（様式）等については、石川県土木部監理課技術管理室HPの「いしかわ週休2日工事 実施要領」を参照すること。 （１）当初設計において、週単位の週休2日にかかる補正係数を乗じている。 （２）受注者は、工事現場に週休2日に取り組むことを記載した工事看板を設置すること。 （３）受注者は、現場着手前に休日取得〔計画〕表を作成し、監督員に提出・共有すること。 （４）受注者は、工程に大幅な変更が生じた場合は休日取得〔計画〕表を修正し、監督員に提出・共有すること。 （５）受注者は、工期最終日までに、休日取得〔実績〕表を記入し、監督員に提出すること。 （６）分離発注工事の場合に、各発注工事単位で、現場事務所での作業を含めて1日を通して現場作業が無い状態も「現場閉所」とみなす。 （７）発注者は、現場閉所の達成状況を確認し、週単位の週休2日に満たない場合は月単位の週休2日（４週8休相当）の補正に減額するものとし、月単位の週休2日（４週8休相当）に満たない場合は、補正分を減額するものとする。 なお、週休2日の確保が確認できなかった場合であっても、工事成績評定で減点評価は行わない。
	2 余裕期間制度 試行工事	1）適用 ・ 対象 ※ 対象外 2）余裕期間制度対象工事の内容 （１）本工事は、円滑な工事施工体制の確保を図るため、全体工期の範囲内で受注者が工事の着手及び完成日を設定することができる工事であり、建設工事に係る余裕期間制度（フレックス方式）試行要領に基づき実施するものとする。 （２）受注者は、契約締結日から着工日の期限までの間で、休日を除く任意の日を着工日として設定することができる。 （３）受注者は、完成日の期限までの間で、休日を除く任意の日を完成日として設定することができる。 （４）工期は受注者が任意で設定した着工及び完成日を記載する。 （５）受注者は、契約時に現場代理人及び主任技術者選任届を発注者に提出しなければならない。 （６）受注者は、着工日までの余裕期間内に工事（工場製作、測量、資材の搬入、仮設物や現場事務所の設置等の準備工を含む。）に着手してはならない。ただし、現場に搬入しない資機材の準備及び労働者の手配は、この限りでない。 （７）受注者は、余裕期間の間は、現場代理人及び主任（監理）技術者の配置を要しない。 （８）受注者は、着工日までに施工計画書を提出するものとする。 （９）余裕期間制度の適用により増加する費用は、受注者の負担とする。 （１０）その他、この特記仕様書に定めのないことについては、建設工事に係る余裕期間制度（フレックス方式）試行要領によるものとする。 （着工日の期限） 契約締結日から起算して〇ヶ月以内
	3 イメージアップ 看板	・ 設置する ・ 設置しない（別途工事で設置等） ※ 監督員へ提案・協議し、設置することができる（設置費は受注者負担とする） 【参考図】 <div><div><div>野立型（大） H1400×W1100</div><div></div></div><div><div>野立型（小） H1400×W550</div><div></div></div><div><div>壁掛型 H750×W900</div><div></div></div></div> （注）看板のデザインは監督員に確認すること
	4 情報共有 システム	石川県建設工事情報共有システム実施要領（営繕工事編）に基づく。 https://www.pref.ishikawa.lg.jp/eizen/kijun/kijun.html ・ 利用する（発注者指定型） ※ 現場着手前に発注者と協議し、利用することができる（施工者希望型）

章	項 目	特 記 事 項

工事名	門前地区体育施設災害復旧工事	番号	E－03
図面名	工事仕様書（電気設備）3／3	縮尺	――
設 計	<div> 株式会社MAC建築研究所 管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健</div>		

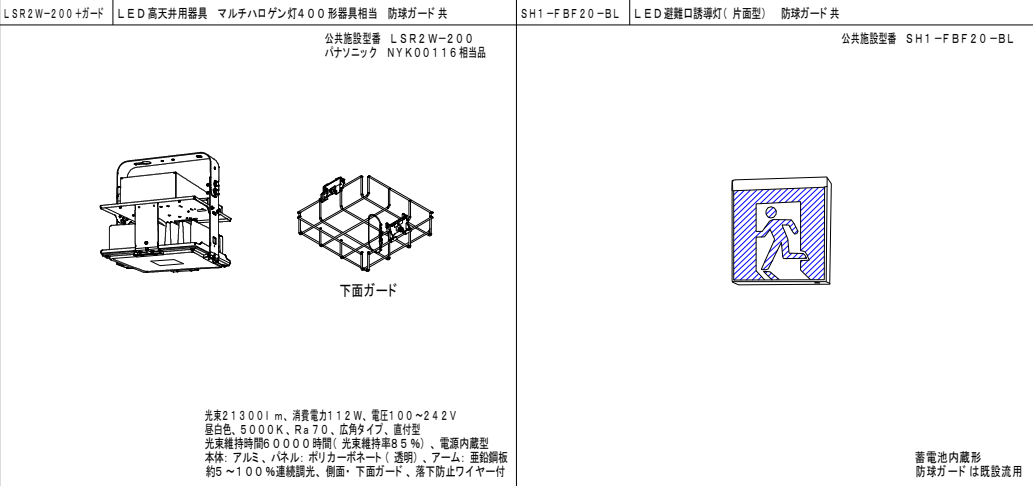


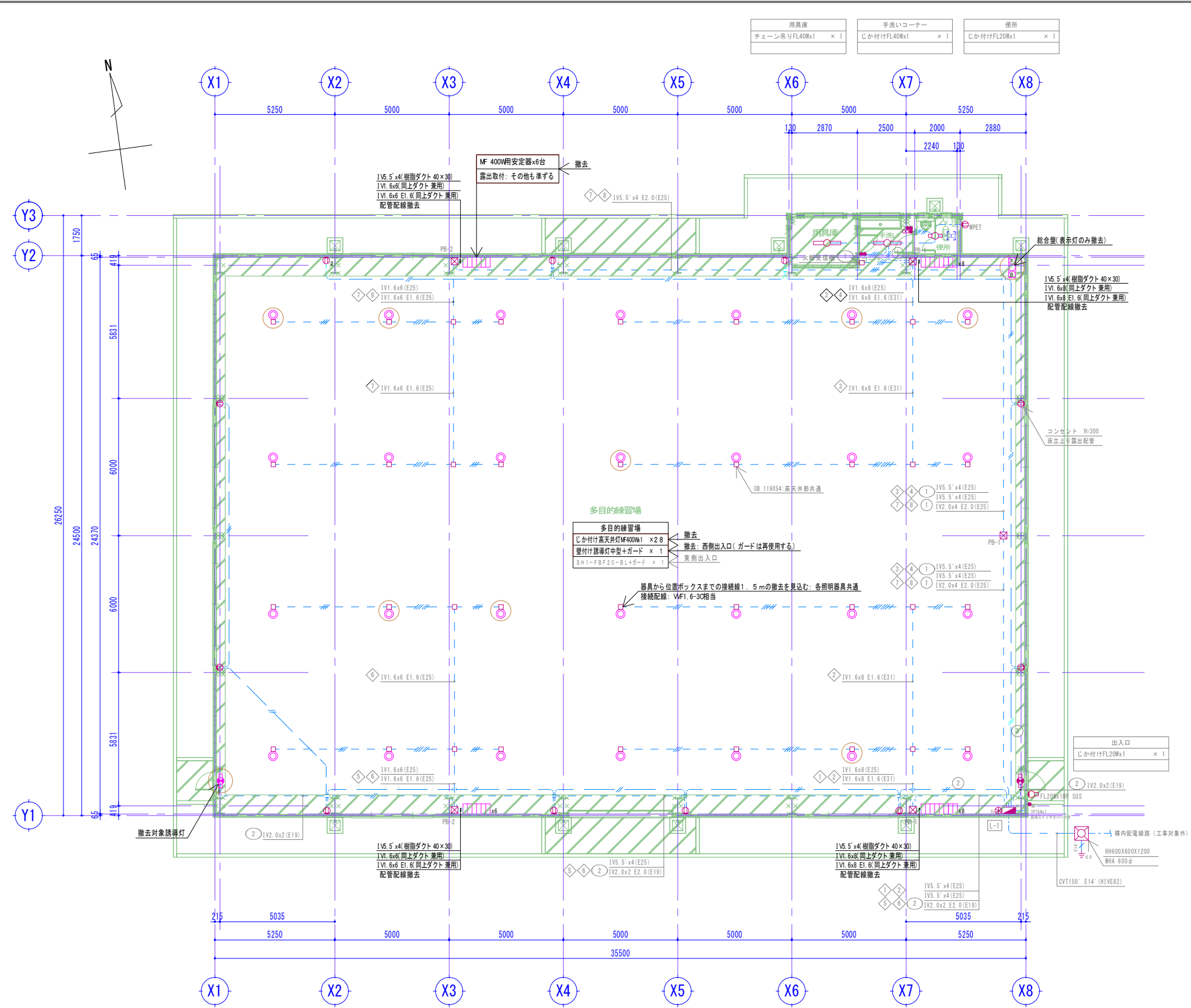
特記無き 配管配線は下記に示す (既設)		
— /// —	I V1. 6x2	E1. 6(E19)
— //// —	I V1. 6x4	E1. 6(E25)
— ///// —	I V1. 6x6	E1. 6(E25)
— /// —	I V2. 0x2	(E19)
— /// —	V V F 1. 6-2 C	
— /// —	V V F 1. 6-2 C x 2	

注 記

1. 太線で示す機器及び配線を本工事する。
2. 細線で示す機器及び配線は既存のままとする。
3. 配線の新設する場合は、配線凡例に倣いE M電線、E Mケーブルを使用する。

1. 太線で示す機器及び配線を本工事する。
2. 細線で示す機器及び配線は既存のままとする。
3. 配線を新設する場合は、配線凡例に倣いE M電線、E Mケーブルを使用する。





門前多目的体育館 1階平面図（改修前）

凡例							
記号	名称	摘要	備考	記号	名称	摘要	備考
	電灯分電盤				壁付けコンセント	2P15A x2	
	高天井用照明	H1 D 安定器別置型 HID安定器x数量	安定器はレズウエイ支持		防水コンセント	2P15A x1 ロック式 キャップ付き	
	天井付け蛍光灯照明	FL40 Wx1 灯			ブルボックス	サイズは図中に記載、WPは防水型を示す。	
	天井付け蛍光灯照明	FL20 Wx1 灯			位置ボックス		
	壁付け蛍光灯照明	FL20 Wx1 灯			ハンドホール		
	避難口誘導灯	FL20 Wx1 灯、BL 緑 蓄電池内蔵			換気扇		別途機械設備工事
	埋込スイッチ	タンブラースイッチ 1P15A x1			火災報知設備 総合盤	P型2 継受信機、ベル、表示灯収容	
	パイロットランプ				露出型		
	リモコンスイッチ	2 線式 傍記は回路数を示す					

特記無き配管配線は下記に示す			
	IV1.6x2	E1.6(E19)	
	IV1.6x4	E1.6(E25)	
	IV1.6x8	E1.6(E25)	
	IV2.0x2	(E19)	
	VVF1.6-2C		
	VVF1.6-2C x 2		
ブルボックス			
PB-1	300X300X200		
PB-2	200X200X100		

- 注 記
- 太線で示す機器及び配線を撤去する。
 - 細線で示す機器及び配線は既存のままでする。
 - 図中へ で囲った器具は目視及び点灯確認による損傷・不具合を示す。

電灯分電盤 L-1 鋼板製 屋内壁掛型（既存のまま）

備 考	負 荷 名 称	負 荷 容 量	開 閉 器	電 圧	回 路 番 号
	火災報知設備	100	MCCB2P 50/20A	100V	①

1 φ 3W 200/100V 60Hz

回 路 番 号	電 圧	開 閉 器	負 荷 容 量	負 荷 名 称	備 考
②	100V	MCCB2P 50/20A	60	誘導灯	

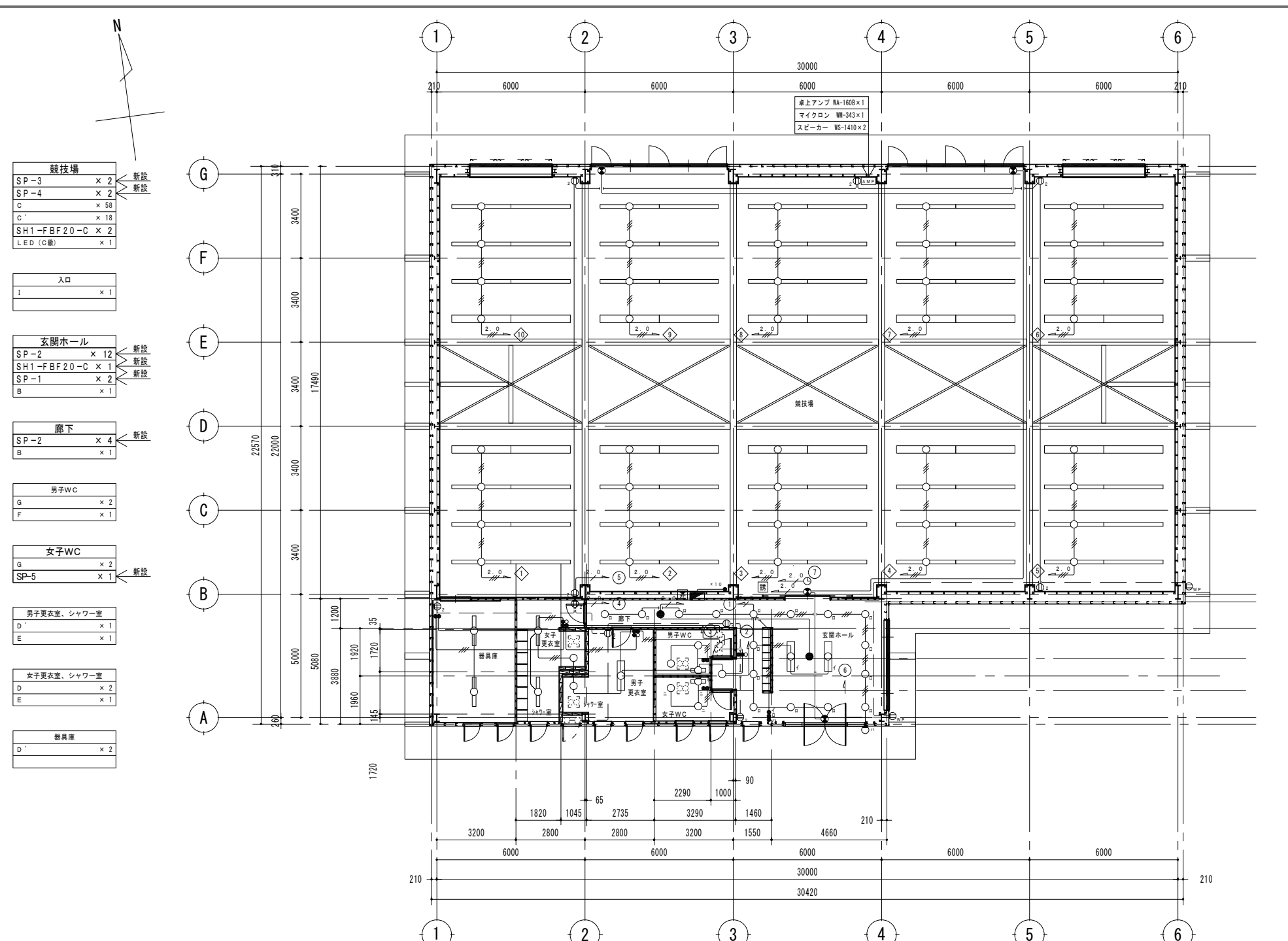
ELOCB3P 100/100A

備 考	負 荷 名 称	負 荷 容 量	開 閉 器	電 圧	回 路 番 号
	東側照明練習場手前	2,000	MCCB2P 50/20A	200V	①
	東側照明練習場中央	2,000	MCCB2P 50/20A	200V	③
	西側照明練習場手前	1,500	MCCB2P 50/20A	200V	⑤
	西側照明練習場手前	1,500	MCCB2P 50/20A	200V	⑦
	用具庫・便所照明	180	MCCB2P 50/20A	100V	①
	練習場コンセント	500	MCCB2P 50/20A	100V	③
	リモコンランス	50	MCCB2P 50/20A	100V	⑤

回 路 番 号	電 圧	開 閉 器	負 荷 容 量	負 荷 名 称	備 考
②	200V	MCCB2P 50/20A	2,000	東側照明練習場中央	
④	200V	MCCB2P 50/20A	2,000	東側照明練習場奥	
⑥	200V	MCCB2P 50/20A	1,500	西側照明練習場中央	
⑧	200V	MCCB2P 50/20A	1,500	西側照明練習場奥	
②	100V	MCCB2P 50/20A	600	練習場コンセント	
④	100V	MCCB2P 50/20A		予備	
⑥	100V	MCCB2P 50/20A		予備	

室内機器
MCCB3P3E 100AF/100AT x1
MCCB2P2E 50AF/20AT x16
リモコンランス x1
リモコンリレー ▲ x8
リモコンスイッチ 8L (盤面取付) x1

ET



門前町立武道館 平面図（改修後）

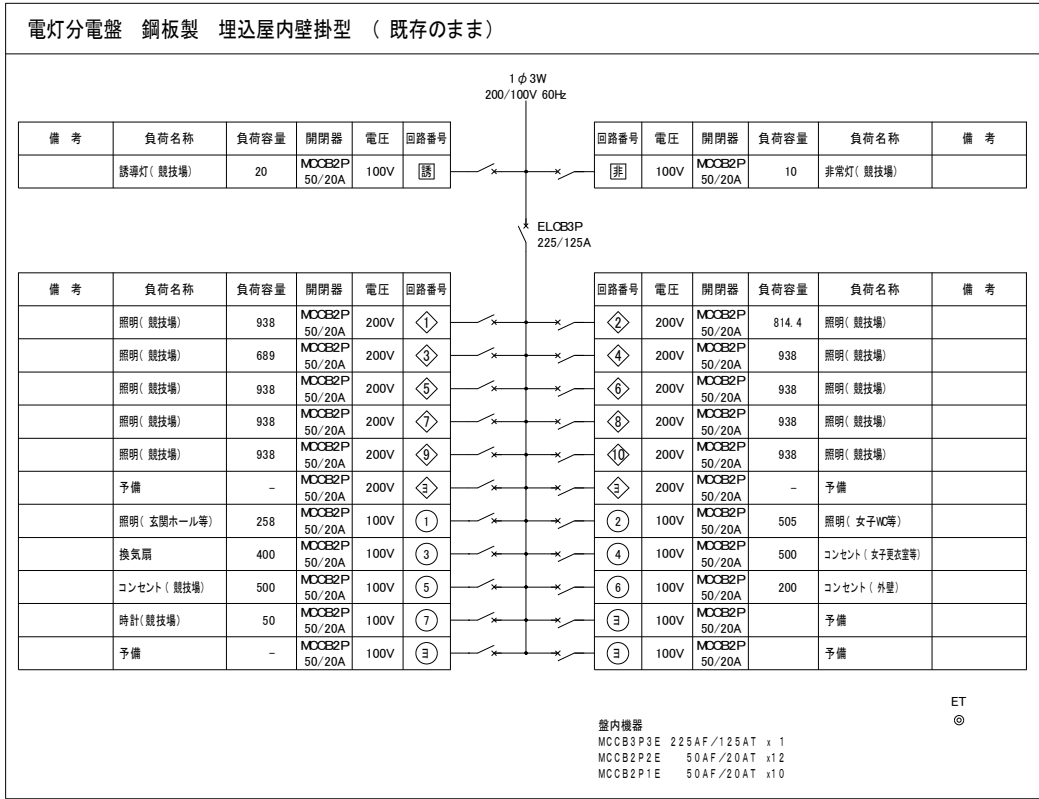
記 号	名 称
A	避難口誘導灯 FL20Wx1(中型・片面型) バッテリー内蔵
B	埋込非常照明 非常用電球 40Wx1 バッテリー内蔵
C	埋込型下面解放 FL110Wx1
C	埋込型下面解放 FL110Wx2
D	直付V型 FL40Wx1
D	直付V型 FL40Wx2
E	防水型シーリングライト FL40Wx1(WP) ガラスグローブ(乳白) アルミ(ホワイトブロンズ仕上)
F	ミラーライト FL20Wx1(プラススイッチ付) アクリルカバー(前面乳白・下面透明)
G	ツイン2重光付ダウンライト 27Wイン2x1 反射板・アルミ(銀色鏡面仕上) 枠ホワイト
H	デザインアクリルタイプ深枠埋込型 FL40Wx2 枠アルミ(銀色仕上) パツフル付パネルアクリル(プリズム)
I	防水型ウォールライト FL20Wx1 (WP) (カバーアクリル(乳白))

凡例	記 号	名 称	備 考	記 号	名 称	備 考	備 考
		電灯分電盤			埋込スイッチ	タンブラスイッチ 1P15Ax1	
		天井付け蛍光灯照明	FL110Wx2灯, LED照明		パイロットランプ		
		天井付け蛍光灯照明	FL110Wx1灯, LED照明		壁付けコンセント	2P15Ax2	
		天井付け蛍光灯照明	FL40Wx2灯, LED照明		防水コンセント	2P15Ax2 E幅付, E付き	
		天井付け蛍光灯照明	FL40Wx1灯		位置ボックス		
		壁付け蛍光灯照明	FL20Wx1灯, LED照明		換気扇		
		ダウンライト	FL27Wx1灯, LED照明				
		壁付け蛍光灯照明	FL20Wx1灯				
		避難口誘導灯	C級 蓄電池内蔵				
		非常照明	FL40Wx1灯 蓄電池内蔵				

特記無き配管記号は下記に示す(既設)	
	VVF 1.6-2C
	VVF 1.6-3C
	VVF 1.6-4C
	VVF 1.6-2C+3C
	VVF 2.0-2C
	VVF 2.0-3C
	IV 2.0x2 (E19)

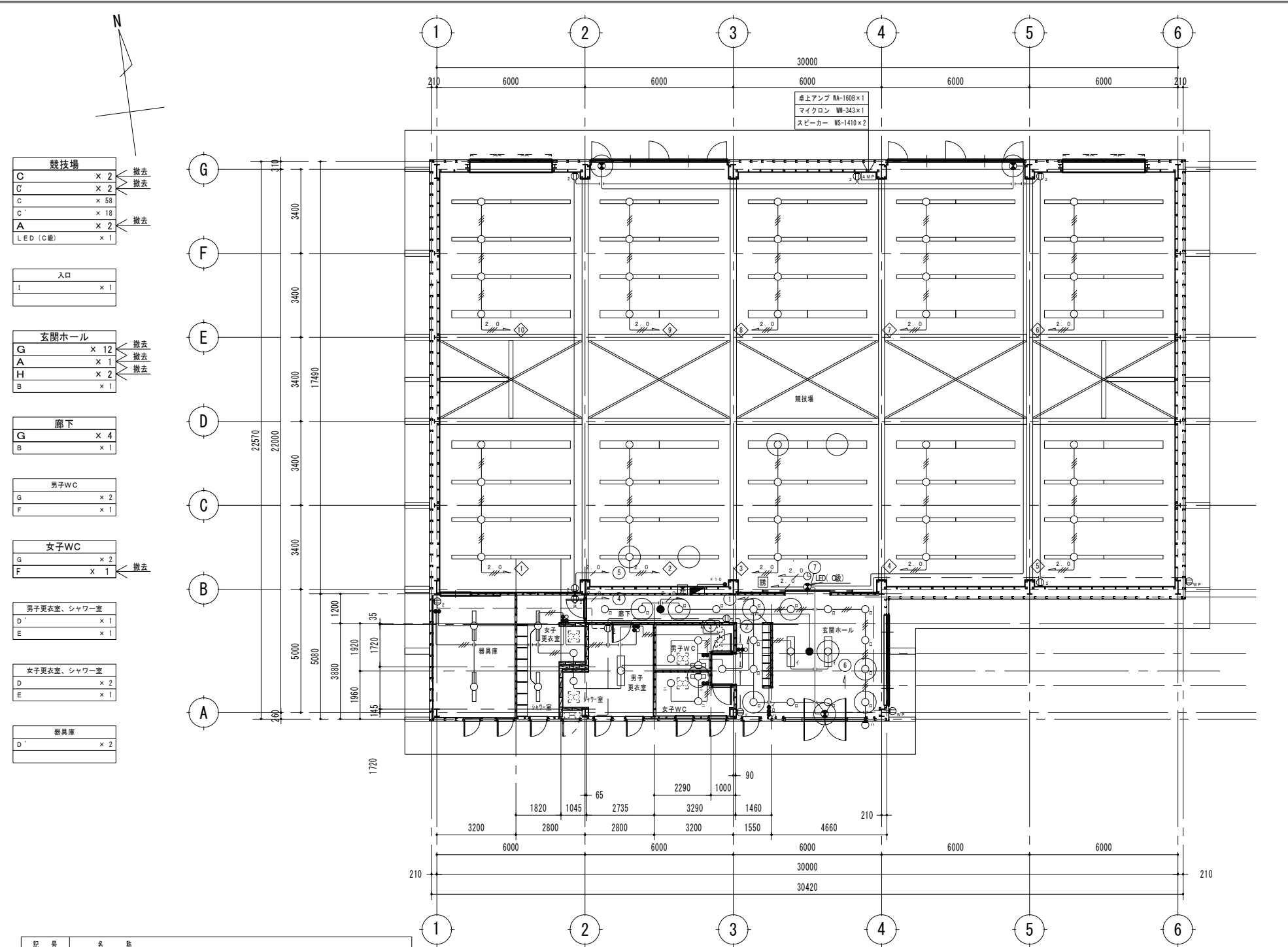
注 記

- 太線で示す機器及び配線は新設する。
- 細線で示す機器及び配線は既存のままとする。
- 配線を新設する場合は、配線凡例に倣いE M電線、E Mケーブルを使用する。



照明器具姿図

SP-1	LED4.0x2 直管LED用器具 リニューアル用 プリズムパネル	SP-2	一般タイプ ダウンライト 100形
適合ランプ: 直管LEDランプ 3800Lm 定格出力型: 電圧100~242V ランプ素材: ガラス管, Ra: 84 光束維持率: 40000時間(光束維持率85%) 種: 反射板(高反射白色粉体塗装) パネル: アクリル(プリズム) 埋込高121		LED内蔵クワンコフ(ひと粒) タイプ、電源ユニット内蔵、一般光色タイプ 3000K, Ra85、拡散タイプ 光源光束角15度、光束維持率40000時間(光束維持率85%) 器具光束: 985lm、消費電力: 7W、電圧: 100~242V 反射板(上部): プラスチック(ホワイト) 反射板(下部): 銅板(銀色鏡面仕上) 枠: 鋼板(ホワイトツヤ消し仕上)、埋込高150	
SP-3	LED110形 埋込型 下面開放 W190 (FL110Wx1灯相当)	SP-4	LED110形 埋込型 下面開放 W300 (FL110Wx2灯相当)
パナソニック 埋込XLX850RENCLE9(連結加工) 相当品		パナソニック 埋込XLX800VENCLE2(連結加工) 相当品	
2 連結器具対応 一般タイプ、5000lmタイプ 消費電力32.2W、定格出力型、電圧100~242V 本体: 鋼板(高反射白色粉体塗装) ライトバー(カバー): ポリカーボネート(乳白) 光源寿命40000時間(光束維持率85%) 昼白色(5000K)、Ra83 電源装置はライトバー側に内蔵		2 連結器具対応 一般タイプ、10000lmタイプ 消費電力62.5W、定格出力型、電圧100~242V 本体: 鋼板(高反射白色粉体塗装) ライトバー(カバー): ポリカーボネート(乳白) 光源寿命40000時間(光束維持率85%) 昼白色(5000K)、Ra83 電源装置はライトバー側に内蔵	
SP-5	LEDブラケット 20形直管蛍光灯1灯器具相当	SH1-FBF20-C	LED避難口誘導灯(片面型) + リニューアルプレート(中型誘導灯対応)
パナソニック LGB85038LE1相当品		公共施設型番 SH1-FBF20-C パナソニック FFK21747C相当品	
昼白色(5000K)、Ra83 器具光束1100lm、消費電力12W、電圧100V 壁直付型 プルスイッチ付付、拡散タイプ カバー: プラスチック(乳白) W=580 H=65 出し高64		蓄電池内蔵形	



門前武道館 平面図（改修前）

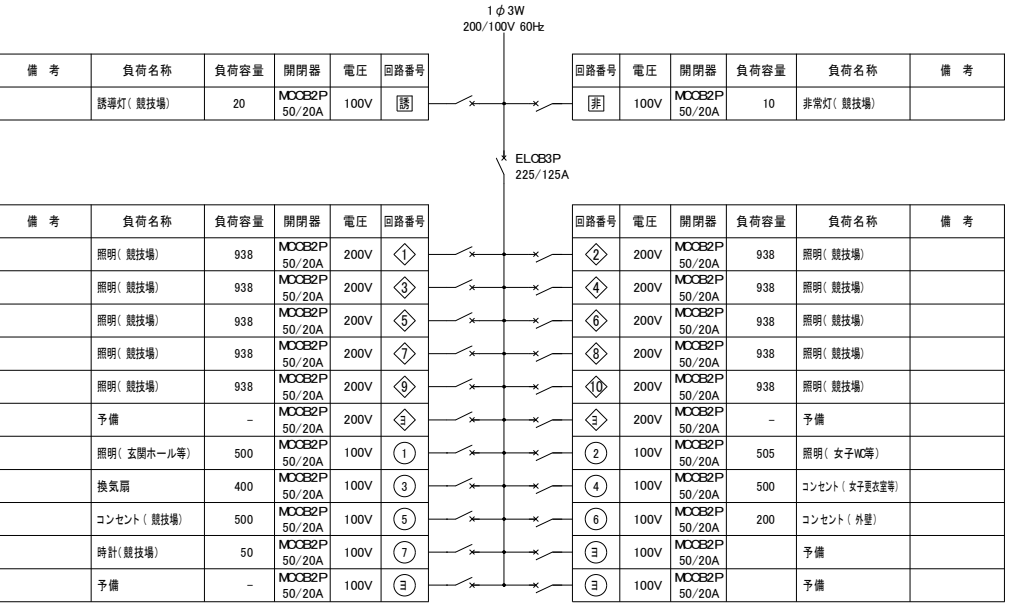
記 号	名 称
A	避難口誘導灯 FL20Wx1(中型・片面型) バッテリー内蔵
B	埋込非常照明 非常用電球 40Wx1 バッテリー内蔵
C	埋込型下面解放 FL110Wx1
C	埋込型下面解放 FL110Wx2
D	直付V型 FL40Wx1
D	直付V型 FL40Wx2
E	防水型シーリングライト FL40Wx1(WP) ガラスグローブ(乳白) アルミ(ホワイト・ブロンズ仕上)
F	ミラーライト FL20Wx1(プルススイッチ付) アクリルカバー(前面乳白・下面透明)
G	ツイン2蛍光灯ダウンライト 27Wxイン2x1 反射板・アルミ(銀色鏡面仕上) 枠ホワイト
H	デザインアクリルタイプ深枠埋込型 FL40Wx2 枠アルミ(銀色仕上) パック付パネルアクリル(プリズム)
I	防水型ウォールライト FL20Wx1 (WP) (カバーアクリル(乳白))

凡例	記 号	名 称	備 考	記 号	名 称	備 考
	電灯分電盤			●	埋込スイッチ	タンプススイッチ 1P15A x 1
	天井付け蛍光灯照明	FL110Wx2灯	ボックスなし	○	パイロットランプ	
	天井付け蛍光灯照明	FL110Wx1灯	ボックスなし	Ⓜ ₂	壁付けコンセント	2P15A x 2
	天井付け蛍光灯照明	FL40Wx2灯		Ⓜ _{2P}	防水コンセント	2P15A x 2 E幅付、ET付き
	天井付け蛍光灯照明	FL40Wx1灯		□	位置ボックス	
	壁付け蛍光灯照明	FL20Wx1灯			換気扇	
	ダウンライト	FL27Wx1灯				
	壁付け蛍光灯照明	FL20Wx1灯				
	避難口誘導灯	FL20Wx1灯 蓄電池内蔵				
	非常照明	FL40Wx1灯 蓄電池内蔵				

特記無き配管配線は下記に示す
VVF 1.6-2C
VVF 1.6-3C
VVF 1.6-4C
VVF 1.6-2C+3C
VVF 2.0-2C
VVF 2.0-3C
1V 2.0x2 (E19)

- 注 記
- 太線で示す機器及び配線は撤去する。
 - 細線で示す機器及び配線は既存のままとする。
 - 図中へ で囲った器具は目視及び点灯確認による損傷・不具合を示す。

電灯分電盤 銅板製 埋込屋内壁掛型 (既存のまま)



盤内機器
MCCB3P3E 225AF/125AT x 1
MCCB2P2E 50AF/20AT x12
MCCB2P1E 50AF/20AT x10

ET
◎

工 事 仕 様 書 (機械設備)

I. 工事概要

1. 工事名称 門前地区体育施設災害復旧工事

2. 工事場所 _____

3. 完 成 期 日 令和 年 月 日 (余裕期間制度試行工事適用の場合は、左記を完成日の期限とする。)

指定部分 ・ 無 ・ 有 (指定期日: 令和 年 月 日) 対象部分 ()

概成工期 ・ 無 ・ 有 (令和 年 月 日) (1.2.1(6))

4. 建物概要

建 物 名 称	構 造	階 数	延面積 (㎡)	消防令別表第一	備 考
		階建(地階 階.塔屋 階)			

5. 別契約の関連工事

・ 建築工事	・ 電気設備工事	・ 給排水衛生設備工事	・ 空調調和設備工事	・ 構内交換設備工事
・ 昇降機設備工事	・ 自家発電設備工事	・ 厨房機器設備工事	・ 屋外付帯工事	・ 植栽工事
・	・			

[illegible]

II. 工事仕様

1. 一般仕様

1) 図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）令和4年版」（以下、「標準仕様書」という。）及び「公共建築設備工事標準図（機械設備工事編）令和4年版」（以下、「標準図」という。）及び「公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）令和4年版」（以下「改修標準仕様書」という。）による。

2) 電気設備工事及び建築工事を本工事に含む場合は、電気設備工事及び建築工事はそれぞれの標準仕様書・改修標準仕様書を適用する。

2. 特記仕様

章は●印の付いたものを、特記事項で選択する項目は・印に○印の付いたものを適用する。

○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。

○印と⊗印の付いた場合は、共に適用する。

章	項 目	特 記 事 項
● 一 般 事 項	① 工事実績情報	請負金額 5, 0 0 0 千円以上の工事は工事実績情報登録を行う。(1.1.4)
	② 施工体制台帳の作成等	下請負に付する場合は、施工体制台帳を作成し、現場に備え付ける。また、施工体系図を工事関係者及び公衆が見やすい場所に掲げる。(1.1.5(3))
	3 他工事との 取り合い	スリーブ、箱入れなど他工事との取り合いは、別表－1 によるものとし、施工に支障をきたさない時期までに、必要な位置、大きさ等を明示し、監督員と打ち合わせる。(1.1.7)
	④ 工事の記録等	工事総合進捗表、工事日誌、工事出面報告書、打合せ記録、工事箇所図及び現況写真等を記載した工事報告書を毎月 1 5 日及び月末ごとに提出する。(1.2.4)
	⑤ 施工条件	・ 新築工事 ・ 〇 改修工事 (・ 執務並行改修 ・ 全館無人改修) (1.3.3) ・ 工事用車両の駐車場所等は図示による。 (改1.3.3) ・ ----- ・
	⑥ 発生材の処理等	・ 引渡しを要するもの (・) (1.3.9(2)) ・ 特別管理産業廃棄物 (・ 廃石綿 (エルボ保温、パッキン) ・) ・ 現場で再利用を図るもの (・) ○ 再資源化を図るもの (・ コンクリート ・ アスファルト ・ 木材) ・
	⑦ 再使用機材	○ 取外し後再使用するものは図示による。(改1.4.3)

章	項 目	特 記 事 項																				
一般	8 事前調査	石綿含有分析調査を ・ 行う（図示 箇所） ・ 行わない（改1.5.2）																				
	9 養生	1) 既存部分の養生範囲は、図示による。（改3.1.1） 2) 養生の方法及び固定された備品・ロッカー等の移動は、図示による。（改3.2.1）																				
	⑩ 撤去等	1) 回収を要する機器及び配管の内容物 ・ 冷媒 ・ 吸収液 ・ 廃油（改4.1.1(3)） 2) 石綿の撤去は、図示による。（改4.1.2(4)） 3) 機器の撤去跡の壁面等の補修は、図示による。（改4.2.4）																				
	⑪ 環境への配慮	1) 「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」（グリーン購入法）に規定される特定調達品「公共工事」等は下記による。また、判断基準を満たすことを確認する。（1.4.1(1)） ・ 吸収冷水機 ・ 水蓄熱式空調機器 ・ 送風機 ・ ポンプ ・ ガスエンジンヒートポンプ式空調機 ・ 下塗用塗料（重防食） ・ 大便器 ・ 自動洗浄装置及びその組込み小便器 ・ 自動水栓 2) 本工事の建物屋内で使用する揮発性有機化合物を放散する建築材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、次のとおりとする。（1.4.1(2)） ① JIS又はJASのF☆☆☆☆規格品 ② 建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③ 下記表示のあるJAS規格品 a. 非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b. 接着剤等不使用 c. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d. ホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 e. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 f. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用																				
	⑫ 機材の品質等	1) 本工事に使用する機材等は、設計図書に定める品質及び性能を有する新品とする。（1.4.2(1)） ただし、仮設に使用する機材は新品に限らない。 2) 機器類の能力、容量等は図示された数値以上とする。 3) 電動機出力、燃料消費量、圧力損失は、原則として図示された数値以下とする。 4) 下表に示す機材等の製造者等は次の①から⑥までの事項を満たすものとし、この証明となる資料又は外部機関が発行する評価の書面を提出して、監督員の承諾を受ける。ただし、製造者等が「建築材料・設備機材等品質性能評価事業 設備機材等評価名簿（最新年版）」（（一社）公共建築協会）等に記載されているものは、証明となる資料等の提出を省略することができる。 ①品質及び性能に関する試験データが整備されていること。 ②生産施設及び品質の管理が適切に行われていること。 ③安定的な供給が可能であること。 ④法令等で定める許可、認可、認定又は免許等を取得していること。 ⑤製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。 ⑥販売、保守等の営業体制が整えられていること。																				
		<table><tr><th colspan="4">機 材 名 称</th></tr><tr><td>ボイラー</td><td>空気調和機</td><td>ポンプ類</td><td>タンク</td></tr><tr><td>温水発生機</td><td>空気清浄装置</td><td>ダクト付属品</td><td>消火装置</td></tr><tr><td>冷凍機</td><td>全熱交換器</td><td>自動制御</td><td>厨房機器</td></tr><tr><td>冷却塔</td><td>送風機類</td><td>衛生器具ユニット</td><td>鉄鉄製ふた</td></tr></table>	機 材 名 称				ボイラー	空気調和機	ポンプ類	タンク	温水発生機	空気清浄装置	ダクト付属品	消火装置	冷凍機	全熱交換器	自動制御	厨房機器	冷却塔	送風機類	衛生器具ユニット	鉄鉄製ふた
	機 材 名 称																					
	ボイラー	空気調和機	ポンプ類	タンク																		
	温水発生機	空気清浄装置	ダクト付属品	消火装置																		
	冷凍機	全熱交換器	自動制御	厨房機器																		
	冷却塔	送風機類	衛生器具ユニット	鉄鉄製ふた																		
	13 一級技能士の適用	・ 配管（建築配管） ・ 建築板金（ダクト製作及び取付け）（1.5.2(1)） ・ 熱絶縁施工（保温保冷工事） ・ 厨房設備施工（厨房機器据付け及び整備） ・ 冷凍空調調和機器施工（冷凍機、パッケージ形空気調和機据付け、整備及び冷媒配管）																				
14 工事の創意工夫等	受注者は、工事施工において、自ら立案実施した創意工夫や工事特性に関する項目、又は地域社会への貢献として評価できる項目に関する事項について、工事完了時までに所定の様式により提出することができる。（1.5.7）																					
15 化学物質の濃度測定	建築物の室内空気中の濃度測定を ・ 行う ・ 行わない（1.5.8） 測定時期、測定対象化学物質、測定方法、測定対象室、測定箇所数等は図示による。																					
16 中間検査	中間検査の実施 ・ 無 ・ 有（時期 ・ 天井下地完了時 ・ ）（1.6.2）																					
17 完成図	原因及び製本（等倍 1 部、A3 縮小 2 部）提出する。（1.7.2）																					
18 保全に関する資料	保全に関する資料は次のとおり、 2 部提出する。（1.7.3） ①建築物等の利用に関する説明書※ ②機器取扱説明書（主要機器一覧表とも） ③機器性能試験成績書（総合試運転調整報告書とも） ④官公署届出書類 ※「建築物等の利用に関する説明書」作成の手引き 手引きのダウンロード http://www.mlit.go.jp/gobuild/kijun_kentikubuturiyou_tebiki.htm																					
19 足場類	内部及び外部足場の種別は、図示による。防護シート等の養生は図示による。（改2.2.1）																					
⑳ 工事用水等	○ 既存施設に量水器等を設けて使用できる（有償） ・ 水道局引込み等（改2.2.2）																					
21 仮設間仕切・扉	設置箇所、種別及び塗装仕上げは、図示による。（改2.2.3）																					
● 共通事項	1 総合試運転調整	下記の項目の測定報告書（測定箇所は監督員の指示による）を提出する。（1.3.3） ・ 風量調整 ・ 水量調整 ・ 室内外空気の温湿度の測定 ・ 室内気流及びじんあいの測定 ・ 騒音の測定 ・ 振動の測定 ・ 飲料水の水質測定（・ 11項目 箇所 ・ 16項目 箇所） ・ 雑用水の水質測定（建築物環境衛生管理基準による。）																				

章	項 目	特 記 事 項																		
●	2 配管等	1) 仕切弁はJIS又はJV（ ・ 5K ・ 10K（水道直結等の図示部分） ）とする。（2.2.1） 2) 絶縁継手の取付け箇所は、図示による。（2.2.12） 3) 建物導入部の変位吸収方法は次による。ただし、排水及び通気配管を除く。（2.4.1(3)） 標準図（ ・ (a)フレキシブルジョイント ・ (b) ・ (c) ）による。（2.5.7(1)） 4) 呼び径60Su以下のステンレス鋼管は、（ ・ プレス ・ 拡張管 ・ ）接合とする。（2.5.10(2)） 5) ポリエチレン管の接合方法は、（ ・ 電気融着 ・ メカニカル ）とする。（2.5.10(2)） 6) 溶接部の非破壊検査を ・ 行う ・ 行わない （2.5.15.12(9)） 7) 地中埋設標の設置箇所は、図示による。（2.7.1(8)） 8) 埋設表示用テープ（倍折）を土被り150mm程度の深さに埋設する。（2.7.1(9)） 9) 埋設深さは、図示が無い場合、車両道路（ ・ 60cm ・ ）、（2.7.2） その他（ ・ 30cm ・ ）以上とする。																		
	3 防凍保温	屋外露出部（給水管、消火管、膨張管、冷温水管、弁類を含む）は 防凍保温を行い、保温材の厚さは配管の呼び径25mm以下のものは50mm以上、それ以外は40mm以上とする。（3.1.6）																		
	4 塗装	下記の垂鉛めっきを施した露出ダクト及び露出配管は、塗装を行わない。（3.2.1.1） ○ 機械室（エレベーター機械室） ○ 電気室（自家発電室） ○ 倉庫 ・																		
	5 吊り及び支持金物の防錆	多湿トレンチ内等の吊り金物、支持金物類は溶融亜鉛めっき処理又はステンレス鋼製とする。（3.2.2.1）																		
	6 監督員事務所等	1) 監督員事務所を ※ 設けない ・ 設ける〔 ・ 1号（10㎡程度） ・ 2号（20㎡程度） 〕 2) 監督員事務所に設ける備品等（4.1.1(4)） ・ 保護帽 ・ 墜落制止用器具 ・ 長靴 ・ 合羽 ・ 机 ・ 椅子 ・ 懐中電灯 ・ 書棚 ・ 黒板 ・ 寒暖計 ・ 3) 設計図を工事監理用に製本（等倍 1 部、A3縮小 2 部）し、監督員事務所等に置く。 ・ 快適トイレを設置する ・ 快適トイレを設置しない（別途工事で設置等） ※ 監督員へ提案・協議し、快適トイレを設置することができる 快適トイレを設置した場合は、設計変更の対象とし、「快適トイレ実施要領」により費用を計上する。																		
	7 快適トイレ （快適トイレ実施要領に基づく）																			
	⑧ 工事現場の表示板	工事現場には、下記表示板を設置する。（記入例）（4.1.1(9)） <div><div>上段の地色は白色 文字は青色</div><div><table><tr><th colspan="2">工 事 名</th></tr><tr><td>工 期</td><td>自 年 月 日 ～ 至 年 月 日</td></tr><tr><td>発注者</td><td>輪島市教育委員会生涯学習課</td></tr><tr><td>設 計</td><td>（建築・設備委託業者名を記入）</td></tr><tr><td>監 理</td><td>（建築・設備委託業者名を記入）</td></tr><tr><td>施 工</td><td>建 築 （施工業者名を記入）</td></tr><tr><td></td><td>電 気 （施工業者名を記入）</td></tr><tr><td></td><td>機 械 （施工業者名を記入）</td></tr><tr><td colspan="2">この工事は、週休2日に取り組んでいます</td></tr></table></div><div>60cm ～75cm</div><div>90cm</div></div>	工 事 名		工 期	自 年 月 日 ～ 至 年 月 日	発注者	輪島市教育委員会生涯学習課	設 計	（建築・設備委託業者名を記入）	監 理	（建築・設備委託業者名を記入）	施 工	建 築 （施工業者名を記入）		電 気 （施工業者名を記入）		機 械 （施工業者名を記入）	この工事は、週休2日に取り組んでいます	
	工 事 名																			
	工 期	自 年 月 日 ～ 至 年 月 日																		
	発注者	輪島市教育委員会生涯学習課																		
設 計	（建築・設備委託業者名を記入）																			
監 理	（建築・設備委託業者名を記入）																			
施 工	建 築 （施工業者名を記入）																			
	電 気 （施工業者名を記入）																			
	機 械 （施工業者名を記入）																			
この工事は、週休2日に取り組んでいます																				
9 埋め戻し土	設計及び監理の欄は、実施設計及び工事監理が委託発注された場合。 工事名は、各工事とも共通な名称とし、各文字は角ゴシック体とする。 ※ 根切り土の中の良質土（ただし、管の周囲は山砂） ・ 山砂 （4.2.1(4)）																			
10 建設発生土の処理	・ 現場内で処理（4.2.1(4)） ・ 構内指示の場所に堆積 ・ 構内指示の場所に敷き均し ・ 場外搬出適正処理（「再生資源利用促進計画書及び実施書」を監督員に提出のこと。） ※ 指定（想定）搬出先 受入場所： 受入時間帯： 時 分～ 時 分 仮置き等：																			
11 はつり	1) 放射線透過検査を ・ 行う ※ 行わない（但し、鉄筋探査は行う。）（改4.1.2） 2) 配管貫通部の穴開けは、ダイヤモンドカッターとし、場所・口径は図示による。（改4.1.3） 3) 既設基礎の解体、撤去後の床補修は、図示による。（改4.1.5）																			
12 あと施工アンカー	1) 埋込み配管等の探査の範囲及び方法は、図示による。（改5.2.1） 2) 施工後確認試験（引張試験）を ・ 行う（ 箇所） ・ 行わない（改5.2.3）																			
13 県内産材料	石川県建設工事標準請負契約約款（以下「請負契約約款」という。）第6条の2第7項により、調達する工事材料は石川県産とするように努めることについて、工事着手前に使用材料確認願いを提出する。																			
14 材料検査	請負契約約款第13条第2項に定める監督員の検査を受けて使用する工事材料は次のとおり。 ・ 熱源機器 ・ 空調機器 ・ ポンプ類 ・ ダクト及び付属品 ・ 衛生器具 ・ タンク類 ・ 消火機器 ・ 合併処理槽 ・ 厨房機器 ・ ・																			
⑮ 工事写真等の記録	1) 国土交通省大臣官庁官庁営繕部監修「営繕工事写真撮影要領（令和3年改定）」による。																			

最終改訂 R 7 . 4 . 1	工事名 門前地区体育施設災害復旧工事	番号 M-01
	図面名 工事仕様書（機械設備）	縮尺 _____
	設 計 輪島市教育委員会	

●

共

通

事

項

章

項

目

特

記

事

項

2) 請負契約約款第14条第3項に定める工事写真は次のとおり。

・ 地中埋設配管部

・ 機器の基礎及びアンカーボルト埋設部

・ 塗装工程

・ 保温工程

・ 天井、トレンチ内の隠ぺい箇所

・ 躯体スリーブ

3) 区分による規格、枚数、部数は次による。

区 分	大きさ(mm)	撮 影 枚 数	部数	備 考
着工前	100×148程度	監督員の指示による	1部	工事期間中は現場事務所に整理保管し、
工事中	85×115程度	監督員の指示による	1部	工事完成時に提出する。
完成時	100×148程度	監督員の指示による	1部	A4用紙に整理したもの

4) 完成写真の撮影は、次による。

・ 建築写真撮影業者

※ 建築写真撮影業者以外

5) 写真はA4用紙に順序よく貼付又は印刷し、説明事項を記入して提出する。

6) 中間検査又は監督員の指示により、手直しを命じられた工事は、手直し前、中、後が判断できる写真を撮影し、報告書に添付し提出する。

16 部分払いの対象

工事材料

請負契約約款第37条第1項に定める部分払の対象とする工事材料は次のとおり。

・ 機器

・ 器具

・ 配管

・

17 火災保険等

請負契約約款第49条に定める火災保険等は次のとおり。（加入期間は着工日より引渡日まで）

※ 組立保険

・ 建設工事保険

18 耐震施工

次に示す事項を除き、すべて独立行政法人建築研究所監修の「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」による。

(3-2.1.5(5))

1) 機器の設計用標準水平震度及び耐震クラスは図示による。図示がなければ次による。

設置場所	耐震安全性の分類（重要機器、一般機器共通）	
	特定の施設	一般の施設
	・ 耐震クラスS	・ 耐震クラスA
上層階、屋上及び塔屋	2. 0	1. 5 < 2. 0 >
中間階	1. 5	1. 0 < 1. 5 >
一階及び地下階	1. 0 (1. 5)	1. 0

注1 設置場所の区分は、機器等支持する床部分により適用し、天井面（上階床）より支持する機器等は直上階を適用する。

注2 上層階は、2～6階建の場合は最上階、7～9階建の場合は上層2階、10～12階建の場合は上層3階、13階建以上の場合は上層4階とする。

注3 () 内の値は水槽類（受水槽、高置水槽、消火関係水槽、オイルタンク等）、< > 内の値は防振支持の機器（防振材・防振装置を介して設置される機器）に適用する。

2) 地域係数は1. 0とする。

3) 設計用鉛直地震力は、設計用水平地震力の1/2とし水平地震力と同時に働くものとする。

4) 1kN以下の軽微な機器（標準仕様書の影響を受けるものは除く）においても耐震を考慮し据付け又は取付けを行うものとするが、前記指針の方法によらなくてもよい。

19 名札の義務

請負金額10,000千円以上の元請工事の現場代理人及び主任（監理）技術者は顔写真付き名札を常時着用する。下記の寸法等は、参考であり、社員証等に替えることができる。

55mm

17mm

10mm

10mm

18mm

〇〇建設株式会社証

氏名 △ △ 太 郎

発行日 令和 年 月 日

代表者 □□建一

(顔写真)

カラー写真貼 付

代表印

2mm

13mm

42mm

2mm

30mm

2mm

91mm

40mm

8mm

20 退職金共済制度

受注者は建設業退職金共済制度に加入し、本工事の掛金収納書を工事請負契約締結後1ヵ月以内に監督員を通じて発注者に提出する。また、現場事務所に適用標準（シール）を掲示する。

21 過積載等の防止

1) 積載重量制限を超えて土砂等を積み込まず、また積み込ませない。

2) さし枠装着車、不表示車等に土砂等を積み込まず、また積み込ませない。

3) 過積載車両、さし枠装着車、不表示車等から土砂等の引き渡しを受ける等、過積載を助長しないようにする。

4) 取引関係のあるダンプカー一事業車が過積載を行い、又はさし枠装着車、不表示車等を土砂等運搬に使用している場合は、早急に不正状態を解消する措置を講ずる。

5) 建設発生土の処理及び資材の購入に当たって、下請事業者及び骨材納入業者の利益を不当に害することのないようにする。

6) 「土砂等を運搬する大型自動車による交通事故の防止等に関する特別措置法」（昭和42年8月2日法律第131号。以下「法」という。）の目的に鑑み、法第12条に規定する団体等の設立状況を踏まえ、同団体等への加入者の使用を促進する。

7) 1)から6)につき、元請建設業者は下請建設業者を十分指導する。

22 景観への配慮

本工事は、石川県公共事業景観形成ガイドラインに基づく下記の事業であり、景観に配慮した施工に努める。

・ 重点事業

・ 一般事業

23 総合評価方式における技術提案

「石川県建設工事総合評価方式試行要領」に基づく、「技術提案」がある場合は、提案内容を本工事において確実に履行し、「技術提案履行状況報告書」を監督員に提出の上、履行状況の確認を受ける。履行にあたり疑義が生じた場合は、速やかに監督員と協議する。

24 電子納品

※ 行う（「電子納品仕様書」による。）

・ 行わない

電子納品仕様書

1 電子納品とは、出来形管理資料や工事写真等の工事完成図書を電子データで納品するものである。

ここでの電子データとは、下表に示す各種電子納品要領等で定めるフォーマットに基づいて作成されたものを指す。

名 称
営繕工事電子納品要領（令和3年改定）
官庁営繕事業に係る電子納品運用ガイドライン【営繕工事編】（令和4年改定）

基準・要領類のダウンロード http://www.mlit.go.jp/gobuild/gobuild_tk2_000017.html

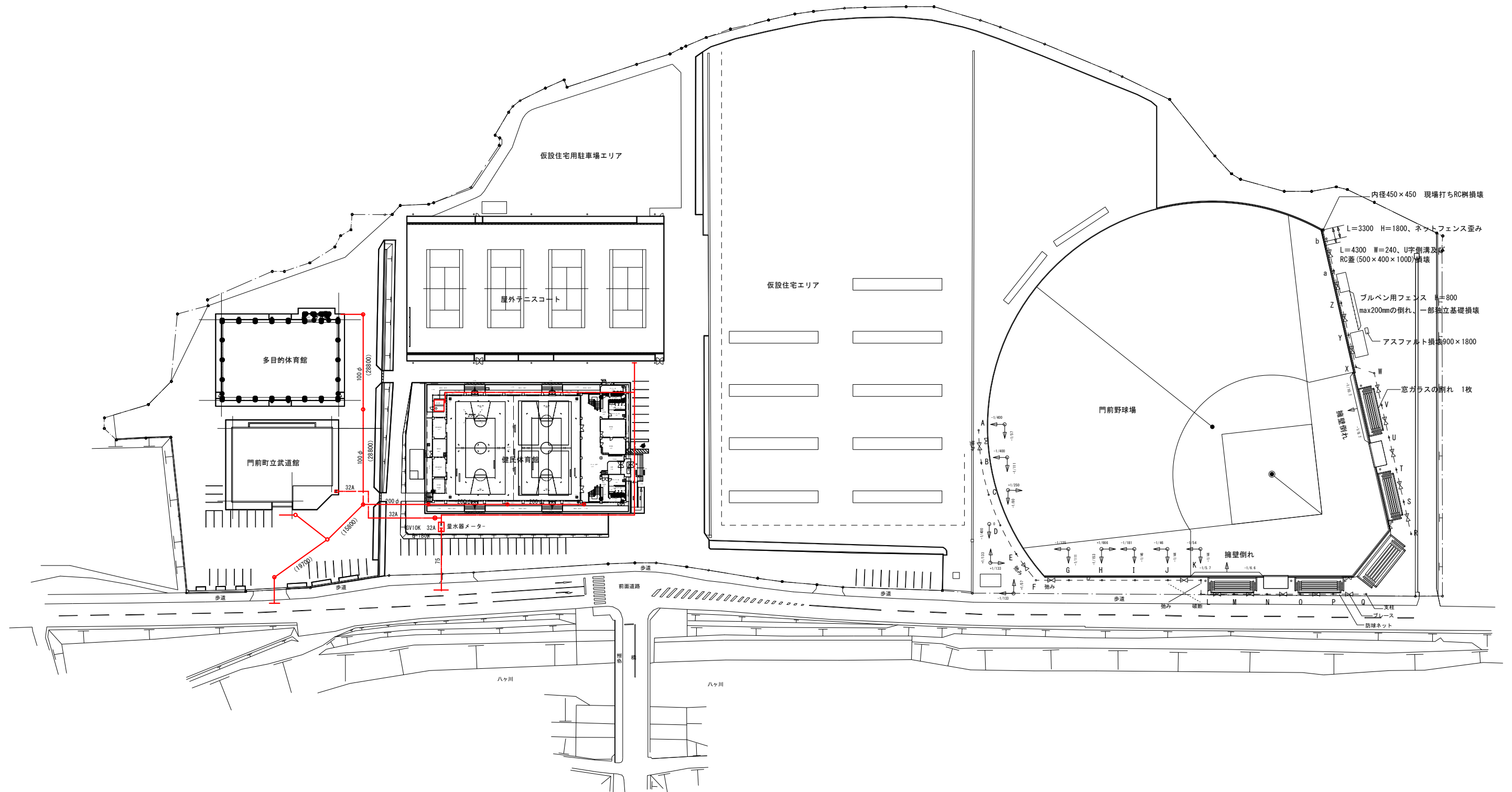
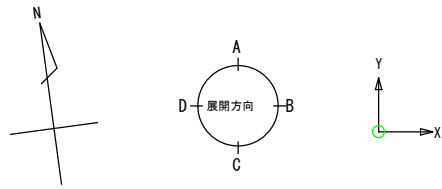
章	項 目	特 記 事 項						
●	25 公共事業労務費調査の協力	<p>2 工事関係書類の最終成果品を、従来の紙での納品と別にＣＤ－Ｒ、ＤＶＤ－Ｒ又はＢＤ－Ｒで１部納品する。</p> <p>3 工事着手時には、事前協議チェックシートを用いて事前協議を行うものとする。</p> <p>工事関係書類の内、電子データで提出するものは、事前協議にて決定する。</p> <p>受注者は、当該工事が発注者の実施する公共事業労務費調査の対象工事となった場合には、次の各号に掲げる協力をしなければならない。工期経過後においても同様とする。</p> <p>① 調査票等に必要事項を正確に記入し、発注者に提出する等必要な協力をする。</p> <p>② 調査票等を提出した事業所が、事後に発注者が行う調査・指導の対象になった場合には、その実施に協力する。</p> <p>③ 正確な調査票等の提出が行えるよう、労働基準法等に従い就業規則を作成すると共に賃金台帳を調整・保存する等、日頃より使用している現場労働者の賃金時間管理を適切に行う。</p> <p>④ 下請負に付する場合には、当該下請工事受注者（当該下請工事の一部に係る二次以降の下請負人を含む）が前各号と同様の義務を負う旨を定める。</p>						
●	26 事故の補償	<p>受注者は、雇用者等の業務に関して生じた負傷、疾病、死亡及びその他の事故に対して責任をもって適正な補償をしなければならない。（法定外の労災保険を含む）</p>						
○	1 煙道	ばい煙濃度計取付座、ばいじん量測定口、伸縮継手及び掃除口は図示による。（1.1.2）						
	2 冷媒	パッケージ形空気調和機等の冷媒の種類は、図示による。（1.7.5.15）						
	3 ダクト	<p>1) 低圧ダクト ・ アングルフランジ工法 ・ スパイラルダクト （1.14.3.1～2） ・ コーナーボルト工法（ ・ 共板フランジ ・ スライドオンフランジ ）</p> <p>2) 高圧ダクトの適用範囲は図示による。</p>						
	4 チャンバー	<p>3) 厨房用長方形排気ダクトの板厚は、標準仕様書の１ランク厚いものを使用する。（1.14.3.5）</p> <p>消音内貼りを施すチャンバーは、図示による。（1.14.6.（1））</p>						
	5 風量測定口	取り付け位置は、図示による。（2.2.5.5）						
	6 基礎	防振基礎は、図示による。（2.1.1（3））						
	7 配管材料	<p>1) 冷温水管 ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ （2-2.1.2.1）</p> <p>2) 冷却水管 ・ ポリ粉末ライニング鋼管（PB） ・</p> <p>3) 蒸気管 給気管 ・ 圧力配管用炭素鋼鋼管（黒） ※ 配管用炭素鋼鋼管（黒） （2-2.1.2.2） 還管 ※ 圧力配管用炭素鋼鋼管（黒） ・</p> <p>4) 油管 屋内 ・ 配管用炭素鋼鋼管（黒） 地中 ・ ポリエチレン被覆鋼管（PLS（PE1H）） 屋外露出、暗渠 ・ 硬質塩化ビニル被覆鋼管（PLV）</p> <p>5) 冷媒配管 ※ 断熱材被覆鋼管 ・ 鋼管 （2-2.1.2.4）</p> <p>6) 空調用ドレン管 ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） （2-2.1.2.6） ・ 硬質ポリ塩化ビニル管（VP）（屋内露出を除く）</p> <p>7) 膨張管、空気抜き管及び膨張タンクよりボイラーへの給水管は配管用炭素鋼鋼管（白）とする。鋼管用伸縮管継手の種類は図示による。（2-2.2.7.1）</p>						
	8 伸縮管継手							
	9 瞬間流量計	・ 着脱形 ・ 固定形 を設ける。（2-2.3.8）						
	10 保温	<p>1) 還りダクト（ＲＡダクト）の保温範囲は図示による。（2-3.1.4）</p> <p>2) 外気取入れダクト（ＯＡダクト）の保温範囲は図示による。</p> <p>3) 外壁１ｍ以内のダクト及び多湿箇所（図示の範囲）のダクトは保温（25mm厚）を行う。</p> <p>4) 膨張タンクよりボイラーへの補給水管の保温は、温水管の項による。</p> <p>5) 建物内の空気抜き管の保温は、温水管の項による。</p> <p>6) 建物の保温外装は次表による。</p> <table border="1"> <tr> <td>屋内露出</td><td>・ 合成樹脂製カバー</td><td>・ 保温化粧ケース</td></tr> <tr> <td>屋外露出</td><td>・ ステンレス鋼板</td><td>・ 保温化粧ケース</td></tr> </table>	屋内露出	・ 合成樹脂製カバー	・ 保温化粧ケース	屋外露出	・ ステンレス鋼板	・ 保温化粧ケース
屋内露出	・ 合成樹脂製カバー	・ 保温化粧ケース						
屋外露出	・ ステンレス鋼板	・ 保温化粧ケース						
	11 冷媒（フロン類）の回収	<p>1) 業務用冷凍空調機器等（エアコンディショナー、冷蔵機器、冷凍機器等）で「フロン排出抑制法」の対象となっている機器 （改2.4.3） ・ 「第一種フロン類充填回収業者登録通知書」の写しを提出する。 ・ 「フロン類引取証明書」を提出する。</p> <p>2) 家庭用のエアコン等で「家電リサイクル法」の対象となっている機器 ・ 「特定家庭用機器廃棄物管理票（家電リサイクル券）」の写しを提出する。</p>						
○	1 システム構成	図示による。（1.1.1（22））						
	2 電源装置	無停電電源装置は、図示による。（1.4.2.9） （1.5.1）（2.3.1）						
	3 電気計装用配線	原則、配線はＥＭケーブル等とし、天井隠ぺい部は、図示がなければケーブル配線とする。						
●	① 水栓	水抜栓を使用する系統の水栓は、固定こま式とする。台所流し水栓は泡沫式とする。（1.1.6）						
	2 量水器	<p>1) ・ 親メーター（ ・ 貸与品 ・ 買取 ） ・ 子メーター（ ・ 買取 ・ ） （2-2.2.16）</p> <p>2) 量水器樹 ・ 水道事業者指定品（ ・ 貸与品 ・ 買取 ） ・ 標準図 ＭＣ形 （1.8.4）</p>						
	3 汚水用 水中ポンプ	水中ケーブルの長さは、図示による。（1.2.7）						
	4 タンクの保温	ステンレス鋼板製タンクの保温を ・ 行う ・ 行わない （1.4.2.4）（1.4.2.5）						

章	項 目	特 記 事 項				
● 給 排 水 衛 生 設 備	5 緊急遮断弁装置	受水槽、高架水槽に設ける緊急遮断弁装置は、図示による。(2-2.2.22)				
	⑥ 配管材料	① 給水管 一般 ① ポリ粉体ライニング鋼管(PB) ・ ステンレス鋼鋼管 (2-2.1.2.5) ・ 厨房、浴室等のシンダー内配管はポリ粉体ライニング鋼管(PD) 地中 ・ ポリ粉体ライニング鋼管(PD) ・ ステンレス鋼鋼管 ・ 水道用硬質ポリ塩化ビニル管(HIVP) ・ 水道用ポリエチレン管 引込管(直結部分)は水道事業者指定のものとし、図示による。加入負担金は別途 2) 給湯管(膨張管及び補給水タンクよりボイラーなどへの補給水管を含む。) ・ 銅管(壁又は床埋設は、被覆鋼管又は保温付被覆鋼管としてもよい。) ・ ステンレス鋼鋼管 ・ 耐熱性塩化ビニルライニング鋼管 3) 消火管 一般 ・ 配管用炭素鋼鋼管(白) 地中 ・ 消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管(VS) ④ 排水管 屋内 ① 硬質ポリ塩化ビニル管(VP) ・ 耐火二層管(VP) (2-2.1.2.6) ・ リサイクル発泡三層管(RF-VP) ・ 耐火二層管(RF-VP) 屋外 ・ 硬質ポリ塩化ビニル管(VP) 圧送 ・ 硬質ポリ塩化ビニル管(VP) ・ 水配管用垂鉛めっき鋼管 ⑤ 通気管 ① 硬質ポリ塩化ビニル管(VP) ・ 耐火二層管(VP) ・ リサイクル発泡三層管(RF-VP) ・ 耐火二層管(RF-VP)				
	7 洗面器等の 排水管	洗面器及び手洗器に直結する排水管は、器具トラップより1サイズアップとする。(2-2.4.8)				
	8 満水試験継手	取付け位置は、図示による。(2-2.9.4)				
	○ ガ ス 設 備	1 配管材料	1) 屋内 ・ 配管用炭素鋼鋼管(白) (2.1.1)(3.1.1) 2) 地中 ・ ポリエチレン被覆鋼管(PLS(PE1H)) ・ ガス用ポリエチレン管 3) 屋外露出、暗渠 ・ 硬質塩化ビニル被覆鋼管(PLV) ・ 配管用炭素鋼鋼管(白)			
		2 メーター	・ 親メーター(・ 貸与品 ・) ・ 子メーター(・ 買取 ・) (2.1.7)(3.1.3.4)			
		3 ガス漏れ 警報器	・ 本工事(図示による) ・ 別途工事 (2.1.3)(3.1.3.6)			
		4 その他	ガス遮断装置、漏洩検知装置、電気防食措置、ポンベの転倒防止措置は、図示による。			
	○ 浄 化 槽 設 備	1 配管材料等	1) マンホールふた ・ ボルトロック式 ・ メーカー標準ロック式 (2.1.27) 2) 管材や弁類は、図示による。(2.1.30)			
		2 山留め	山留め壁 ・ 要(図示による。) ・ 不要 (2.2.1(㍿))			
3 維持管理		工事引渡後6ヶ月間は受注者が維持管理を行い、7条検査を受検し、その報告を行う。(2.2.2)				
(別表－1) 他工事との取り合い						
工 事 内 容		機械	電気	建築	備 考	
開 口 部	はり、床、壁の貫通部 (RC造)	スリーブ、仮枠、穴埋共	●			S造は建築
		補 強 筋			●	建築図面に図示
	天井、壁の切り込み	ボ ー ド 類 切 込 み	●			
		下 地 補 強			●	建築図面に図示
外部取付ガラリ(ダクト、チャンパの接続用フランジを含む)				●	建築図面に図示	
レンジフードファン、フード(取付枠共)及び流し台(排水トラップ共)				●		
洗面所、手洗所等の大型鏡、はめ込型洗面器用カウンター及び身障者用手すり				●		
下流し、足洗い場及び玄関の排水		●				
床、天井、壁の点検口及び床下水槽のマンホール蓋				●	建築図面に図示	
屋内外設備(受水槽、ポンプ等)の基礎				●	建築図面に図示	
屋上設備の基礎				●	建築図面に図示	
地下油タンク室等のコンクリート工事				●	建築図面に図示	
油サービスタンの防油堤				●		
ボイラーの煙突及びプロパンボンベ庫(既製のものは機械)				●		
実験台(陶器製流し、化学水栓、ガス栓及びコンセント共付属品を含む)				●		
実験台への配管及び配管接続		●				
電 気 配 線	機器付属の制御盤以降の配管配線(接地共)		●			二次側
	機器付属の制御盤への電源供給の配管配線			●		一次側
	制御盤と動力盤間の電源供給及び操作回路の渡り配管配線			●		
	機器と付属操作スイッチとの渡り配管配線			●		

工事名 門前地区体育施設災害復旧工事	番号 M-01
図面名 工事仕様書（機械設備）	縮尺 2 / 3
設 計 輪島市教育委員会	

章			章		
項 目		特 記 事 項	項 目		特 記 事 項
●	① いしかわ週休 2 日工事	工事現場において週休 2 日に取り組む「いしかわ週休 2 日工事」（以下、「週休 2 日工事」という。）の適用については、次のとおりとする。 なお、週休 2 日の工事の定義(様式)等については、石川県土木部監理課技術管理室 H P の「いしかわ週休 2 日工事 実施要領」を参照すること。 (1) 当初設計において、週単位の週休 2 日にかかる補正係数を乗じている。 (2) 受注者は、工事現場に週休 2 日に取り組むことを記載した工事看板を設置すること。 (3) 受注者は、現場着手前に休日取得〔計画〕表を作成し、監督員に提出・共有すること。 (4) 受注者は、工程に大幅な変更が生じた場合は休日取得〔計画〕表を修正し、監督員に提出・共有すること。 (5) 受注者は、工期最終日まで、に、休日取得〔実績〕表を記入し、監督員に提出すること。 (6) 分離発注工事の場合に、各発注工事単位で、現場事務所での作業を含めて 1 日を通して現場作業が無い状態も「現場閉所」とみなす。 (7) 発注者は、現場閉所の達成状況を確認し、週単位の週休 2 日に満たない場合は、月単位の週休 2 日（4 週 8 休相当）の補正に減額するものとし、月単位の週休 2 日（4 週 8 休相当）に満たない場合は、補正分を減額するものとする。 なお、週休 2 日の確保が確認できなかった場合であっても、工事成績評定で減点評価は行わない。			
	2 余裕期間制度 試行工事	1) 適用 ・ 対象 ※ 対象外 2) 余裕期間制度対象工事の内容 (1) 本工事は、円滑な工事施工体制の確保を図るため、全体工期の範囲内で受注者が工事の着手及び完成日を設定することができる工事であり、建設工事に係る余裕期間制度（フレックス方式）試行要領に基づき実施するものとする。 (2) 受注者は、契約締結日から着工日の期限までの間で、休日を除く任意の日を着工日として設定することができる。 (3) 受注者は、完成日の期限までの間で、休日を除く任意の日を完成日として設定することができる。 (4) 工期は受注者が任意で設定した着工及び完成日を記載する。 (5) 受注者は、契約時に現場代理人及び主任技術者選任届を発注者に提出しなければならない。 (6) 受注者は、着工日までの余裕期間内に工事（工場製作、測量、資材の搬入、仮設物や現場事務所の設置等の準備工を含む。）に着手してはならない。ただし、現場に搬入しない資機材の準備及び労働者の手配は、この限りでない。 (7) 受注者は、余裕期間の間は、現場代理人及び主任（監理）技術者の配置を要しない。 (8) 受注者は、着工日までに施工計画書を提出するものとする。 (9) 余裕期間制度の適用により増加する費用は、受注者の負担とする。 (10) その他、この特記仕様書に定めのないことについては、建設工事に係る余裕期間制度（フレックス方式）試行要領によるものとする。 (着工日の期限) 契約締結日から起算して〇ヶ月以内			
	3 イメージアップ 看板	・ 設置する ・ 設置しない（別途工事で設置等） ※ 監督員へ提案・協議し、設置することができる（設置費は受注者負担とする） 【参考図】 <div><div><div>野立型（大） H1400×W1100</div><div><div>未来への原「石川をつくる」</div><div>みんなであつくろう石川</div></div></div><div><div>野立型（小） H1400×W550</div><div><div>未来への原 「石川をつくる」</div><div>みんなであつくろう石川</div></div></div><div><div>壁掛型 H750×W900</div><div><div>未来への原「石川をつくる」 みんなであつくろう石川</div><div>(注) 看板のデザインは監督員に確認すること</div></div></div></div>			
	4 情報共有 システム	石川県建設工事情報共有システム実施要領（営繕工事編）に基づく。 https://www.pref.ishikawa.lg.jp/eizen/kijun/kijun.html ・ 利用する（発注者指定型） ※ 現場着手前に発注者と協議し、利用することができる（施工者希望型）			

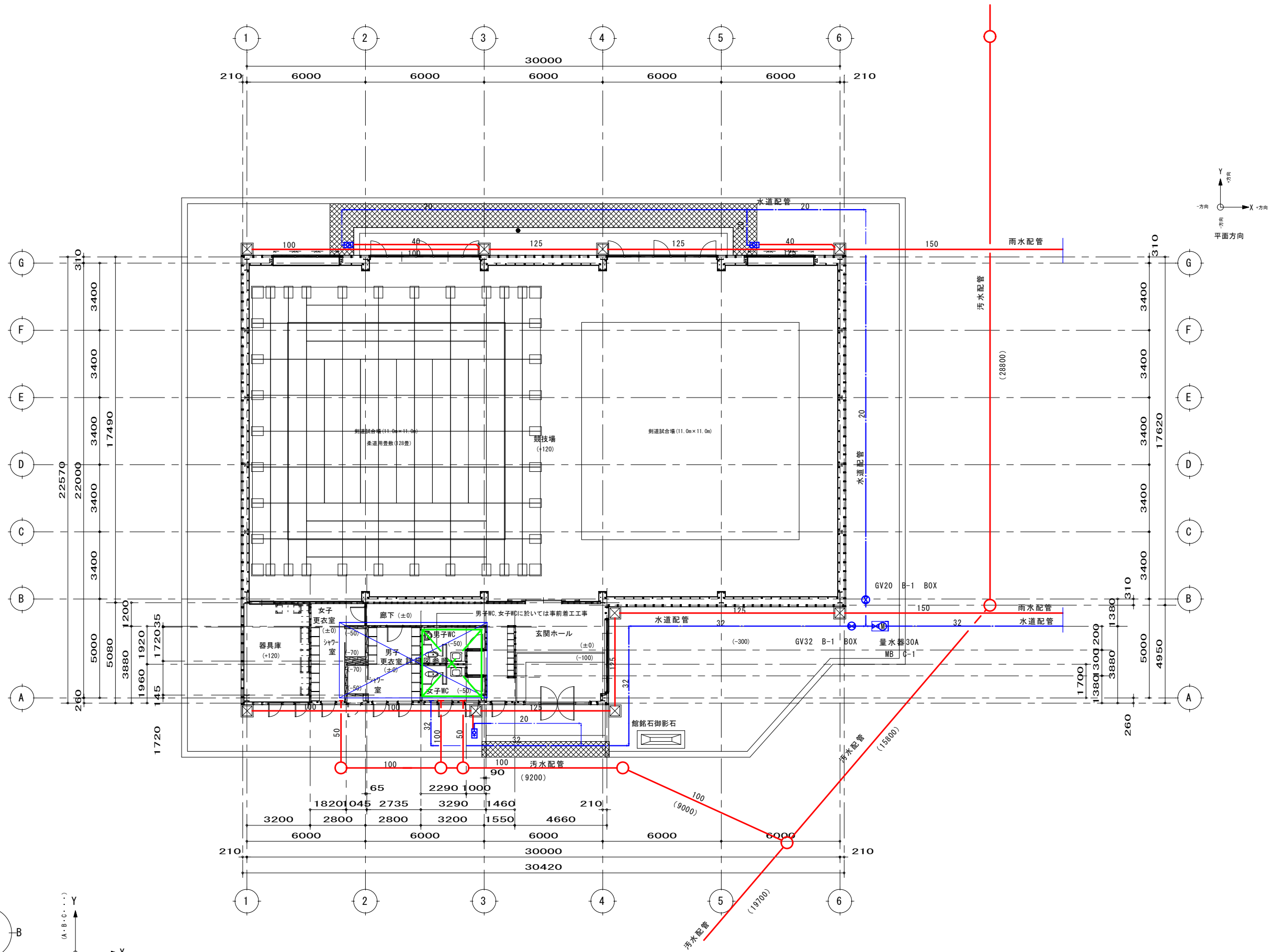
工事名 門前地区体育施設災害復旧工事	番号 M-03
図面名 工事仕様書（機械設備）	縮尺 3／3
設 計 輪島市教育総務課	



衛生器具

衛生器具名	形 式	付 属 品	室 名																台 数	備 考					
			健民体育館								武 道 館				多目的 体育館										
			男子 水飲場	男子 トイレ	男子 更衣室	女子 水飲場	女子 トイレ	女子 更衣室	事 務 室	機 械 室	男子 トイレ	男子 更衣室	女子 トイレ	P S	女子 更衣室	手 洗 場	男女 トイレ								
設計当時品番																									
		現 況	改 修 後																						
和風大便器	C75	TV152NB T82A32	既存のままとする																2	5					
洋風大便器	不明		取外し 再取付け																1	1	4				
身障者用大便器	C-48	TS140VB、TU141VS、TS40L、T52S32R、TC254Z、T53WN75	取外し 再取付け																1	1	2				
小便器	U-307C	T61B13、T621-16	取外し 再取付け																5	1	7				
洗面器	L-230	T205、T4A、T6P	取外し 再取付け																	1	1				
手洗器	L-5B	T205、T4A、TS126AS	取外し 再取付け																	1		2			
																				1					
掃除流し	SK22A	SK22A T23AE19	取外し 再取付け																1	1		2			
化粧鏡	TS119A3-3																								
シャワーセット	TBS13Z		取外し 再取付け																	3	3	1	1	8	
胴長横水栓	T23B13		取外し 再取付け																4	3	4	3	1	3	18
自在水栓	T130AR13		取外し 再取付け																						
万能ホーム水栓	T200-13		取外し 再取付け																						
給湯器	不明	32号 PS設置型 撤去、処分	32号 壁掛形高効率タイプ 耐塩害使用 ガス消費量 LPG 最大58.7kw (4.19kg/h)																		1		1		
			LPG用 使用圧力 0.3～1.0MPa 排気力バー 1φ100V 75w リモコン×2																						
天井扇	中間ファン	倉庫、シャワー室×2 WC×2	既存のままとする																				5		

配管材料(衛生設備) *継手弁類全てコア内蔵型製品使用の㊦印は該当項目)						
用途	配 管 材 料	記 号	一 般 部	理 設 部	被 覆	備 考
給水管	水道用亜鉛銅管	SGP	○	○		
	硬質ポリ塩化ビニル管	JIS K6742/P				
排水 通気管	硬質ポリ塩化ビニル管	JIS K6742/P	○	○		屋内 屋外
	排水鑄鉄管	C I P				
	配管用炭素鋼鋼管	JIS G 3456P				
	排水用鉛管	L P	○			
消 火 管	配管用炭素鋼鋼管	JIS G 3456P	○			
プロパンガス	配管用炭素鋼鋼管	JIS G 3456P	○			
給 油 管	配管用炭素鋼鋼管	JIS G 3452	○			



門前武道館 平面図 (改修前)



株式会社 MAC 建築研究所
管理建築士/一般建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE
2025. 09

■担当/CHECK
D. SATO

■製図/DRAWER
D. SATO

■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE

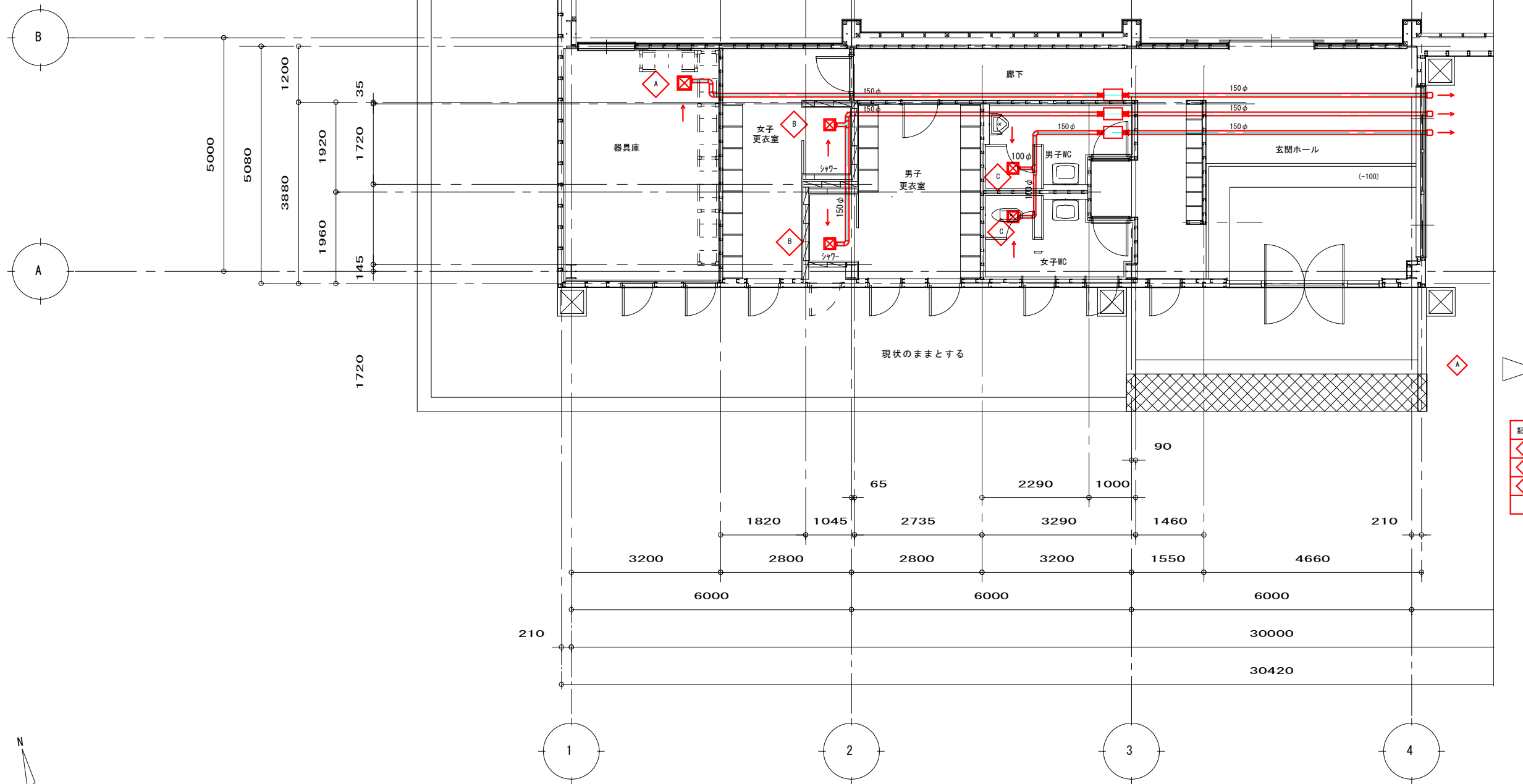
輪島市門前総合運動公園災害復旧工事 (門前武道館)

■図面名称/DRAWING-TITLE

門前町立武道館 改修前外構排水設備図

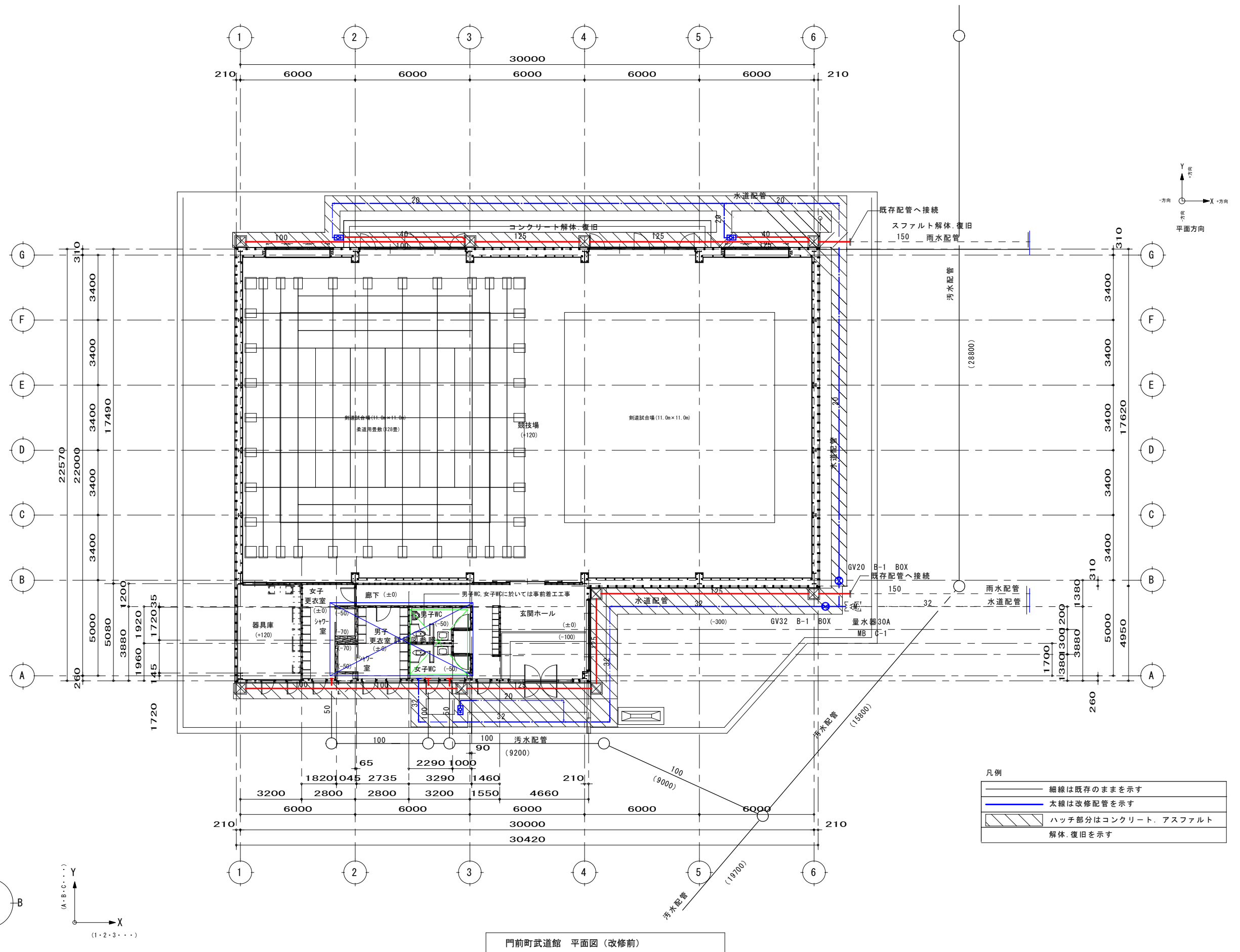
■縮尺/SCALE
1/100 (A1)
1/200 (A3)

■図番/No.
M - 16

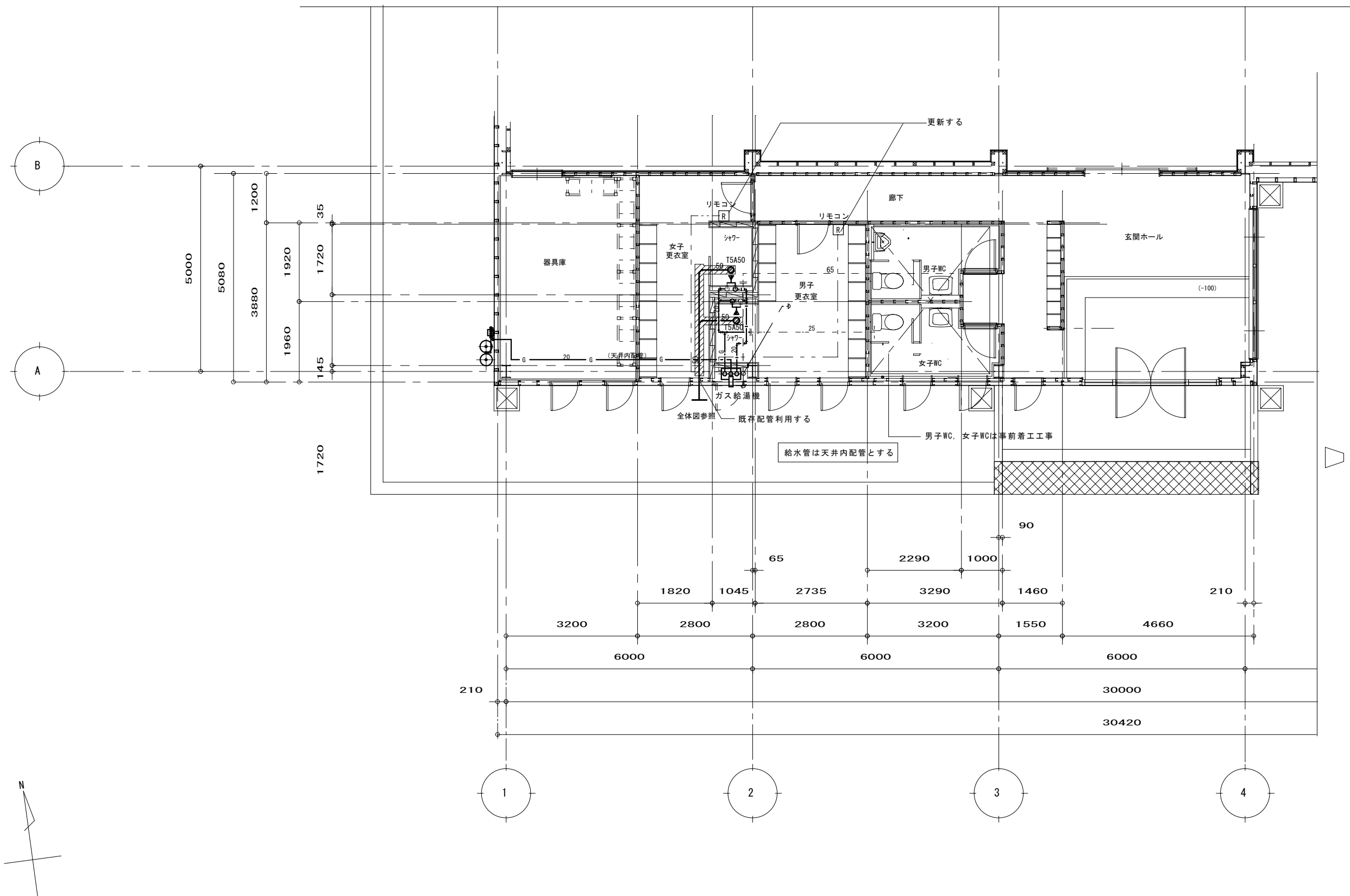


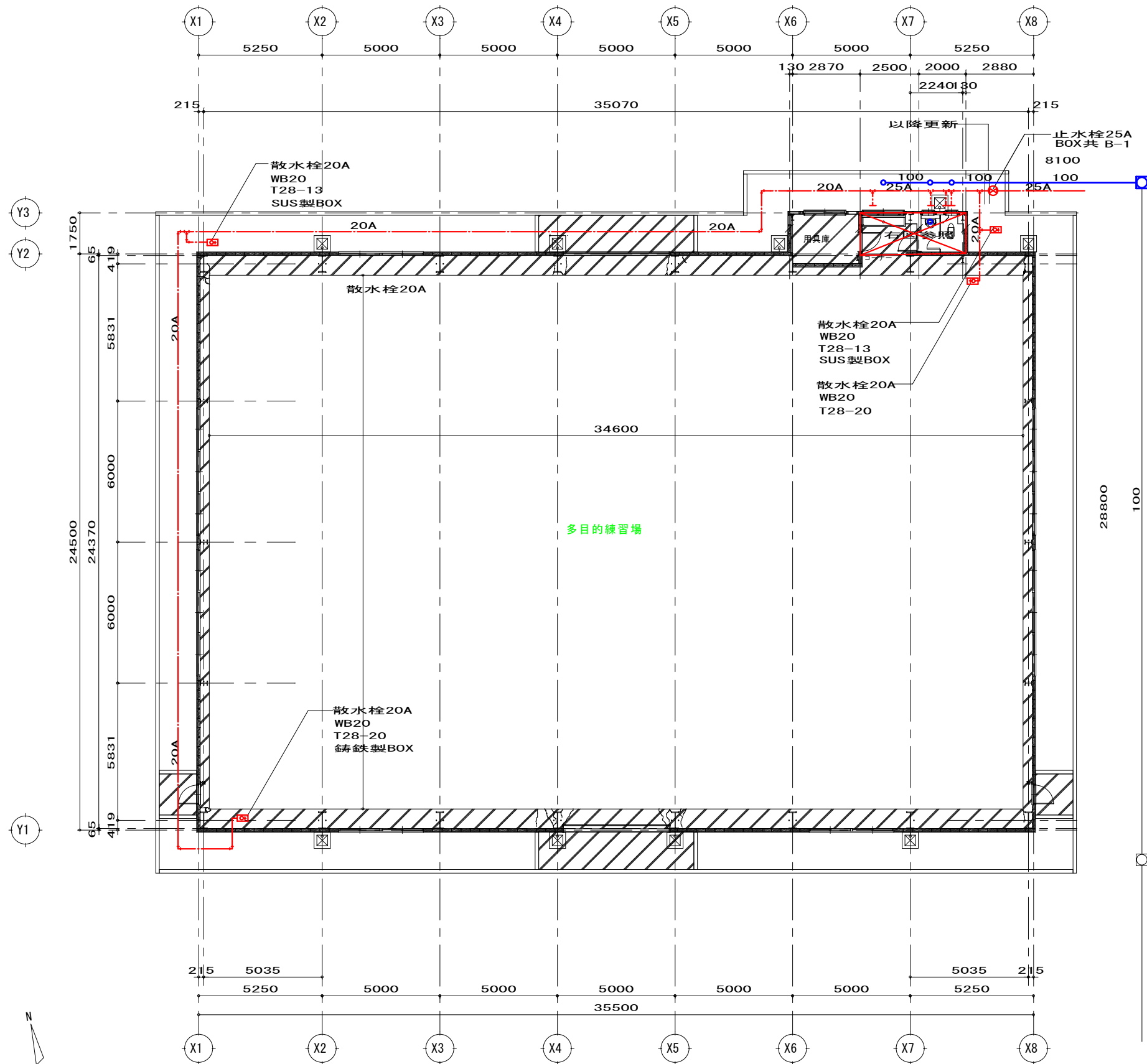
記号	名 称	仕 様	ボックス	風量	数量
A	吸込口	HS 300×300	BOX 500×500×300	260CMH	1
B	吸込口	HS 250×250	BOX 450×450×300	180CMH	2
C	吸込口	HS 200×200	BOX 400×400×300	130CMH	2



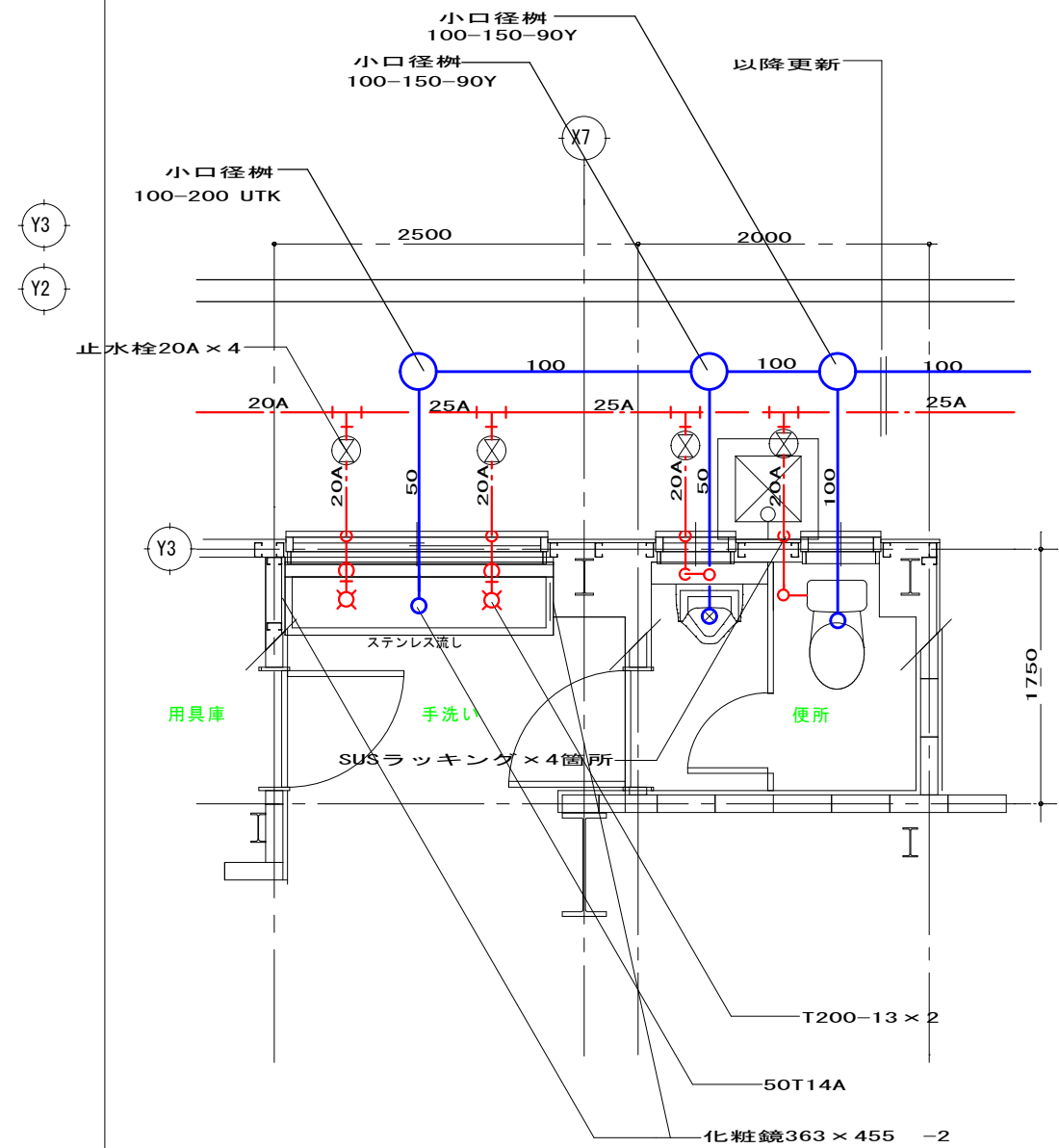


門前町武道館 平面図（改修前）





門前多目的体育館 1階平面図（改修前）



トイレ廻り詳細図
1/50 (A3)

凡例

- 太線は改修配管を示す
- 細線は既存のままを示す



株式会社 MAC 建築研究所
管理建築士／一般建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE
2025. 09

■担当/CHECK
D. SATO

■製図/DRAWER
D. SATO

■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE
輪島市門前総合運動公園災害復旧工事（門前多目的体育館）

■図面名称/DRAWING-TITLE
門前多目的体育館 1階平面図（改修後）
給排水衛生設備図

■縮尺/SCALE
1/100 (A1)
1/200 (A3)

■図番/No.
M-21